

「国語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

本調査は、生徒の国語の学力状況を調査・分析することにより、本県の今後の各学校における学習指導の改善を図ることを目的としている。

国語科の領域は「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔言語事項〕の3領域・1事項から構成されているが、本調査では、そのうちの「C読むこと」及び〔言語事項〕について、中学校までの学習内容を基礎に高校二年前半までの学習内容を、選択問題形式により問うものとなっている。

2 設問ごとのねらい、結果の分析と考察

一 漢字・語句・文法

問1は「漢字」の読み書きに関する問題で、(1)～(3)は適切な漢字を、(4)、(5)は読みを選ぶ問題。問2は「四字熟語」「慣用句」、問3は「副詞の呼応」「主述の係り受け」「適切な言葉遣い」、問4は「敬語」、問5は「品詞」の識別についての理解力をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						①	②	③	④	
一 問1	(1)	ア	④	9.5	90.4	0.1	55.6	34.4	0.4	☆
	(2)	イ	②	37.6	62.1	0.3	3.9	☆	28.9	29.2
	(3)	ウ	①	82.8	17.0	0.2	☆	4.0	12.3	0.6
	(4)	エ	④	42.4	57.2	0.4	6.5	7.6	43.0	☆
	(5)	オ	②	88.0	11.8	0.2	1.4	☆	3.2	7.2
問2	カ	③	61.4	38.1	0.5	8.8	12.5	☆	16.8	
問3	キ	①	26.2	73.5	0.3	☆	27.1	25.7	20.7	
問4	ク	④	46.3	53.3	0.4	12.3	30.2	10.7	☆	
問5	ケ	②	5.8	93.9	0.3	44.2	☆	32.4	17.3	

【考察】

問1(3)、(5)については正答率が高かった。いずれも日常において目にする機会が比較的多い字であることがその理由だと考えられる。正答率が10%に満たなかった(1)「カシ(歛)心を買おうと」については、「歛心を買う」という慣用句の理解度が低いことがその原因であろう。また、(2)「会費のスイ(出)納」、(4)「疾病(しっぺい)を予防する」はともに正答率が40%前後と、半分以上の生徒が誤答している。両者とも漢字の書き取り、読み方においては頻出問題であるが、普段の漢字学習量が十分であるかどうか懸念される結果となった。

全体的に、「漢字」の読み書きに関する問題の解答結果からは、日常生活での関わりが深いレベル以外の漢字に対して、理解している度合いが低いことが窺われる。個々の字の読み方や意味は何となく分かっているが、難解な読み方をする熟語の知識が乏しく、正確な知識の定着が不十分であると考えられる。

問2は四字熟語・慣用句の使い方の適切でないものを選ぶ問題だが、正答率は61.4%とまずまずの結果であった。ただし、②「辞書と首っぴきで」④「一騎当千の実力者」を選んだ生徒の割合もそれぞれ12.5%、16.8%と決して低くはない。該当の慣用句・四字熟語の意味を理解できていない恐れがある。問3では四つの選択肢の解答率がほぼ同程度となっており、適切な日本語の使い方が十分に定着しているとは言い難い。特に27.1%の生徒が②の「ら抜き言葉」を適切な表現として選んでいる点から、誤用の増加が懸念される。問4は敬語の問題だが、謙譲表現が正しく

用いられているかどうかを見抜く力が試された。誤答率の高かった②の「弊社」という語句は高校二年生にとってやや難度が高く、これが謙讓表現だと気付かなかった生徒も多いのではないだろうか。問5は第一問でもっとも正答率の低かった問題である。そもそも「大きな」の品詞が連体詞であることを理解できた生徒がどれほどいたのか疑問である。①「不気味な」や③「小さい」の誤答が多かったのは、単語や品詞についての理解が不十分であり、形の類似性や意味のつながりで誤った判断をしてしまったためと思われる。

㊦ 現代文 評論

問1，問2，問3は文脈を踏まえて内容を正しく理解できているか，問4は本文全体の内容を正しく捉えられているかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						①	②	③	④	
㊦	問1	コ	③	43.1	56.5	0.4	11.1	18.9	☆	26.5
	問2	サ	③	42.0	57.5	0.5	31.1	14.2	☆	12.2
	問3	シ	④	23.8	75.6	0.6	16.9	18.4	40.3	☆
	問4	ス	①	30.5	68.7	0.8	☆	23.6	29.3	15.7

【考察】

問1は，傍線部の前後に注目し，筆者の思考の流れを汲み取れるかどうかをみる問題である。読み取るべき範囲は決して広くはないが，正答率は50%に満たなかった。傍線部A「あるいは驚く人がいるかもしれません」の「驚き」が，どんな内容に対しての「驚き」だと筆者が考えているか，その読解に差が生じたようだ。「そのように筆者が推測するのはなぜか」と問われているにもかかわらず，設問の意図がつかめず，第三段落冒頭の一文「トクヴィルのいう『平等化』とは，独特の概念です。」の表現がほぼそのまま用いられている④の誤答率は26.5%に上っている。問2は，第三段落から傍線部までのやや長い範囲の読解力をみる問題である。本文中に繰り返し登場する「平等化」という語句について，トクヴィルの視点から論じた内容をここまでの部分から消化できているかが問われる。特に第三段落でその内容の説明がなされていること，さらに第五段落でも彼の主張が紹介されていることに気付けば，その二つの段落の内容をつなぎ合わせている正解③は選べるはずだ。誤答率のもっとも高かった①は，前半は本文の内容と合致するが，後半において，「基本的に平等であるからこそ，さらに自他の違いに敏感にならざるを得ない」（第五段落）といった，現代の「平等化」の特性を表す重要な部分とは逆の内容を含んでいる。部分的な理解ではなく，文脈の流れとポイントを見抜く力の涵養が求められる。問3は，傍線部の内容を説明する具体例として適切ではないものを選ぶ問題である。抽象的な内容を具体的なイメージに置き換える力をみる問題は，生徒にとっても不慣れであるためか，正答率は23.8%と第二問中最も低かった。まず傍線部の「『平等化』の革命」の内容を的確に捉えた上で，さらにそれを実際の社会現象に結び付けるという複雑な作業が必要である。今後このような問題にも対処しうる思考力の育成が必要になるだろう。問4は，本文全体の内容を正しく理解できているかをみる問題である。正答率は30.5%と厳しい結果となった。全体を把握するためには，筆者の論の組み立てとその根拠としてあげられている事実を正しく整理し理解することが必要である。誤答率のもっとも高い③は，本文中の表現や語句が用いられており，正解の①と紛らわしい内容を持つ選択肢である。内容の相違ではなく，事実の因果関係の逆転に着目する必要がある。この問題でも問2と同様，部分のみを継ぎ合わせた浅い理解では正答を導き出すことは難しい。

全体を通して見ると，まず問題文のテーマ自体が生徒にとっては難解であったのではないかとと思われる。「世界的規模での『平等化』」という，具体的なイメージに結び付きにくい抽象的なテーマでは，本文の緻密な読解はかなり難しいものとなったであろう。今後は様々な評論を読み解くことで，このような抽象的なテーマにも対応できる読解力を身に付けることが望まれる。

三 現代文 小説

問1から問4まで，登場人物の心情を正しく読み取れるかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						①	②	③	④	
三	問1	セ	②	20.9	78.5	0.6	8.4	☆	32.8	37.2
	問2	ソ	①	42.2	57.1	0.7	☆	18.3	26.6	12.2
	問3	タ	④	18.6	80.8	0.6	34.8	24.2	21.8	☆
	問4	チ	①	18.2	81.1	0.7	☆	38.7	20.4	21.9

【考察】

この場面での主要な登場人物である「つぐみ」「私」そして「恭一」の揺れ動く心情や行動を，文章から適切に読み取ることが必要となる。しかしながら正答率は問2で40%程度，それ以外は20%程度となり，大変低い水準に留まった。

問1は正答率が20.9%で，約80%が誤答である。①が誤りであることは適切に判断できているものの，「かすれた声で叫んだ」「目の下にはくまができ，……」「ものすごく熱い手」という近接している表現から，③「突然の彼女の必死さ」および④「体調がいつになく悪い」を単純に選択した傾向がうかがえる。恭一を引き止め，「私でさえつぐみの容態がすこし気がかり」になる部分から，私がつぐみの心情を気にかけていることを読み取りたい。問2は小問の中で最も正答率が高かったものの，42.2%と半数に届かなかった。「つぐみも同じだった」との本文中の表現に引きずられる形で，③「本質は同じ」の誤答が多かったと考えられる。設問である「納得した理由」を適切に考えることで，正答を導きたいところである。問3は正答率が18.6%と低い。つぐみの持つ「誰よりも深く，宇宙に届くほどの燃えるような強い魂」が「ひと目で感じ取ったもの」は何かを適切に判断する必要がある。つぐみ自身が強さを持っているからこそ，恭一の持つ同じ部分を見つけることができた読み取ることが，生徒には難しかったと考えられる。問4も正答率が18.2%と低い。②の誤答率が高く，これは傍線部より前の部分で，恭一の問いかけに対してつぐみが「だといいな」と受容的な返答をしている部分を根拠にして安易に選択してしまったと考えられる。ここでは恭一のかつての境遇である「病気で不安な時期を手術をしたことで乗り越えた経験」をつぐみが自身と重ね合わせることで，弱気だった自分に自信が芽生えてくるように，心情が変化していくことを読み取りたい。

全体的にみると，各選択肢の解答率が分散した結果となった。登場人物の境遇を適切に把握することで場面に応じた心情を理解する能力の育成が，今後必要である。

四 古文

問1は古語の知識，問2は文脈の把握，問3は敬語の理解，問4は文脈を正確に捉えられているか，問5は本文全体の内容を正しく把握しているかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)					
						①	②	③	④		
四	問1	a	ツ	③	50.5	48.8	0.7	17.5	15.4	☆	15.8
		b	テ	①	36.1	63.1	0.8	☆	16.6	26.5	20.0
	問2	ト	④	29.8	69.3	0.9	23.9	28.7	16.6	☆	
	問3	ナ	①	45.6	53.4	1.0	☆	16.9	22.1	14.5	
	問4	ニ	②	33.4	65.3	1.3	11.4	☆	22.9	31.0	
	問5	ヌ	④	34.9	62.9	2.2	19.8	23.3	19.8	☆	

【考察】

古文については、昨年度に比較して無答率が下がり、正答率が上がっている。

問1のaは、A選択者とB選択者で正答率に特に大きな差があった。共通問題としての正答率は50.5%である。bは、古語の場合は現代語の場合と用いられ方が異なる単語である。現代語のイメージに惑わされずに正確に理解するためには「さすがに」の前後の文脈を把握して考えなければならない。文脈把握の力はまだ弱く、文中での単語の用いられ方に気付く力も同様に弱いと考えられる。問2が古文設問中で最も正答率が低い。解答率も分散しており、生徒にとって難しかったようである。「おとど」の会話文のやや複雑な内容を捉えることができず、傍線部Aの主語が「北の方」であることを把握できなかった。「やんごとなき」の意味である「高貴な」から②を選ぶ解答率が比較的高く、そして、「心知る」を「気持ちを理解する」と解釈し、「え...ず(打消)」が不可能を表すことから、その結果「気持ちが理解できなくなってしまった」とある①を選ぶ解答率が次に続く。古語の代表的な意味や基本的な文法はある程度理解しているが、傍線部A中の「まづ」の意味や、リード文中の「継母の『北の方』から実子たちとは違う扱いをされ...」の情報をを用いて文章を正確に読み取ることまではできていない。問3は古文設問中2番目に正答率が高い。正答率をもっとも高かった問1aと同様にA選択者とB選択者で正答率に大きな差がある。この会話文が「北の方」が「おとど」と「姫君」の衣服について話していることや、会話文中で衣服を「着せ」る対象が「姫君」であることが読み取れていれば正解に至る。敬語の用法の理解には文脈の把握が必要であること、また、動作の受け手に対して用いられる敬語が謙譲語であることを理解させたい。問4は正答率が33.4%である。傍線部C中の「うたて」の意味を理解できなかったこと、傍線部C後の「はかばかしからず」が解釈できなかったことが考えられる。ポイントとなるこれらの単語が生徒にとってはやや難度が高かったようだ。また、正答の②と誤答の④に解答率が分散している。④は選択肢の前半が誤りであり、後半も本文中にない。④を選んだ場合、ここまでの内容理解ができていないと考えられる。問5は本文全体の内容を理解しているかをみる問題で、選択肢中で正答を選んだ率が最も高いが、正答率は34.9%であり、最後まで正確に読み取ることができていない。

全体としては、基本的な古語や文法事項の知識はある程度は身に付いていると言える。また、文章の概略や単純な会話文の展開は概ね把握できている。しかし、古典常識や単語・文法の知識の充実を図ることで、リード文を含めて文章の細部から情報を集めて本文を正確に読み取る力、文章を最後まで読み通す力は十分とは言えない。それらの力を身に付けることが今後求められる。

五 漢文（選択B問題）

問1は語句の基本的な知識を問う問題。問2は文脈を正確に捉えているかをみる問題。問3は訓点や句法に対しての基本的な知識を問う問題。問4は文章の内容を正しく捉えられているかをみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入済 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						①	②	③	④	
五	問1	ネ	④	9.6	89.3	1.1	8.7	42.8	37.8	☆
	問2	ノ	③	37.4	60.7	1.9	23.0	22.3	☆	15.3
	問3	ハ	②	35.7	62.6	1.7	35.1	☆	16.3	11.1
	問4	ヒ	②	27.6	70.6	1.8	19.1	☆	33.5	17.9

【考察】

すべての設問の正答率が40%以下という結果となった。本文は高校二年生のこの時期に読む文章としてはやや長い文章ではあるが、対句表現に気付けば理解はしやすく、あまり長さを感じないのではないかと考える。ただ、省略や指示語が多く丁寧に読み解いていかないと正確に内容を把握できないところもあり、時間が足りず曖昧なままに選択肢を選んだ者も多かったのではないだろうか。また、基本的ではあるが覚えにくい語句や句形が出題されており、低正答率につながったと思

われる。

問1は、「少」については半数以上が読めたが、「是以」については、「以是」の読みと覚え違いしているものが多く、最低の正答率となった。正確な知識を定着させてほしい。問2は、傍線部Bの前後を丁寧に読み、対応関係を捉えなければならない。父母と子の関係は六行目から九行目までで言及されており、師弟、君臣の関係は二行目から六行目までのところに対句的に並べられている。そこから父母は子どもを見捨てないが、他はそうではないという内容に気付けば③の正解を導くことができる。誤答の状況をみると、①と解答するものが多かったが、「自分の子どものできが悪い時こそ見捨てない」と「悪い時」に限定された選択肢となっていることが読み取れていない。問3は、「雖～」が逆接仮定条件を表し、これが「不肖」にかかることがわかれば、後半の句形「豈～」が反語と判断できるはずである。正答率 35.7 %と低く、基本的な句形の理解がなされていない。誤答の状況をみると、①が 35.1 %と高い。「不肖」の意味を理解しておらず、また、返り点の付け方の基本も身に付いていない者が多いようだ。問4は、「況」を用いた抑揚の句形。「AでさえBである」と抑えていい、次に「ましてCはなおさらBである」と強く揚げて言い、後文を強調する用法である。傍線部と前文との関係を丁寧に対応させれば正解を導き出せる。「其」を父母と取り違えた①より、「其賢」を「子どものできが悪い」と解釈する③の誤答率が高かった。

全体を通して言えることは、漢文における基本的な語句の読みや意味、句形の理解が不十分である。学習時間が大変不足しているとしか言いようがない。高校一年で学習した基礎的な事項をきちんと定着させることが必要である。

3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>

(1) 言語事項について

◇日常で触れる機会が多い語に関する問題ほど正答率が高い。敬語や慣用句についての基本的な知識は身に付いている。

◆書き取りや読み方も、ある程度難解なものになるとその正答率は大きく落ちてしまう。

◆使用頻度の低い品詞についての知識や、適切な日本語の使い方については十分とはいえない。

⇒課題1：社会人として必要とされる言語能力の基礎となる知識・理解が十分でなく、それらを習得する機会の確保が急務である。

<指導改善のポイント>

①基礎的・基本的な言語知識を定着させるために、普段の授業で言語事項を扱う機会をできるだけ設定する。言語事項に関する知識を身に付けることで、思考力や表現力の向上にもつながることを意識させるよう工夫する。

○漢字については、日常的に触れる機会が少ない語も含め、正確な知識の習得を目指させる。それとともに、日頃から様々な文章に触れる機会を設定し、それらをできるだけ活用して使いこなす実感を得る場面を工夫して確保する。

○慣用句、四字熟語については、それらの指導に特化した時間をあえて設ける。その際、実際の用例を提示したり、生徒に用例を想起させたりして、実際に活用する機会を設定して、具体的なイメージの備わった知識として定着させられるよう指導する。

○敬語については、その成り立ちと社会生活における意義を理解させた上で、状況に応じて適切に用いる能力を育て

(2) 現代文（評論）について

◇論理的な文章では、指示語や接続詞に注意して内容の理解に努めている。

◆論理的な文章では、抽象的な叙述から具体的なイメージをつかむ思考力に乏しい。

(3) 現代文（小説）について

◇複数の人物が登場する文章展開について、人物関係を整理しながら内容を読み取ることができる。

◆文学的な文章では、登場人物の言動からその境遇を適切に把握する力、場面に応じた心情を理解する力が不足している。

⇒課題2：部分的な理解をつないで展開をたどり、全体的な理解へと結び付けられる読解力を身に付けさせる指導の一層の工夫が必要である。

ていくのがよい。生徒の生活感覚や言語感覚等を把握した上で、指導のアプローチを工夫する。

②論理的な文章では、筆者の提示している問題意識を的確に捉えた上で、根拠として挙げられた事実や具体例を整理し、整然とした論理の筋道をたどる能力を育成できるよう工夫する。

○細部の理解が大意の把握へ、大意の把握が細部の理解へと、読解は双方向の思索により深まる。内容を把握し自分なりに再構成しようとする力、難解な表現や複雑な構成にも忍耐強く向き合い読み解こうとする態度を育てるための指導の工夫を図る。

○問題を解く際は、主張の土台となる根拠を見極めた上で、客観的視点から俯瞰的に文章を把握し、主張の要となる部分をまとめる表現力を身に付けることが必要不可欠である。

○接続詞や強調表現に着目し、本文のポイントとなる事柄と筆者の言わんとしているところを的確に見抜くスキルを身につけることも効果が期待できる。

③文学的な文章では、細やかな心理描写に注目させ、登場人物の特徴やその人間関係を的確に把握し、読解をより深いものにしていくための指導法を工夫する。

○文学的な文章では、登場人物やその関係性をより深く読み味わうために、行動の描写や会話部分に着目させる。その際、文章上の語彙をそのまま用いさせるだけでなく、自分の言葉に置き換えさせることで、語彙力を増強させるとともに深い読解力も育成する。

○生徒の実態に応じて、ブックトーク、ブックレビューや読書感想文等、さまざまな手法をもとに読書の効用を実感する機会を設定することも有効である。

(4) 古文について

◇基本的な語句や文法・句法の知識は身に付いてきている。

◇文章の内容を部分的に把握することができる。

◆細部から情報を取り出して丁寧に読み取り、内容全体を正確に読み取る力が身に付いていない。

(5) 漢文について

◇基礎的な語句の読みや意味について、高校一年での既習事項はある程度定着している。

◆重要な句形については、学習時間が確保されていないからか、定着していない。

◆指示語の内容や省略部分などを文脈に即して把握することができない。

⇒課題3：古典に親しませ、部分的な理解を丹念に積み上げていき、作品を自分の力で読み解いていくおもしろさに気付かせるような指導の工夫が求められる。

④古典作品に触れる機会を増やし、古典に親しませる学習活動や教材を工夫する。また、基礎的・基本的知識が内容理解につながることに気付かせるために、教材や指導の工夫を図る。

○古典常識や基本的な語句、文法・句法の知識の充実を図る。そのためには、現代にも生きている事項や語句に意識的に触れさせることで、古典の世界を身近に感じることができるよう工夫する。また、機械的な暗記に陥らないよう、その知識を活用して読解・鑑賞させたり、現代語訳や具体的で身近な場面との対応に気付かせたりして、読解のおもしろさを感じさせる。

○古典世界が現代にも通じるものであることを実感させるための工夫を図る。現代語の中に息づく語句や古典事項に触れさせる活動を効果的な足がかりとして設定したい。

○適宜現代語訳の利用を図ったり、身近な場面に置き換えさせたりして、古典において表現されている内容を具体的にイメージさせ、内容のおもしろさを感じさせる。

○音読や暗誦によって作品のリズムを感じながら、文章の雰囲気や話の展開を味わわせる。



生徒に、豊かな言語感覚と知識・理解に裏付けられた総合的な言語能力を身に付けさせ、生徒が主体的に学ぼうとする力を育成できるよう、バランスのよい指導を工夫する。

学 科 群 別 正 答 率 一 覧

問題番号	記号	正答	全体正答率	国語A				国語B				
				全体	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科	全体	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科	
全体平均正答率			37.8	32.5	32.9	32.5	31.5	41.2	41.1	35.8	43.8	
第1問 漢字・ 語句・ 文法	問1	ア	4	9.5	10.5	10.2	11.0	10.0	8.4	8.3	20.5	7.8
		イ	2	37.6	31.1	27.0	36.7	23.8	44.7	44.5	53.8	47.5
		ウ	1	82.8	74.2	76.1	73.7	69.6	92.1	92.1	84.6	93.0
		エ	4	42.4	35.0	31.0	38.0	37.2	50.3	49.0	82.1	71.3
		オ	2	88.0	81.1	83.2	79.7	79.4	95.5	95.5	89.7	96.3
	問2	カ	3	61.4	57.6	59.4	56.8	54.9	65.4	65.5	53.8	65.5
	問3	キ	1	26.2	24.6	24.6	24.1	26.5	27.9	27.7	25.6	32.1
	問4	ク	4	46.3	39.8	41.2	39.2	37.7	53.4	53.4	48.7	54.6
	問5	ケ	2	5.8	6.7	6.0	6.9	8.1	4.8	4.7	5.1	6.3
第2問 現代文 評論	問1	コ	3	43.1	30.4	32.0	29.1	30.1	56.8	56.6	35.9	63.4
	問2	サ	3	42.0	34.4	35.2	34.0	33.3	50.2	50.0	38.5	54.6
	問3	シ	4	23.8	19.0	18.9	19.7	16.7	29.1	28.8	17.9	35.5
	問4	ス	1	30.5	27.9	29.1	27.0	27.7	33.3	33.1	25.6	37.6
第3問 現代文 小説	問1	セ	2	20.9	25.2	23.3	26.6	26.8	16.3	16.4	7.7	14.9
	問2	ソ	1	42.2	31.8	32.7	31.2	30.8	53.7	53.7	35.9	54.0
	問3	タ	4	18.6	15.5	16.2	14.7	16.2	21.9	21.7	23.1	25.3
	問4	チ	1	18.2	20.8	20.6	20.8	21.5	15.3	15.4	23.1	11.7
第4問 古文	問1	ツ	3	50.5	33.8	34.8	33.2	32.3	68.8	68.8	53.8	70.8
	問2	テ	1	36.1	31.7	31.5	32.4	30.2	40.8	40.6	25.6	45.4
	問3	ト	4	29.8	23.7	25.2	23.0	21.3	36.4	36.3	33.3	38.6
	問4	ナ	1	45.6	36.6	39.5	34.5	34.9	55.4	55.2	53.8	60.3
	問5	ニ	2	33.4	29.5	30.7	28.8	28.1	37.7	37.7	12.8	40.5
	問6	ヌ	4	34.9	27.1	29.0	25.5	27.2	43.3	43.3	30.8	45.4
第5問 漢文(選 択型B)	問1	ネ	4						9.6	9.6	2.6	11.0
	問2	ノ	3						37.4	37.7	17.9	33.9
	問3	ハ	2						35.7	35.8	30.8	35.8
	問4	ヒ	2						27.6	27.4	33.3	29.8

「数学」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

数学Ⅰで学習する「方程式と不等式」、「二次関数」、「図形と計量」について、共通問題では、基礎的・基本的事項の理解をみることを中心とし、学校選択型問題では、複数項目を組み合わせた問題や数学的な読解力をみる問題を出題した。作成にあたり、学習指導要領「数学Ⅰ」の目標とねらいの達成状況が把握できるように、目標とねらいを分析し、参考とした。

共通問題の1～4は、「方程式と不等式」についての問題、5～7は、「二次関数」についての問題、8～10は、「図形と計量」についての問題、学校選択型A用問題の11、12は、「方程式と不等式」についての問題、13～15は、「二次関数」についての問題、16～18は、「図形と計量」についての問題、学校選択型B用問題の11、12は、「方程式と不等式」についての問題、13～15は、「二次関数」についての問題、16～18は、「図形と計量」についての問題であるが、各問の内容とねらいは、それぞれ次のとおりである。

＜共通問題＞

設問	内容とねらい
1	指数法則を理解し、指数法則を用いて計算することができるかをみる
2	無理数・根号について理解し、分母を有理化することができるかをみる
3	絶対値記号の意味を理解し、概数を捉えて無理数と整数との大小把握ができるかをみる
4	因数分解や解の公式を利用して二次方程式を解くことができるかをみる
5	二次関数の方程式を標準形に変形し、二次関数のグラフの頂点の座標を読み取ることができるかをみる
6	定義域の意味を理解し、二次関数の最大・最小についてグラフを利用して考察できるかをみる
7	二次不等式を解くことができるかをみる
8	必要な辺の長さを求め、定義により三角比の値を求めることができるかをみる
9	正弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができるかをみる
10	余弦定理を用いて三角形の内角の余弦の値を求めることができるかをみる

＜学校選択型A用問題＞

設問	内容とねらい
11	問題文の意味を理解し、数量の大小関係を不等式を用いて表すことができるかをみる
12	二次方程式について、解の種類から係数の条件を考察することができるかをみる
13	二次関数について、グラフから条件を読み取って方程式を求めることができるかをみる
14	二次関数の平行移動について理解しているかをみる
15	問題文から距離（の差）を二次関数を用いて表し、その最大値を求めることができるかをみる
16	三角比の相互関係を用いて、既知でない三角比の値を求めることができるかをみる
17	余弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができるかをみる
18	四角形の面積を、分割した二つの三角形の面積の和として求めることができるかをみる

<学校選択型B用問題>

設問	内容 と ね ら い
1 1	分母を有理化することができるか，対称式の性質を利用して式の値を求めることができるかをみる
1 2	二次方程式について与えられた条件を，二次関数のグラフを利用して考察することができるかをみる
1 3	二次関数について，グラフから条件を読み取って方程式を求めることができるかをみる
1 4	二次関数の平行移動と対称移動について理解しているかをみる
1 5	二次関数のグラフが x 軸から切り取る線分の長さを考察し，その最小値を求めることができるかをみる
1 6	余弦定理を用いて三角形の辺の長さや内角の余弦の値を求めることができるかをみる
1 7	三角比の相互関係を用いて，既知でない三角比の値を求めることができるかをみる
1 8	余弦定理や面積の公式を用いて三角形の面積を求めること，四面体の体積を2通りの方法で表現し，未知の垂線の長さを求めることができるかをみる

2 結果と考察

【共通問題】

$$1 \quad (ab^3)^2 \times (-2a)^3 = \boxed{\text{ア}} a^{\boxed{\text{イ}}} b^{\boxed{\text{ウ}}}$$

ア：① -2 ② 2 ③ -5 ④ 5 ⑤ -6 ⑥ 6 ⑦ -8 ⑧ 8

イ：① 1 ② 2 ③ 3 ④ 4 ⑤ 5 ⑥ 6 ⑦ 7 ⑧ 8 ⑨ 9

ウ：① 1 ② 2 ③ 3 ④ 4 ⑤ 5 ⑥ 6 ⑦ 7 ⑧ 8 ⑨ 9

指数法則を理解し，指数法則を用いて計算することができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
1	ア	⑦	42.5	56.4	1.1	$-8a^6b^6$ (5.8%)， $-8a^5b^9$ (5.8%)， $-8a^6b^9$ (3.3%)， $-8a^5b^5$ (3.2%) など
	イ	⑤				
	ウ	⑥				

【考察】同様のねらいで設けた昨年度の問題「 $(-ab^2)^3 \times (-3)^2$ 」の正答率は 50.1%であったことから，正答率は昨年度より 7.6 ポイント下がったことになる。昨年度の設問では，指数法則の内主に $(a^m)^n = a^{mn}$ の定着が求められたが，今年度の問題ではこれに加えて $a^m \times a^n = a^{m+n}$ の定着も求められたことが原因として考えられる。誤答例のうち， b の指数が 9 であるものは前者に， a の指数が 6 であるものは後者に，それぞれ課題があると考えられる。係数部分については昨年度と同様に正答率が 6 割を超えていることから，指数法則の意味を理解させるとともに，特に文字を扱う基本問題の練習を丁寧に繰り返し，正確な計算力を身に付けさせる必要がある。

2 $\frac{\sqrt{2}}{\sqrt{6}+2}$ の分母を有理化すると である。

- エ : ① $\frac{\sqrt{3}+\sqrt{2}}{5}$ ② $\frac{\sqrt{3}}{4}$ ③ $\frac{1}{5}$ ④ $\frac{\sqrt{3}-\sqrt{2}}{2}$
 ⑤ $\sqrt{3}+\sqrt{2}$ ⑥ $\sqrt{3}-\sqrt{2}$ ⑦ $\sqrt{3}-2\sqrt{2}$ ⑧ $\frac{\sqrt{3}+\sqrt{2}}{4}$

無理数・根号について理解し、分母を有理化することができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
2	エ	⑥	46.4	52.7	0.9	②(20.2%), ④(14.8%), ⑤(5.3%) など

【考察】最も多かった誤答②については、分母と分子に $\sqrt{6}$ のみを乗じて分母の有理化ができると考え、さらに分母について $\sqrt{6}(\sqrt{6}+2)=6+2$ のような誤った乗算を行う、間違いが二重に重なった結果と考えられる。また、誤答④については $(\sqrt{6}+2)(\sqrt{6}-2)=6-2=4$ と乗算を誤った結果であろう。分母の有理化は他科目・分野での学習の中でも頻繁に必要となることから、分母の項数に注意してその都度手順を確認させる指導も必要であると考えられる。

3 $|\sqrt{6}-3|$ の値は である。

- オ : ① 3 ② -3 ③ $\sqrt{3}$ ④ $-\sqrt{3}$
 ⑤ $3-\sqrt{6}$ ⑥ $-3+\sqrt{6}$ ⑦ $3+\sqrt{6}$ ⑧ $15-6\sqrt{6}$

絶対値記号の意味を理解し、概数を捉えて無理数と整数との大小把握ができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
3	オ	⑤	39.4	59.6	1.0	⑦(18.5%), ⑥(17.9%), ②(5.7%), ①(5.5%) など

【考察】昨年度と同一問題であるが、正答率は2.8ポイント下がった。誤答例やその内訳については昨年度と同様の結果である。「絶対値記号を外すときは）プラスはプラスに、マイナスはプラスに」という安易な覚え方のために、一つ一つの項（数）にそのような考えを適用させたと思われる誤答⑦が最も多かった。絶対値の意味理解が進むような指導が求められる。また、 $\sqrt{6}$ と3の大小関係が分からず、絶対値の記号をそのまま外したと思われる誤答⑥が多かった。平方根の意味を考えず、 $\sqrt{6}-3=3$ などと安易に計算してしまう生徒がいることにも注意したい。

4 2次方程式 $3x^2+11x-4=0$ の解は である。

- カ : ① $x=3, -4$ ② $x=\frac{1}{3}, -4$ ③ $x=-\frac{1}{3}, 4$ ④ $x=\frac{4}{3}, -1$
 ⑤ $x=\frac{2}{3}, -2$ ⑥ $x=-12, 1$ ⑦ $x=-3, 4$ ⑧ $x=-\frac{4}{3}, 1$

因数分解や解の公式を利用して二次方程式を解くことができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
4	カ	②	66.6	32.2	1.2	③(10.5%), ④(5.4%), ⑤(4.0%) など

【考察】昨年度出題された二次方程式の問題では、符号が逆になっている誤答を選択したものが13.7%であり、同様の誤答③を選択したものは10.5%に減少したものの、依然として最も多い誤答である。その他の誤答の多くは、「たすきがけ」について、そのしくみを理解して正確に因数分解することができなかった結果と考えられる。「 $AB=0$ ならば $A=0$ または $B=0$ 」の意味を再確認させ、たすきがけにおいて特に x の係数に注意を払う必要があることを繰り返し指導することが必要である。

5 2次関数 $y = 2x^2 + 8x + 4$ のグラフの頂点の座標は である。

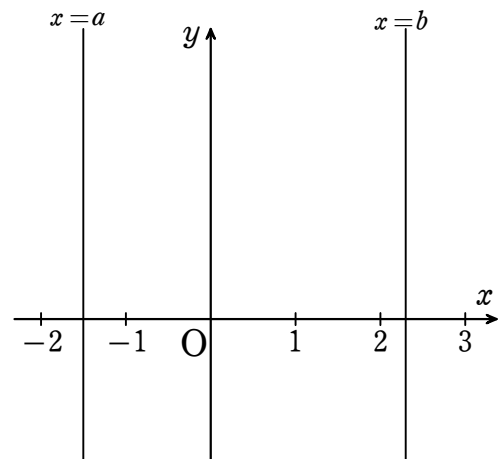
- キ : ① $(-2, 0)$ ② $(2, 0)$ ③ $(2, -4)$ ④ $(-2, -4)$
 ⑤ $(-2, -2)$ ⑥ $(-2, 4)$ ⑦ $(-4, -28)$ ⑧ $(8, 4)$

二次関数の方程式を標準形に変形し、二次関数のグラフの頂点の座標を読み取ることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
5	キ	④	37.1	61.3	1.6	③(14.0%), ⑥(12.0%), ⑧(9.6%) など

【考察】同様のねらいで設けた過去2年の問題で取り上げた二次関数(正答率)を示すと、平成21年度(1年次秋)は $y = 2x^2 - 8x - 1$ (64.7%)、平成22年度(2年次7月)は $y = x^2 - 3x + 3$ (35.8%) であった。頂点の座標等の要因から、昨年度よりも正答率が上がると予想したが、結果は横ばいであった。これらから、式の難易ではなく平方完成の定着そのものが結果の主要因であると考えられる。平方完成の定着度は、学習後急速に下がる傾向が強く、計画的に、反復して繰り返し練習させていく必要がある。

6 2直線 $x = a$, $x = b$ が右の図のような位置にあるとき、2次関数 $y = (x - 1)^2 - 2$ ($a \leq x \leq b$) が最大となるのは のとき、最小となるのは のときである。



- ク : ① $x = a$ ② $x = -1$ ③ $x = 0$ ④ $x = 1$ ⑤ $x = 2$ ⑥ $x = b$
 ケ : ① $x = a$ ② $x = -1$ ③ $x = 0$ ④ $x = 1$ ⑤ $x = 2$ ⑥ $x = b$

定義域の意味を理解し、二次関数の最大・最小についてグラフを利用して考察できるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
6	ク	①	36.6	61.4	2.0	⑥(19.7%), ⑤(14.3%), ④(11.4%) など
	ケ	④	37.5	60.3	2.2	①(16.6%), ②(16.5%), ③(10.9%) など

【考察】二次関数の方程式からグラフの凹凸や頂点の座標を読み取り，放物線の対称性を利用して解答する内容で，これらのことが身に付いていれば計算の必要もない平易な問題である。同様のねらいで設けた昨年度の問題と比較すると，やや扱いにくい印象を与えた可能性があるのは定義域の両端を文字で示した点のみである。誤答の出現順や内訳から，グラフの概形をかいて二次関数の値を考察することについては依然として定着が不十分であると言わざるを得ず，徹底した指導が求められる。

7 2次不等式 $(x+4)(x+3) < 0$ の解は である。

- コ：① $x < 3$, $4 < x$ ② $-3 < x < -4$ ③ $x < -3$, $-4 < x$ ④ $x < -4$, $-3 < x$
 ⑤ $3 < x < 4$ ⑥ $-4 < x < -3$ ⑦ $x < -4$, $x < -3$ ⑧ $-4 < x$, $-3 < x$

二次不等式を解くことができるかをみる問題

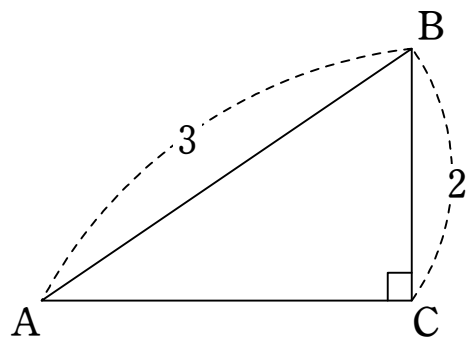
問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
7	コ	⑥	50.3	47.8	1.9	②(10.3%), ④⑦⑧(それぞれ 7.5%) など

【考察】左辺を因数分解した形で与えた易しい問題であり，正答率も比較的高かった。最も多かった誤答②は，負の数の大小関係について理解できていない，あるいはケアレスミスしてしまったことが誤った原因と思われる。その他の誤答からも，数の大小把握や，不等号を使って数の大小関係を表現することに課題がみられる。二次不等式を指導する際は，二次方程式や二次関数の基本事項に加え，数の大小関係を丁寧に確認させる指導も求められる。

8 右の図のような $AB=3$, $BC=2$, $\angle C=90^\circ$ の直角三角形 ABC において，

$$\sin A = \frac{\text{サ}}{\text{シ}} , \quad \cos A = \frac{\sqrt{\text{ス}}}{\text{セ}}$$

である。



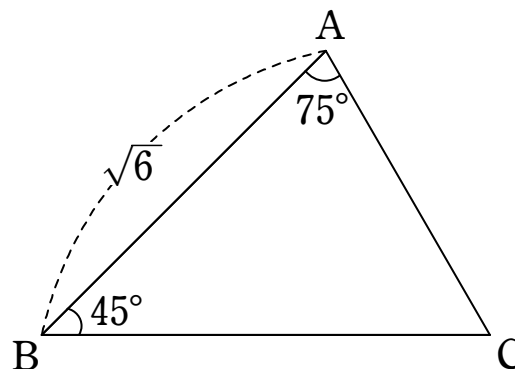
必要な辺の長さを求め，定義により三角比の値を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
8	サ	2	70.8	27.4	1.8	$\frac{3}{2}$ (16.1%) など
	シ	3				
	ス	5	50.7	45.5	3.8	$\frac{\sqrt{3}}{2}$ (7.7%), $\frac{\sqrt{2}}{3}$ (7.4%), $\frac{\sqrt{3}}{3}$ (5.7%) など
	セ	3				

【考察】 $\sin A$ の値については，正答率が高かったが，分子と分母を逆にしてしまう誤答が 16.1% もあ

り、定義の確認が必要である。 $\cos A$ の値については、 $\frac{\sqrt{3}}{5}$ のような誤答はほとんどみられず、三平方の定理が定着していないため、ACの長さを求めることができなかったことで正答率が低くなったと思われる。

9 右の図のような三角形ABCにおいて、 $AB=\sqrt{6}$ 、 $\angle A=75^\circ$ 、 $\angle B=45^\circ$ のとき、 $AC=\boxed{\text{ソ}}$ である。



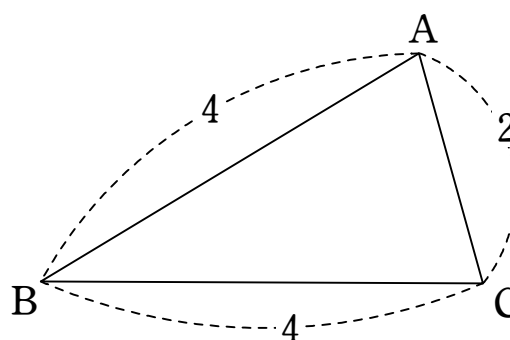
正弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
9	ソ	2	45.6	48.1	6.3	4(13.3%), 5(10.4%), 3(9.8%) など

【考察】三角形の内角の和に着目し、正弦定理を用いて解く基本的な問題であるが、共通問題10とともに復習する機会が少ない分野からの出題であり、無答率が高かった。誤答については、定理や計算の間違いというよりは、解答欄に合う適当な数を当てはめたのではないかと考えられるものである。それにしても、 $\sqrt{6}$ より大きな数が誤答の多数を占め、量感のなさも気がかりである。

10 右の図のような $AB=BC=4$ 、 $CA=2$ の二等辺三角形ABCにおいて、

$\cos B = \frac{\boxed{\text{タ}}}{\boxed{\text{チ}}}$ である。



余弦定理を用いて三角形の内角の余弦の値を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
10	タ	7	20.8	73.0	6.2	$\frac{4}{4}$ (25.9%), $\frac{1}{2}$ (12.0%), $\frac{2}{4}$ (4.6%) など
	チ	8				

【考察】余弦定理を用いて解く基本的な問題であるが、共通問題9とともに復習する機会が少ない分野からの出題であり、無答率が高かった。誤答の多くは、直角三角形とは異なることを確認せずに、三角

比の定義と混同して導いたものと考えられる。また、分数の表し方のルールからは考えられないような誤答が多く、このような答え方をする生徒も依然として多いことを認識しておきたい。正答率が低かったことの原因としては、余弦定理の利用について、辺を求めることよりも内角の余弦を求めることの方がより定着していないことも考えられる（A選択者についてみると、共通問題 10，学校選択問題 17-A の正答率はそれぞれ 3.0%，9.8%である）。

【学校選択型 A 用問題】

11-A 「倉庫内に x kg の原料があります。2 種類のコンテナ A，B があり，それぞれ 1 個につき，この原料を 3 kg，5 kg ずつ運び出すこととします。コンテナ A を y 個，コンテナ B を z 個用いて原料を運び出したとき，倉庫内の原料は，元の量の半分以上の量になっていました。」

次の①～⑧の中で，このとき， x と y と z の間に成り立っている関係を表す最も適当な不等式は である。

- ツ：① $x - (3y + 5z) \leq \frac{1}{2}$ ② $x - (3y + 5z) \leq x$ ③ $x - (3y + 5z) \leq \frac{1}{2}x$
 ④ $x - (3y + 5z) \geq \frac{1}{2}$ ⑤ $x - (3y + 5z) \geq x$ ⑥ $x - (3y + 5z) \geq \frac{1}{2}x$
 ⑦ $x - 3y + 5z \leq \frac{1}{2}x$ ⑧ $x - (y + z) \leq \frac{1}{2}x$

問題文の意味を理解し，数量の大小関係を不等式を用いて表すことができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
11-A	ツ	③	27.0	70.4	2.6	⑥(22.3%)，①(10.9%)，④(10.6%) ⑤(10.5%) など

【考察】不等号の向きが異なる誤答⑥が多く，これは，問題文の意味を正確に理解できていない，あるいはケアレスミスしてしまった結果と考えられる。「元の量の半分」という表現から『半分』のみを読み出して『 $\frac{1}{2}$ 』と表した誤答①，④も目立った。図や文字式，箇条書き等を用いて条件や状況を簡潔に整理し，確認・理解してから解答に取り組むことを丁寧に指導する必要がある。

12-A 2 次方程式 $x^2 + 6x + 2k + 1 = 0$ が重解をもつとき，定数 k の値は $k =$ である。

- テ：① $-\frac{37}{2}$ ② -4 ③ $-\frac{1}{2}$ ④ 0 ⑤ 4 ⑥ $\frac{9}{2}$ ⑦ $\frac{37}{8}$ ⑧ $\frac{35}{2}$

二次方程式について，解の種類から係数の条件を考察することができるかをみる問題

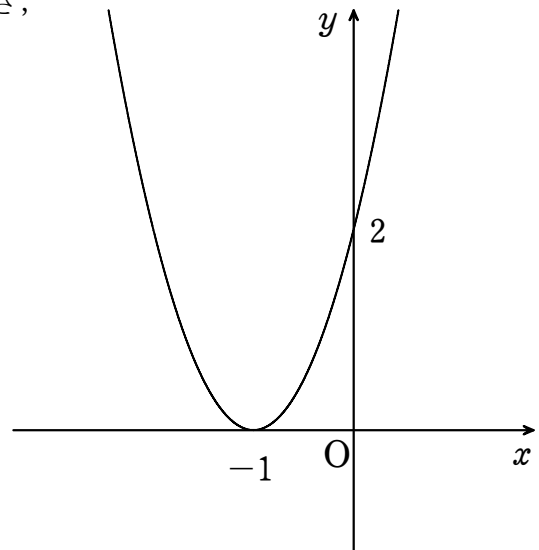
問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
12-A	テ	⑤	30.1	66.6	3.3	③(14.2%)，②(13.1%)，⑥(12.8%)， ④(11.5%) など

【考察】判別式 $D=0$ から解答を得ようとした者が 6 割程いたが、正答に至ったのはそのうちの約半数であった。複数項をまとめて係数や定数項とみること（この問題では定数項）に課題がある。例えば、誤答②, ⑥は、それぞれ $D/4=3^2-(\text{または}+)1 \times 2k-1=8-(\text{または}+)2k$, $D/4=3^2-2k=9-2k$ のようにしたことによるものと考えられる。また、誤答③, ④からは、「重解」という用語の定着に課題がみられる。分配法則利用時や移項時の計算ミスは、日頃から慎重に見直しさせる等の指導を徹底して、無くしていきたいものである。

13-A 右のグラフが 2 次関数のグラフであるとき、

その式は、 $y = \boxed{\text{ト}}x^2 + \boxed{\text{ナ}}x + \boxed{\text{ニ}}$

である。



二次関数について、グラフから条件を読み取って方程式を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
13-A	ト	2	4.0	88.4	7.6	$y=2x^2+x+2(9.9\%)$, $y=x^2+2x+2(7.9\%)$ $y=x^2+x+2(7.2\%)$, $y=2x^2+2x+2(6.1\%)$ など
	ナ	4				
	ニ	2				

【考察】グラフから頂点の座標や通る点を読み取って二次関数の方程式を導く、昨年度と同一の問題である。無答率が 4.7 ポイント下がったが、正答率も 1.2 ポイント下がった。誤答の内容や内訳は昨年度の結果とほとんど一致する。誤答も含め、 $\boxed{\text{ニ}}$ のみはグラフと y 軸との交点の座標から正しく求めたものが多かったのも昨年度と同様である。しかし、 $\boxed{\text{ト}}$ や $\boxed{\text{ナ}}$ については、標準形から一般形への変形過程での計算ミスとは考えにくいものが多く、図中の数（座標）を適当に当てはめたとされる誤答が多い。グラフ上の点の座標と方程式右辺の係数や定数項の値とがどのように対応しているのか、双方向の確認を徹底することが大切である。方程式からグラフをかくことは多いが、その逆は相対的に練習量が少ない傾向にあることにも留意して手当てする必要がある。

14-A 放物線 $y = x^2 + 2x - 1$ を x 軸方向に , y 軸方向に だけ平行移動すると、放物線 $y = x^2 - 4x + 4$ に重なる。

二次関数の平行移動について理解しているかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
14-A	ヌ	3	11.7	83.0	5.3	2 (32.8%), 6 (23.3%), 1 (8.8%), 4 (6.3%) など
	ネ	2	16.4	78.9	4.7	5 (29.6%), 1 (14.6%), 3 (13.3%), 4 (10.8%) など

【考察】昨年度とほぼ同一の問題である。解答には、標準形への変形や頂点の座標の把握が不可欠であるが、方程式（与えられた一般形）の中に現れている数を適当に加減したと思われる誤答が非常に多かった。また、標準形に変形したものの頂点の座標の符号を間違ったと思われる誤答、「 x 軸方向、 y 軸方向」という用語の理解が不十分なために正しく答えられなかったと思われる誤答もみられた。平方完成、及び方程式右辺の係数や定数項の値とグラフとの対応に関する理解の一層の定着が求められる。

15-A まっすぐな線路の横に平行に走る道路がある。この道路を秒速 8m で走っている自転車が駅を通過すると同時に、列車が駅を出発し、列車はその後、自転車に追いついた。

列車が駅を出発してから自転車に追いつくまでの間、列車は x 秒間に $2x^2$ m 進むとすると、この間で、自転車の進んだ距離と列車の進んだ距離の差は、最大 m まで広がる。

問題文から距離（の差）を二次関数を用いて表し、その最大値を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
15-A	ノ	8	24.0	68.5	7.5	4(23.0%), 6(16.1%), 2(7.0%) など

【考察】文章から必要な条件を取り出し、題意を読み取って式・グラフ等の数学的表現を用いて解決していく数学的思考力が必要な問題である。誤答としては、距離（の差）を x の式で表現できず、問題文にある数値をそのまま、あるいは加減等して答えたと思われるものが多かった。文章や式のみが提示された問題では、内容が基本的なものであっても手をつけようとしないう生徒が多いので、授業では図やグラフ等も使い、数学的な表現のよさを感じさせるとともに生徒の学習意欲を高めるような工夫をして内容の定着を図る必要がある。

16-A $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ とする。 $\cos \theta = -\frac{3}{4}$ のとき、

$$\sin \theta = \frac{\sqrt{\text{ハ}}}{\text{ヒ}}, \quad \tan \theta = -\frac{\sqrt{\text{フ}}}{\text{ヘ}}$$

である。

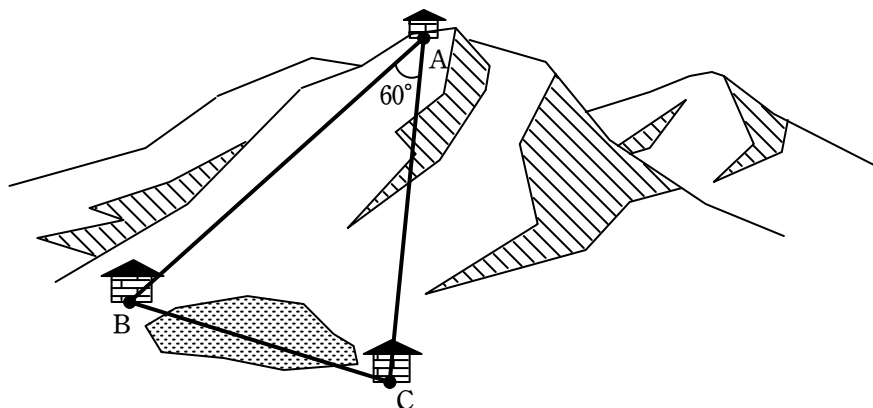
三角比の相互関係を用いて、既知でない三角比の値を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
16-A	ハ	7	17.9	73.9	8.2	$\frac{\sqrt{3}}{4}$ (8.9%), $\frac{\sqrt{3}}{2}$ (6.4%), $\frac{\sqrt{2}}{3}$ (5.6%) など
	ヒ	4				
	フ	7	16.4	74.6	9.0	$-\frac{\sqrt{3}}{4}$ (7.2%), $-\frac{\sqrt{2}}{3}$ (5.8%), $-\frac{\sqrt{4}}{3}$ (5.5%) など
	ヘ	3				

【考察】三角比の相互関係を用いて残り二つの三角比の値を求める基本問題である。同様のねらいで設けた昨年度の問題と比較し、符号の吟味が実質的に必要ない分だけ易化した問題であると思われるが、正答率はほぼ横ばいであった。 $\sin \theta$ の値を正答した者はほぼ $\tan \theta$ の値も正答していることから、誤答や無答の要因は、三角比の相互関係の公式を覚えていないことにあると考えられる。公式の活用力を高めるよう、類題に数多くあたらせる必要がある。

17-A 山頂のA地点と山のふもとの2地点B, Cをそれぞれ結ぶロープウェイの距離は、 $AB = 800 \text{ m}$, $AC = 500 \text{ m}$ であり、 $\angle BAC$ の大きさを測定したところ 60° であった。

BとCの間の距離は m である。



- ホ : ① 300 ② 400 ③ 500 ④ 600 ⑤ 700 ⑥ 800
 ⑦ 900 ⑧ 1000

余弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができるかをみる問題

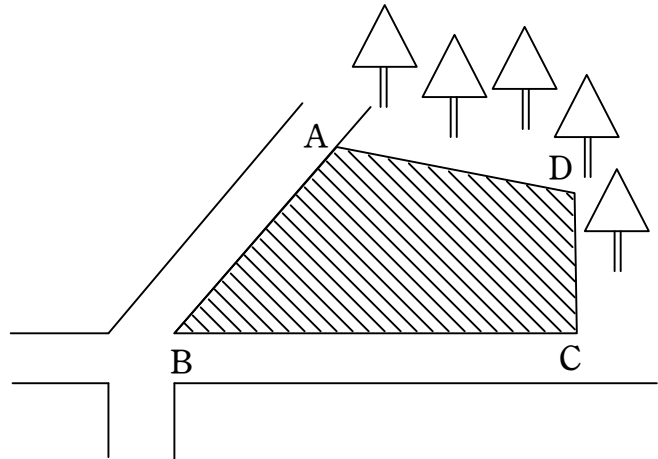
問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
17-A	ホ	⑤	9.8	84.3	5.9	①(37.5%), ②(21.4%), ④(8.8%) など

【考察】同様のねらいで設けた昨年度の問題では余弦定理を用いる平面図形の計量を取り上げ、正答率は25.4%であった。今回の正答率は9.8%と大きく下がったが、その要因は空間図形の計量を取り上げたことにあるだろう。三角比の意味をよく理解している生徒は、縮図を考えて平易な計算により正答を得たはずである。誤答については、与えられた図からおおよその距離(長さ)を予想して答えたものが

ほとんどであると考えられる。また、無答率も高い。生活の中の身近な計量の題材をできるだけ取り上げ、三角比に関わる公式・定理の有用性を実感させて学習意欲を高める工夫を図る必要もある。

18-A 下の図のような四角形の土地ABCDがある。各地点で距離や角度を測定したところ、 $AB=24\text{m}$ 、 $BC=40\text{m}$ 、 $CD=16\text{m}$ 、 $DA=24\text{m}$ 、 $\angle ABC=60^\circ$ 、 $\angle ADC=120^\circ$ であった。

この土地の面積を $S \text{ m}^2$ とすると、 $S = \boxed{\text{マミム}} \sqrt{\boxed{\text{メ}}}$ である。



四角形の面積を、分割した二つの三角形の面積の和として求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
18-A	マ	3	1.4	80.6	18.0	$222\sqrt{2}$ (0.9%), $104\sqrt{2}$ (0.8%), $104\sqrt{3}$ (0.7%) など
	ミ	3				
	ム	6				
	メ	3				

【考察】与えられた二つの角度を考慮して線分ACを引き、四角形を二つの三角形に分割することができれば、面積の公式を用いて計算することは難しくない。しかし、正答率は1.4%と非常に低く、無答率は18.0%と高かった。誤答は極めて多様であり、 $\boxed{\text{マミム}}$ に四角形の4辺の長さの和である「104」を回答したものもみられた。最後の設問であったこともこのような結果の一要因ではあろうが、多角形を三角形に分割するという考え方や三角形の面積の公式について一層の定着を図る指導が必要である。

【学校選択型B用問題】

11-B $x = \frac{1}{2-\sqrt{3}}$ 、 $y = \frac{1}{2+\sqrt{3}}$ のとき、 $\sqrt{x} + \sqrt{y} = \boxed{\text{ツ}}$ である。

ツ：① $\frac{1}{2}$ ② 2 ③ 4 ④ 6 ⑤ ± 2 ⑥ $-\sqrt{6}$ ⑦ $\sqrt{6}$ ⑧ $\pm\sqrt{6}$

分母を有理化することができるか、対称式の性質を利用して式の値を求めることができるかをみる

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
11-B	ツ	⑦	9.9	86.9	3.2	③ (27.0%), ②(20.2%), ⑤(16.3%) など

【考察】はじめに基本対称式の値を二つ求め、それらを用いて最終的な正答を得るという、やや手順の多い問題である。共通問題2の正答率からは、分母を有理化して x と y の値を整理することまではできた者が相当数いると思われ、誤りの主な原因はその後の処理が正しくできなかったことにあるのではないかと。誤答③、②、⑤はそれぞれ $x+y$ 、 $\sqrt{x+y}$ 、 $\pm\sqrt{x+y}$ の値である。

12-B 2次方程式 $x^2+2kx-k+6=0$ が異なる2つの負の解をもつときの k の値の範囲は である。

- テ：① $2 < k < 6$ ② $2 < k$ ③ $k < 6$ ④ $k > 0$
 ⑤ $k < -3$ ⑥ $-3 < k < 2$ ⑦ $0 < k < 6$ ⑧ $k < -3, 2 < k$

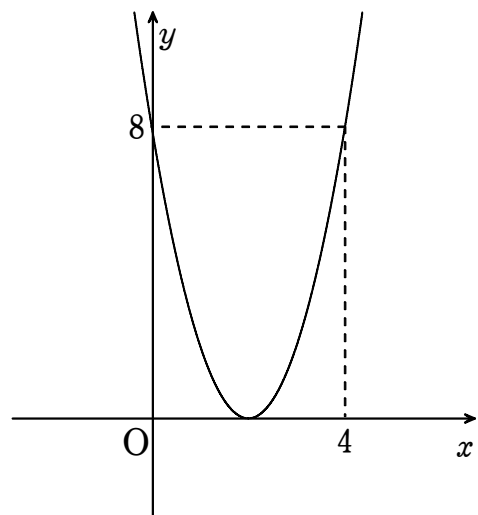
二次方程式について与えられた条件を、二次関数のグラフを利用して考察することができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
12-B	テ	①	12.4	85.4	2.2	⑥(43.3%), ⑧(23.2%) など

【考察】条件にあったグラフの概形をかき、それをもとに軸や頂点などに関する条件を過不足なく列挙して連立不等式を解くことが必要となる問題であり、正答率は低かった。誤答⑧、⑥は、複数の条件を数式化しきれず、 $D > 0$ （あるいは、誤って $D < 0$ ）のみについて解いたものと考えられる。二次関数・二次方程式・二次不等式は密接に関連し、いずれも図示して考察することが必要であり有効である。しかし、実際には図示することの定着は不十分であり、この点について徹底した指導が求められる。

13-B 右のグラフが2次関数のグラフであるとき、

その式は、 $y = \text{ト} x^2 - \text{ナ} x + \text{ニ}$ である。



二次関数について、グラフから条件を読み取って方程式を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
13-B	ト	2	36.1	56.2	7.7	$y = x^2 - 4x + 4$ (8.8%),
	ナ	8				$y = 2x^2 - 4x + 8$ (6.9%),
	ニ	8				$y = x^2 - 4x + 8$ (6.5%) など

【考察】グラフが通る点を読み取り、また、放物線の対称性から頂点の座標を考えて、二次関数の方程式を求める問題である。誤答 $y = x^2 - 4x + 4$ は頂点の座標は考察できたものの x^2 の係数を見落としたもの、誤答 $y = 2x^2 - 4x + 8$ は $2(x-2)^2$ 部分の展開を誤ったもの、誤答 $y = x^2 - 4x + 8$ は軸の方程式が $x=2$ であることと $(0, 8)$ を通ることとの二つの条件を組み合わせたものと考えられる。グラフの読み取りについては、放物線と y 軸との交点の座標から、誤答も含めて「二」のみは正しく答えたものが多かった（これは、学校選択型問題 13-A の結果と共通する）。一方、放物線の対称性に関する理解・活用は十分でないと考えられる。 x^2 の係数が 2 でない誤答も多いことから、基本に立ち返り二次関数の方程式の標準形についての指導も見直す必要がある。

14-B 放物線 $y = x^2 + 4x + 5$ を x 軸方向に , y 軸方向に だけ平行移動し、さらに、 x 軸に関して対称移動すると、放物線 $y = -x^2 + 2x - 4$ に重なる。

二次関数の平行移動と対称移動について理解しているかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
14-B	ヌ	3	56.4	39.4	4.2	2(14.7%), 1(14.2%) など
	ネ	2	40.9	54.8	4.3	4(21.3%), 1(10.8%) など

【考察】二次関数のグラフの平行移動、対称移動を頂点の移動から正しく判断する力が求められる問題である。対称移動についての処理が必要となる「ネ」の正答率が低いことから、平行移動と比較して対称移動についての理解が進んでいないと考えられる。また、「ネ」について、最も多い誤答は、移動前の放物線の頂点と移動後の放物線の頂点を単純に比較したと思われる 4 であった。対称移動・平行移動については、グラフの概形をかいて視覚的に考察することも必要である。

15-B 2次関数 $y = x^2 - 2ax + 2a - 2$ のグラフが、 x 軸と異なる 2 点 P, Q で交わる時、線分 PQ の長さの最小値は である。

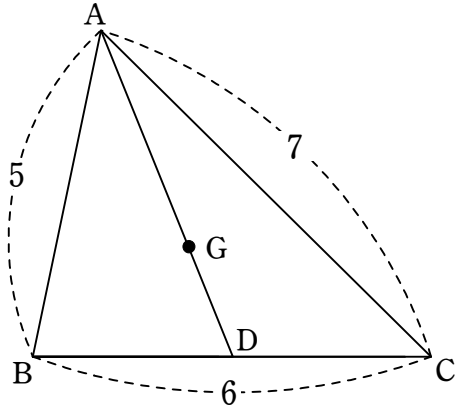
二次関数のグラフが x 軸から切り取る線分の長さを考察し、その最小値を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
15-B	ノ	2	31.7	51.5	16.8	1(14.0%), 4(12.4%), 3(12.0%) など

【考察】放物線が x 軸から切り取る線分の長さの最小値を、二次関数の性質を用いて求める問題である。 $y=0$ とした二次方程式を解くことになるが、この二次方程式の係数が同様のねらいで設けた昨年度の問題と比較して扱い易かったことから、正答率が 7.4 ポイント上がったと考えられる。線分の長さは、 $y=0$ の解の差として表されるが、数学 II を学習すると、解と係数の関係を用いて解の差を考察することも可能となる。二通りの処理にはそれぞれのよさがあり、一方に固執せずどちらも理解・習得して欲しい。

16-B 右の図のような $AB=5$, $BC=6$, $CA=7$ の三角形 ABC の重心を G とする。
直線 AG と辺 BC が交わる点を D とするとき、

$$\cos \angle ABC = \frac{\boxed{\text{ハ}}}{\boxed{\text{ヒ}}}, \quad AD = \boxed{\text{フ}} \sqrt{\boxed{\text{ヘ}}} \text{である。}$$



余弦定理を用いて三角形の辺の長さや内角の余弦の値を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
16-B	ハ	1	39.5	52.7	7.8	$\frac{6}{5}$ (19.0%), $\frac{5}{6}$ (6.7%) など
	ヒ	5				
	フ	2	25.5	56.6	17.9	
	ヘ	7				

【考察】 $\boxed{\text{ハ}}$, $\boxed{\text{ヒ}}$ は、共通問題 10 と同様の問題であり、正答率もほぼ同様（学校選択型 B : 42.2%）であった。三角比の定義と混同したと思われる誤答が多かったが、余弦の値域を外れたものが 20% 程度もあり、解の吟味等の指導に注意が必要である。 $\boxed{\text{フ}}$, $\boxed{\text{ヘ}}$ の正答率が低い、余弦定理の定着度というよりは重心の性質（この問題では「 AD が中線であること」）の知識・理解に不足があると考えられる。初等幾何の知識とあわせ、三角比の学習と並行して定着を図りたい要素である。

17-B $0^\circ \leq \theta \leq 45^\circ$ とする。 $\sin \theta \cos \theta = \frac{1}{4}$ のとき、 $\tan \theta = \boxed{\text{ホ}}$ である。

- ホ : ① $\frac{1}{4}$ ② 4 ③ $3 + \sqrt{2}$ ④ $3 - \sqrt{2}$
 ⑤ $3 \pm \sqrt{2}$ ⑥ $2 + \sqrt{3}$ ⑦ $2 - \sqrt{3}$ ⑧ $2 \pm \sqrt{3}$

三角比の相互関係を用いて、既知でない三角比の値を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
17-B	ホ	⑦	11.4	75.0	13.6	②(15.8%), ⑥(15.4%), ③(13.2%) など

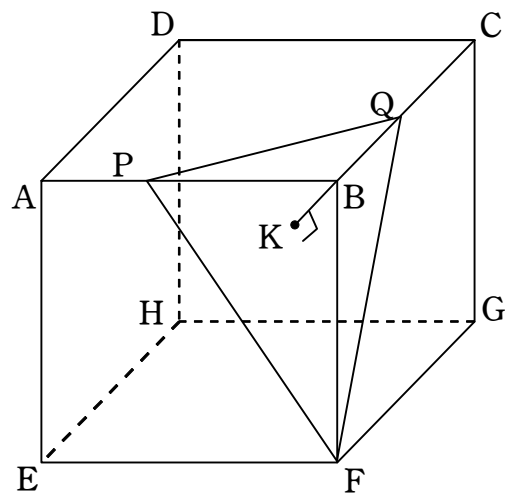
【考察】三角比の相互関係を活用して、解を求めていく問題である。角 θ の条件から $\tan \theta$ については $0 \leq \tan \theta \leq 1$ の範囲で 1 通りの値が定まるはずであるが、誤答のほとんどは、これを満たさない選択肢を選んだものであった（正解以外にこれを満たす選択肢は①のみであった）。角度の変化とともに三角比の値がどのように変化していくのか、丁寧に指導していく必要がある。また、数学 II で三角関数を学習すると、加法定理を利用して $\theta = 15^\circ$ ($2\theta = 30^\circ$) を得、解を求めることも可能である。

18-B 1辺の長さが3である立方体ABCD-EFGHにおいて、点Pを辺AB上にAP:PB=1:2となるように、点Qを辺BC上にBQ:QC=1:2となるようにとる。

(1) $\triangle PFQ$ の面積を S とすると、 $S = \frac{\boxed{\text{マ}}}{\boxed{\text{ミ}}}$ である。

(2) 頂点Bから $\triangle PFQ$ に下ろした垂線と $\triangle PFQ$ との交点をKとするとき、

$BK = \frac{\boxed{\text{ム}}}{\boxed{\text{メ}}}$ である。



余弦定理や面積の公式を用いて三角形の面積を求めること、四面体の体積を2通りの方法で表現し、未知の垂線の長さを求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
18-B	マ	7	13.9	63.5	22.6	$\frac{3}{2}$ (7.1%), $\frac{5}{2}$ (5.2%), $\frac{2}{3}$ (4.9%) など
	ミ	2				
	ム	6	7.9	64.6	27.5	
	メ	7				

【考察】 $\boxed{\text{マ}}$ 、 $\boxed{\text{ミ}}$ は、三平方の定理、余弦定理、三角比の相互関係、三角形の面積の公式を順に利用する問題である。余弦定理を同じように扱う共通問題 10 や学校選択型問題 16-B と比較して正答率が30%程度低いが、空間図形の一部を平面的に捉えて線分の長さや角の大きさを調べるのが苦手な様子が窺える結果である。これは、計量に限らずベクトル等でも必要な技能であり、繰り返し取り扱って習得を促す必要がある。 $\boxed{\text{ム}}$ 、 $\boxed{\text{メ}}$ は、四面体の体積を2通りの方法で表して垂線の長さを考察する問題である。 $\boxed{\text{マ}}$ 、 $\boxed{\text{ミ}}$ の結果を必要とすることから、正答率は必然的に低くなったと思われる。最後の設問ということもあり無答率が高かったのは残念である。

3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>

(1) 基礎的・基本的な知識や技能

◇変形手順や定義，公式に関する単一の知識・技能の習得状況をみる問題2，4，7，8，9については，正答率が45%を超えており，「方程式と不等式（数と式，二次方程式，二次不等式など）」，「図形と計量」の基礎・基本事項については，一定の定着がみられる。

◆複数の基本事項を組み合わせて処理する問題1や，定理の活用法を思考・選択することが必要な問題10，絶対値や二次関数を扱った問題3，5，6は，正答率が低い（あるいは低下している）。

⇒課題1：2年次の授業や家庭学習において，1年次に学習した基礎・基本について，定着の不十分な事項に特に注意しながら，継続的に復習させる指導が不足している。

(2) 数学のよさや思考することの楽しさ

◇問題文から条件を読み取り二次関数を用いて考察する15-Aのような問題でも，ある程度の正答率が得られている。また，操作手順を逆に辿って図や式を考察するなどの新たな発想が求められる14-Bのような問題でも，正答率が高い。

◆数量の大小関係について文字を用いて表現し考察する問題11-A，四角形を（補助線を想定して）三角形に分割することで，単一の公式を用いて面積を求める問題18-A，空間図形について平面図形に着目して考察したり，複数の見方を統合して考察したりする問題18-Bについては，正答率が低くなっている。

(3) 論理的な思考力

◆数学を現実の社会や生活における課題解決に活用するような問題に取り組む機会が少ないため，17-Aのような問題では適用する公式の判別に戸惑い，正答率が低い。

<指導改善のポイント>

①数学を学ぶ意欲を向上させ，基礎的・基本的な知識や技能の定着度を高めるために，数学を学習する楽しさや意義，数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

○身近に見られる事象や体験する事柄を数学化するなど，現実の生活を反映した問題を多く扱ったり，文化や社会生活において数学が果たしている役割を話題にしたりすることで，数学への興味・関心をもたせ，学習意欲を高めることを大切に指導する必要がある。

○数学の授業の中身が，「公式や定理を覚え，問題を解いて答えを求める」といった知識の習得・技能の習熟のみに偏ることのないよう，発問や展開を吟味し，生徒自身に学習の必要性を気付かせ，数学的な見方や考え方のよさ・数学的表現のよさ・数学の美しさを認識させるようにすることが大切である。

②論理的に思考する力を育成するために，意味理解をより確かにしたり，思考力を互いに高め合ったりする指導を工夫する。

○授業において「公式や定理がなぜ成り立つのか。」という視点を重視するとともに，そのことについてじっくりと思考・考察させることが大切である。一般化を急がず，問題解決（解答）の過程が公式や定理を導く過程と符合している具体例をできるだけ多く扱うことによって，公式や定理が役に立つことに気付かせることや，それらの導出過程を他の場面に応用できるようにするような指導を工夫することが必要である。

○検討（練り合い）や発表などの言語活動も含めた様々な数学的活動を授業に取り入れ，論理的に思考させたり，自分の考えを表現させたりすることが求められる。他の人の意見の中に新たな視点や数学的な見方・考え方のよさを見つけさせること，他の人に分かりやすく説明しようとすることによって自身の思考過程を振り返らせることは，知識・理解を定着させることに有効である。

◆複数の知識・技能を順を追って用いることで正答を得る 11-B, 18-B のような問題では、その知識・技能（式変形の手順や公式、定理）がごく基本的なもののみであるにも関わらず正答率が低い。

◆問題 17-A, 17-B の正答率・誤答の内訳からは、粘り強く思考する力の不足とともに、得られた解の適否を吟味する習慣の定着が不十分であることも窺える。

⇒課題 2：公式や定理がなぜ成り立つのかを理解したり、様々な数学的活動を通して論理的に思考したりする機会や時間が十分でないため、公式や定理を活用する力や粘り強く考える力が身に付いていない。

(4) 文や図の読解力、数学的表現を活用した思考力

◆問題 6 の正答率の低さからは、文字を用いた抽象化や一般化、 y 軸に平行な直線を用いた定義域の表現、グラフを用いた関数値の考察などについて、理解や習熟に課題があることが窺える。

◆問題 11-A の正答率の低さから、数量の比や大小関係を文字式や不等号を用いて正しく表現する力が十分定着していないと考えられる。

◆二次関数の方程式を決定する問題 13-A の正答率の極端な低さから、グラフから情報を読み取る力が十分定着していないと考えられる。

◆与えられた条件を満たす二次関数について考える問題 12-B の正答率・誤答の内訳から、グラフを活用して考察することが定着しておらず、思考も正しく深まっていけない様子が窺える。

⇒課題 3：文章や式、グラフなどから必要な情報を読み取り、それを活用する力や、数学の用語や記号、グラフなどを用いて表現し、思考する力が不足している。

③論理的に表現する力を育成するために、用語・記号について「説明させる」ことを意識し、数学的な表現に慣れさせる工夫をする。

○数学で用いられる用語や記号については、これらを用いた文章や数式などの表現を正しく読み取ることができているか、授業の中で繰り返し確認する必要がある。記号や数式が表していることを自身の言葉で説明させたり、方程式や不等式を、相手に理解できる「言葉の式」に読み替えさせたりすることも有効な手立てである。

○数量関係の捉えを自身の言葉で表現させ、その表現をさらによい数学的な表現に発展させていく（あるいは、誤っていた捉えを修正して新たに表現をまとめさせる）ことなどを、発問・発表や検討（練り合い）などの様々な形式で授業展開に取り入れることが有効である。

④文字式や数学の用語・記号を用いて記述された文章などの理解・処理には、具体例を確認したり状況を視覚化して理解したりすることができる示唆や支援を重視する。

○形式的には文字式の操作のみで解答できるような問題であっても、冒頭や振り返りの段階で文字を具体数に置き換えて、意味の理解を深めたり結論の適否を吟味したりすることの有効性や大切さを指導する必要がある。

○文章や式で示された条件や変化の様子について、表に整理して対応の様子を予想したり考察したりさせること、図やグラフに表して状況や大小関係・位置関係を把握させたりすること、などの様々な工夫が求められる。

○変数の値に伴って図形やグラフ、定義域や値域などが変化する様子をつかませ、変化や動きを実感をもって考察させるため、例えば ICT の活用なども積極的に検討していくことが必要である。

学習事項を継続的に復習すること、一方的な授業にならないよう数学的活動を工夫して授業を実践することにより、創造性の基礎を培い、数学を活用する能力と態度を育成することが今後求められる。

問題 番号	記号	ねらい	全体正答率	数学A				数学B			
				全体	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科	全体	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科
全体平均正答率			45.3	22.0	25.7	18.7	17.6	48.6	48.7	19.7	51.1
1	アイウ	指数法則を理解し、指数法則を用いて計算することができる	42.5	27.0	29.8	25.3	21.2	64.0	64.4	22.6	64.2
2	エ	無理数・根号について理解し、分母を有理化することができる	46.4	23.6	33.3	14.1	18.7	77.6	78.0	41.9	77.8
3	オ	絶対値記号の意味を理解し、概数を捉えて無理数と整数との大小把握ができる	39.4	24.5	27.7	21.6	19.7	58.0	58.0	29.0	62.9
4	カ	因数分解や解の公式を利用して二次方程式を解くことができる	66.6	48.5	59.9	38.8	36.2	91.5	91.9	58.1	91.1
5	キ	二次関数の方程式を標準形に変形し二次関数のグラフの頂点の座標を読み取ることができる	37.1	20.9	23.3	18.5	19.0	58.6	58.9	27.4	59.5
6	ク	定義域の意味を理解し、二次関数の最大・最小についてグラフを利用して考察できる	36.6	15.7	17.5	13.6	15.0	63.7	63.9	16.1	68.7
6	ケ		37.5	15.8	18.4	13.8	11.8	65.6	65.7	22.6	71.3
7	コ	二次不等式を解くことができる	50.3	32.2	40.7	24.2	25.0	74.0	74.5	22.6	75.5
8	サン	必要な辺の長さを求め、定義により三角比の値を求めることができる	70.8	58.8	62.7	55.8	54.1	86.7	86.9	61.3	87.5
8	スセ		50.7	30.1	36.0	25.6	21.9	78.2	78.8	14.5	78.9
9	ソ	正弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができる	45.6	24.5	26.9	23.2	18.6	71.1	71.0	30.8	76.5
10	タチ	余弦定理を用いて三角形の内角の余弦の値を求めることができる	20.8	3.0	4.6	1.7	0.9	42.2	42.1	2.6	47.3
11-A	ツ	問題文の意味を理解し、数量の大小関係を不等式を用いて表すことができる		27.0	28.1	27.1	22.1				
12-A	テ	二次方程式について、解の種類から係数の条件を考察することができる		30.1	34.7	25.2	26.1				
13-A	トナニ	二次関数について、グラフから条件を読み取って方程式を求めることができる		4.0	4.9	3.0	3.8				
14-A	ヌ	二次関数の平行移動について理解している		11.7	15.1	7.5	11.4				
14-A	ネ			16.4	19.9	12.3	15.3				
15-A	ノ	問題文から距離(の差)を二次関数を用いて表し、その最大値を求めることができる		24.0	24.7	24.8	17.9				
16-A	ハヒ	三角比の相互関係を用いて、既知でない三角比の値を求めることができる		17.9	23.7	13.4	10.1				
16-A	フヘ			16.4	21.4	12.4	9.7				
17-A	ホ	余弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができる		9.8	10.6	9.5	7.7				
18-A	マミムメ	四角形の面積を、分割した二つの三角形の面積の和として求めることができる		1.4	1.8	1.2	0.5				
11-B	ツ	分母を有理化することができる、対称式の性質を利用して式の値を求めることができる						9.9	10.0	8.1	9.4
12-B	テ	二次方程式について与えられた条件を、二次関数のグラフを利用して考察することができる						12.4	12.2	12.9	15.7
13-B	トナニ	二次関数について、グラフから条件を読み取って方程式を求めることができる						36.1	36.0	3.2	42.0
14-B	ヌ	二次関数の平行移動と対称移動について理解している						56.4	56.7	8.1	59.5
14-B	ネ							40.9	40.9	16.1	44.6
15-B	ノ	二次関数のグラフが軸から切り取る線分の長さを考察し、その最小値を求めることができる						31.7	31.5	37.1	34.5
16-B	ハヒ	余弦定理を用いて三角形の辺の長さや内角の余弦の値を求めることができる						39.5	39.5	0.0	43.6
16-B	フヘ							25.5	25.3	7.7	30.0
17-B	ホ	三角比の相互関係を用いて、既知でない三角比の値を求めることができる						11.4	11.4	7.7	10.7
18-B	マミ	余弦定理や面積の公式を用いて三角形の面積を求めること、四面体の体積を2通りの方法で表現し、未知の垂線の長さを求めることができる						13.9	14.0	0.0	14.9
18-B	ムメ							7.9	7.8	2.6	9.4

「英語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

高校一年生で身に付けていてもらいたい英語力を、リスニングを含めた様々な出題方式によってみる問題とした。基本的な語彙・文法力を確かめるとともに、実際のコミュニケーションを想定した問いや、短時間でまとまった量の英語の情報処理能力をみることに重点を置いた。

2 設問ごとのねらい、結果の分析と考察

1 リスニング問題：絵を見ながら英文を聞き、正しい描写を適切に答える問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						1	2	3	4	
1	(1)	ア	4	49.5	49.9	0.6	18.3	17.9	13.7	☆
	(2)	イ	3	39.0	60.2	0.8	16.3	32.2	☆	11.6
	(3)	ウ	4	52.6	46.6	0.8	9.1	17.6	19.9	☆

【考察】

問題アは、主語の部分に現在分詞の後置修飾が用いられているが、動詞とその目的語の部分把握することができれば比較的容易な問題だったと思われる。問題イは、位置情報を表す前置詞句が把握できているかが問われる問題。意味の理解にとどまらず、その前置詞句が、主語の部分ではなく、その目的語を基準にしているということを理解しないと解答は難しくなる。例えば、選択肢2 “The clock is behind the bookstand” を「時計の後ろに…」と取り違えをする生徒も少なくはない。問題ウは、比較表現を用いた文を聞き、グラフが表す情報と一致するものを選ぶ問題である。英文に用いられている比較表現は中学校で学習した基礎的なものであり、“most of the three”の意味が分かれば解答は比較的容易である。

2 リスニング問題：英語による会話を聞き、流れに沿って適切に応答する力を見る問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						1	2	3	4	
2	(1)	エ	2	84.6	14.6	0.6	7.7	☆	4.0	3.0
	(2)	オ	1	33.8	65.3	0.9	☆	28.5	25.8	10.9
	(3)	カ	2	30.5	68.4	1.1	28.3	☆	28.1	11.9

【考察】

問題エは、簡単な内容の会話であり、基礎力が試される問題である。“Thank you so much.”に対して“You're welcome.”という応答は基本的な会話表現のため容易に正解を導き出すことができたはずである。そのため、正答率も高かった。問題オは、Aさんの最後の発言である“Would you mind my ~ing?” 「私が～してもいいですか」という相手に許可を求める表現と応答の仕方について正しく理解していなければ正解に到達できない。この表現は、目的語に動名詞をとる動詞、動名詞の意味上の主語など動名詞を含む慣用表現としてよく例文として扱われる。答え方についても、日本語の「もちろんいいですよ」が英語では“Not at all.”になるなど注意を要する表現であるため正答率は低く、不自然な応答の選択肢2や会話の途中Bさんの台詞“So do I.”につられたと思われる選択肢3の誤答率が高かった。このことから、答え方をしっかり理解していない生徒が多かったと推測される。問題カは、店員と客との会話であり、最後に、客であるAさんが発言した内容を把握し、店員として適切な応答文を選ぶ問題である。会話の流れから、Aさんの台詞の中の“quiet”の意味が「(色が)地味な」という意味であるということをもとに正しく把握する必要がある。それを理解していれば、赤いものを勧めている選択肢2が自然な応答として選ばれる。しかし、“quiet”を「静か

な」という意味で捉えたと思われる選択肢1や、Aさんの発言が大きさに関する内容と誤解したと思われる選択肢3の誤答率が高く、会話内容の理解、選択肢の意味の把握ともに難しかったように考えられる。

3 リスニング問題：まとまった英文と質問を聞き、内容を正しく理解し、適切に答える力をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						1	2	3	4	
3	(1)	キ	1	46.8	52.6	0.6	☆	23.1	13.6	15.8
	(2)	ク	3	40.4	59.0	0.6	11.7	27.2	☆	20.0
	(3)	ケ	4	32.4	66.9	0.7	17.0	37.2	12.6	☆

【考察】

まとまった英文を聞いて質問に答える形式の問題は、センター試験をはじめ英検、TOEICなどの試験においても必ず出題される。問題に取り組む上で大切なことは、①ストーリーを聞く前に質問と選択肢に目を通し、聞くべきポイントを明確にすること、②一問終えたらすぐに気持ちを切り替えて、次の設問に答える準備をすることである。

問題キは、週間の天気予報を正確に聞き取り、天気の移り変わりを曜日ごとに把握する必要がある。加えて、気温や海の状況といった情報もきちんと聞き取らなければならない。選択肢2は、火曜日は正しいが、水曜日には台風が来るので誤りである。

問題クは、ビデオカメラの使い方を具体的にイメージすることができるかどうかが鍵となる。録画するためには、スイッチBを右側にスライドさせ、ボタンCを押さなければならない。ストーリーの後半部分で、スイッチBを左側にスライドさせ、モニター上の画像にタッチするという再生モードの手順があるので混同しないよう注意する。

問題ケは、新幹線の車内アナウンスなので、新幹線に乗車しているイメージでストーリーを聞き取りたい。正答率は低く(32.4%)、特に選択肢2は誤答率が37.2%で正答率を上回っている。車内で軽食と飲み物を買えるのは“in car 7 and 11”であり、選択肢の“in car 7 through 11”ではない。詳細な情報まで聞き取れなかった生徒が多かったようだ。選択肢1は名古屋にも停まると言っているので、名古屋が始発でないことが推測できる。選択肢3は11号車にあるのは公衆電話であり、携帯電話は各車両のデッキ“in the areas at either end of each car”で使用するように述べられている。

“All cars are non-smoking.”と言っていることから、車両内は禁煙であり、正解は選択肢4である。

4 語彙・熟語・文法問題：英語によるコミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現、語法など、言語に関する知識・理解をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						1	2	3	4	
4	(1)	コ	4	13.5	86.2	0.3	27.1	43.9	15.1	☆
	(2)	サ	1	33.7	65.9	0.4	☆	29.4	17.9	18.6
	(3)	シ	4	42.5	56.9	0.6	20.7	14.8	21.3	☆
	(4)	ス	2	16.0	83.6	0.4	39.5	☆	32.0	12.0
	(5)	セ	1	42.0	57.5	0.5	☆	12.0	19.8	25.7
	(6)	ソ	3	23.7	75.6	0.7	19.4	33.2	☆	23.0
	(7)	タ	3	26.3	73.1	0.6	20.6	32.6	☆	19.9
	(8)	チ	2	25.2	74.3	0.5	22.4	☆	39.8	12.1
	(9)	ツ	4	38.4	61.0	0.6	11.5	43.6	5.9	☆
	(10)	テ	3	45.2	54.2	0.6	17.0	13.7	☆	23.5
	(11)	ト	1	28.0	71.3	0.7	☆	19.7	42.5	9.2
	(12)	ナ	2	34.2	65.2	0.6	36.8	☆	17.8	10.6

【考察】

正答率が1割台だったのは問題コ、スであった。問題コに関しては、“exciting”という答えが一番多く、＜感情を表す動詞＞の分詞の理解が押さえられていない。また問題スは、関係代名詞の＜格＞を問う問題であった。使用頻度の高い“that”に惑わされ、関係詞節内の文構造に気付かなかったこと、所有格に対しての理解不足を示している。次に、解答数が最も多い選択肢の割合が、正答率を上回った問題は、ソ、タ、チ、ツ、ト、ナの6問であった。問題ソは＜仮定法の時制＞を問う問題であり、“then”という時制表現に気付かず、“won’t buy”とした誤答。問題タでは＜特定・不特定を表す代名詞＞の判断が不十分であった。問題チにおいては＜make+oneself+understood＞という使役動詞“make”の使い方が定着していなかった。問題ツでは、そこで使われている動詞の用法に気が付けない誤答が多く見られた。問題トに関しては、＜受身＞の問題であった。助動詞と一緒に使われているが、主語“bad words”と“use”の関係を押さえなければ答えられる問題であったが、“bad words must not use”という誤答が一番多かった。問題ナにおいては、“live in 場所”の表現を覚えていたが、この場合、前置詞(句)を必要としないことに気付けない誤答が見られた。全体的に見ると正答率は低く、最も正答率が高い問題であっても5割に満たないという結果であった。

- 5 整序問題：与えられた語句を正しい語順に並びかえて英文を構成することにより、言語に関する知識・理解と表現する力をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						1	2	3	4	
5	(1)	ニ	2	43.6	55.6	0.8	24.4	☆	14.8	16.4
	(2)	ヌ	1	33.4	65.6	1.0	☆	21.5	26.0	18.0
	(3)	ネ	4	46.8	52.4	0.8	23.7	15.0	13.6	☆
	(4)	ノ	1	28.6	70.5	0.9	☆	33.7	24.6	12.2
	(5)	ハ	3	43.7	55.3	1.0	14.9	20.7	☆	19.7

【考察】

問題ニに関しては、不定詞における＜否定語の位置＞の理解が不十分な生徒が比較的多いことがわかる。問題ヌでは、“go to there”という誤表現が目立った。問題ネでは、“so・・・that SV～”と“so that SV～”の用法を混乱している生徒が多いと推測される。問題ノでは、“for the concert”の前置詞句を置く場所に迷い、本来置くべき“a ticket”の直後ではなく、文末に置く誤答が目立った。問題ハでは、前置詞“of”の後ろにくる“having”の形ではなく“is having”のような進行形にする誤答が多かった。これは「意味」と「文法」の両方の観点からではなく、「意味」を無視して考えていることを示しているかもしれない。

- 6 国連本部に関する案内文をもとに必要な情報を読み取る情報検索問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						1	2	3	4	
6	(1)	ヒ	2	53.8	45.1	1.1	21.8	☆	14.6	8.8
	(2)	フ	3	50.2	48.5	1.3	14.7	16.8	☆	16.9
	(3)	ヘ	3	39.4	58.9	1.7	25.4	15.0	☆	18.4
	(4)	ホ	3	60.2	38.4	1.4	13.3	15.2	☆	9.8
	(5)	マ	2	37.9	60.2	1.9	20.9	☆	17.3	22.0

【考察】

センター試験第4問Bと同じ形式であり、実用的な英文(本年度は国連本部に関する紹介文)を参照しながら設問に答える。他の読解問題とは異なり、設問が先に提示され次ページに本文が書かれている。この問題は「先に設問に目を通して、必要な情報だけを探して読む」ことが求められている。つまり、与えられた英文全部を読む必要はなく、設問で聞かれた情報だけを素早く探す「情

報検索力」を問う問題といえる。

問題ヒは、国連本部を訪れる人のための入り口が問われている。英文の冒頭部分に答えが書かれており “The visitors Entrance is located on First Avenue at 46th Street.” 比較的答えやすい（正答率 53.8%）。

問題フは、参加費を問う問題で Guided Tours の Prices（参加費）の箇所に記述がある。大人 16 ドルが二人で 32 ドル、60 歳以上の高齢者一人で 11 ドル、有効な身分証明書を携帯している学生一人で 11 ドルである。よって、合わせて 54 ドルが正解である。

問題ヘは、ガイド付きツアーに参加するための方法が問われており、Guided Tours の Prices の 1～2 文目に “Individual tickets have to be bought at the United Nations on that day of your visit. No tickets can be bought online.” とあるので選択肢 3 が正解となる。

問題ホは 4 月 2 日は何の祝日かを問う問題だが、Opening Hours の「表」を見付けさえすれば容易に正解を導き出せる。正答率も高かった（正答率 60.2%）。

問題マは、選択肢の中から正しい記述を選ぶ問題である。当該箇所さえ探せば設問は比較的容易に解けるが、本文全体から探さなければならず、また選択肢の順番と本文中の対応箇所の順番が一致しないので、正答率が伸び悩んだようだ（正答率 37.9%）。選択肢 2 が正解であるが、本文中の “the United Nations Headquarters may sometimes close to the public on very short notice.” 「国連本部は急遽一般客への公開をやめることがある」という記述を、選択肢では quickly and unexpectedly と言い換えて表現(rephrase)している。この「言い換え表現」を見抜く豊富な語彙力も必要である。

7 長文問題A 説明文を読んで、その概要・要点を理解し、的確に内容を読み取る力をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						1	2	3	4	
7	(1)	ミ	2	31.0	65.7	3.3	23.4	☆	23.4	18.7
	(2)	ム	1	26.3	70.1	3.6	☆	24.2	24.7	21.3
	(3)	メ	4	28.9	67.5	3.6	20.2	25.5	21.8	☆
	(4)	モ	3	23.8	72.4	3.8	20.9	31.7	☆	19.7
	(5)	ヤ	4	22.1	74.1	3.8	20.0	25.3	28.7	☆

【考察】

長文問題Aの正答率は全体的に低かった（平均 26.4%）。リスニングを除いた約 35 分という時間の中で、じっくりと英文を読む時間を確保できなければ、この問題に費やす時間は限られてくると思われ、その結果、熟考する間もなく、解答せざるを得ない生徒が多数いたのではないかと推測できる。例えば、問題ヤの、この英文の主題を問う問題は一番正答率が低かったのだが、ある程度の余裕があれば、もう少し高い正答率が見込めたと考える。時間がないがゆえに、本文中にはほぼそのままの形で見つけられた誤答を選択したのではないだろうか。よって、語彙力だけでなく、ある程度の語数の英文を読み、短い時間で大意を把握する力を養うことが必要とされる。

最も正答率の高い問題ミは、“show any interest” と “be interested in ”，“their ancestral language” と “their own language from their parents or grandparents” の 2 か所の言い換えを見出すことができれば、第 2 段落に解答となるヒント “they were forced to speak English.” を読み取ることができると思われる。

問題ムにおいて、Mr. Palmer は第 3、4 段落に主に登場しており、特に第 3 段落の最後の引用文を考えれば正答を導き出せる。ただしその引用文の中で “teach” が使用されており、また、最終段落の内容も選択肢 3 の誤答率が高くなっている理由だと考えられる。加えて、選択肢 1 は to 不定詞の意味上の主語が入った形であり、その主述関係をしっかり理解していなければ、正答率は高くはないだろう。

問題メは、その難易度から見ても、もう少し正答率が高くてよい問題ではないだろうか。第 3 段落の 3 文目と 4 文目を読み、“his tribal language” と “Warrongo” を一致させることができる

かがポイントである。“master’s thesis”につられたために選択肢2の誤答率が高くなったのではないか。

問題モは分詞構文の知識と語彙力が求められる。空欄の後ろにある“on”につられて、選択肢4の誤答率が高くなるかと思われたが、実際は19.7%と誤答率は高くなかった。それに比べて、全体を通して読んだ時にMr. Tsunodaの働きについて書かれていることを読み取れた生徒の中に、熟考せずに選択肢2（誤答率が一番高く30%を超えていた）を選んだ者が多くいた可能性がある。

300語前後の英文を読み、大意を素早く把握するためには、簡易な英文を数多く読む機会、語彙や文法の知識、加えて、Q&A形式の英問英答の習熟が必要となるのではないか。

7 長文問題B：説明文を読んで、その概要・要点を理解し、的確に内容を読み取る力をみる問題

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						1	2	3	4	
7	(1)	ミ	4	60.8	37.3	1.9	7.6	12.0	17.7	☆
	(2)	ム	1	31.6	65.6	2.8	☆	22.9	26.1	16.6
	(3)	メ	4	21.7	75.2	3.1	23.1	22.3	29.8	☆
	(4)	モ	3	32.6	63.8	3.6	18.7	25.0	☆	20.0
	(5)	ヤ	3	28.6	67.8	3.6	17.4	34.8	☆	15.5

【考察】

母と娘の交流を描いたストーリー性のある読み物である。全体的な語彙レベルも比較的高く、英文の量も選択肢を含めると800字前後であったため、英文の内容把握にだいぶ時間を要したことであろう。最初の問題ミ以外は正答率が30%前後と低く、また、後半の問題に進むにつれて無答率が高くなっていることから、時間が不足し、しっかりと読み込めなかったのではと推測される。最初の問題ミは、本文の内容に最も適したタイトルを選択する問題であった。初めに「母の手は私の人生の中で最も心が安らぐものだった。」の英文から始まり、全体を通して一貫して母親の手の役割について述べられていることから、容易に解答を選択できたものと思われる。正答率も60.8%と比較的高い結果となった。問題ムについては、第1段落（冒頭）の“My mother’s hands were among the most comforting things in my life.”の表現がそのまま英問文の中に出てくることから、設問の対応箇所がこの第1段落であることは分かりやすく、ここから答えを導き出せる。しかし、見当違いの選択肢2や3を選んだ生徒の割合が高く、これは、“the most comforting things”や“they could soothe a fever~.”などの意味をしっかりと読み取れなかったからと思われる。また、問題メについても、誤答である選択肢3を選んだ生徒の割合が正解を選んだ生徒の割合よりも高かった。この問題は、設問にある“roller coaster”についての表現“We started the roller coaster ride called Recovery.”を読み、そのrecoveryから連想されるmedicineを含む選択肢3を選んだのではないかと思われる。“I worked my way, painfully and slowly ,through~.”の部分まで読むと、“roller coaster”を苦しい経験に例えていることが分かるが、そこまで正確に英文を読み取ることができた生徒は少なかったようだ。問題モについては、本文の“Knowing that~”が分詞構文であり、その言い換えが選択肢3であると気が付けば比較的考えやすい問題であろう。そのため、他の問題よりはやや正答率が高い結果となった。最後の問題ヤは、選択肢2の誤答率が高かった。最後の段落の意味が取りにくく、全体的なストーリー展開において予想される選択肢2を本文中に記述されていないにもかかわらず何となく選んだのではと思われる。

以上の結果から、今回の問題では、語句の意味がとれず誤答しているような場合が多く見られており、長文読解問題において、限られた時間内にある程度まとまった量の英文を読んでその内容を理解するために、英文の理解に必要な語彙力と構文力を強化することが大切である。未知の単語が出てきても焦らず、英文の内容を正確に読み取り、素早く要点をつかむためには、日頃から多くの英文に親しませ、速読や音読等で様々な角度から読む力を鍛える必要があると思われる。

3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>

(1) リスニングの力について

中学校前半くらいまでに学習する基本的な内容であれば、「英語を聞く力」は概ね身に付いている。しかし、日本語にはない英語特有の表現に対しては、理解力が不足している。

◇簡潔で基礎的な表現については概ねよく理解できている。

◆中学校後半以降に学習する文法・語法を使った英文、位置関係など情報整理が要求される英文では、内容を理解する力が不足している。

⇒課題1：日頃の学習段階で英文を聞く機会が足りず、まとまった量の英語を理解する力が不足している。

(2) 語彙・熟語・文法の力について

正答率が50%を超えた問題はなく高校1年生段階で身に付けるべき知識の定着が徹底されていないことが窺える。低正答率のものでは2割台が4問、3割台が3問、4割台が3問あり、1割台も2問あった。慣用表現の定着不足や、文法を構成する論理的な思考が求められる問題への不慣れが目立った。

◇中学校レベルの基本的な語彙、文法・語法については、一定の定着が図られている。

◆高校で初めて学習する語彙・熟語・文法を正しく使用できるレベルまで到達していない。

⇒課題2：高校段階で学習する語彙・熟語・文法の知識が正確に身に付いていない。

(3) 表現する力について

基本的な問いかけや定型表現は高校でも繰り返し復習しており定着している。しかし、高校段階の文法・構文となると、理解の程度にばらつきがみられる。授業で学んだ表現は実際に活用しなければ身に付かず、英語使用場面不足が推測される。

<指導上の改善ポイント>

①聞き取りの力を向上させるため、理解の土台となる語彙や基礎的な文法・語法の定着を図るとともに、英語を聞かせる機会を多く設ける。

○生徒のつまずきの段階を把握するとともに、必要に応じて「中学校の学習内容」も含めて、基礎的な語彙や文法・語法の定着を図る。

○英語を聞く機会を多く設ける。

○様々な方法による音読指導を通じ、リスニング力の土台となる表現の定着を図る。

○聞き取るべき要点を絞り込んだリスニング活動を充実させる。

②正確な語彙力、文法・語法力を培うとともに、読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく育成・活用し、その定着を図る。

○練習問題や小テストなどのトレーニングを何度も繰り返すことにより、高校レベルの語彙・文法の知識の定着を図る。

○生徒の実態を考慮しながら、授業において英語使用の機会を増やし、学習内容が運用レベルに到達するよう目指す。

○あらゆる授業において、既習の単語・文法事項を仲立ちとして、コミュニケーションを通じて、英語運用能力の向上を目指す。

③語彙力を高めながら表現する力を育成するために、英語で読む・書く・聞く・話すためのタスクの活用を図る。

○新出の文法や構文は活用を通して理解させ、整序作文や自由作文にも対応できる力を身に付けさせる。

○コミュニケーション活動において、

◇中学校英語の基本的な定型表現はある程度身に付いている。

◆高校で初めて学習する文法・構文はある程度活用できつつあるが、語彙・語法レベルを上げながら活用できるレベルまで到達できるかがポイント。

⇒課題3：高校段階で学習する豊富な語彙を用いて場面に応じた英文を構成する力の育成が必要である。

(4) 読解する力について

長文読解力及び正確な情報処理能力を身に付けるためには、豊富な語彙力と基本的な文法事項が定着していることが必要である。また短時間で正確に必要な情報を読み取り、その概要を理解するためには、読解に必要な論理的思考力を日頃から養成していかなければいけない。ただ単に英文を理解できるレベルではなく、必要な情報を正確に読み取り、段落の構成や文脈の展開、書き手の意向について把握する力を養成する必要がある。

◇未知の語句に関し、その意味を類推したり文の大まかな内容を把握することはできる。

◆高校段階の語彙力や文法事項の習得が不十分で、短時間で正確に内容を読み取り、必要な情報を整理することができない。

⇒課題4：英文の内容を正確に理解し、必要な情報を読み取り、書き手の意向を理解するために必要な読解力が不足している。

身に付けさせたい文法・構文を何度も使うようなタスクを工夫する。

○単語や熟語は、文または句の単位で練習させ、語法の理解とあわせ、英語運用が向上することを図る。

○宿題や小テストで単語・熟語だけでなく、新出の文法や構文を使った簡単な英文も書かせるなどにより、表現能力のより確実な定着を図る。

④読解力及び情報処理能力を養成するために、語彙と基本的な文法事項の定着を強化するとともに、言語材料の理解だけに留めず、内容の把握を重視して指導する。さらに文章や段落の構成、文脈の展開などを踏まえて読み取るように指導することが大切である。

○語彙指導と文法事項を定着させるため、生徒の英語使用場面を増やす。

○Q and AやT or F等により、日本語を介さず英語による理解を促す。

○英語特有の論理構造の理解を促すために、スキミングやスキニング、パラグラフ・リーディング等の様々な読解指導を体系的に行う。

○英文を読んだ後に要約させたり、意見や感想を書かせたりする等の活動を英語で行う。

○精読だけではなく、短時間で必要な情報と概要を把握できるように速読の指導を計画的に行う。

○スラッシュリーディングやCDを使用したeye-shadowingを行い、黙読・音読のレベルを向上させる。

これからの高等学校英語教育では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成することが求められ、その最終目標はコミュニケーション能力を養成することにある。そして、その育成・養成の土台として、基本的な英語に関する知識の定着は欠かせない。今回の学習状況調査を見る限り、高校一年生における学習事項の習得にはまだまだ改善の余地があると思われる。宮城県の高校生が、英語を使用したコミュニケーション能力を身に付けるために、今後とも基礎力の定着を充実させることはもとより、教師が良き「英語使用者のモデル」としてその役割を果たすことが求められていることを、加えておきたい。

学科群別正答率一覧

問題番号	記号	正答	全体正答率	英語A				英語B				
				全体	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科	全体	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科	
全体平均正答率			39.2	30.6	32.1	29.3	28.8	48.4	48.4	33.6	50.6	
1 リスニング	(1)	ア	4	49.5	36.1	39.1	34.0	30.3	68.7	68.3	56.4	75.0
	(2)	イ	3	39.0	34.4	34.2	34.9	33.8	45.6	45.6	28.2	48.2
	(3)	ウ	4	52.6	39.3	44.2	35.6	32.0	71.5	71.3	46.2	76.6
2 リスニング	(1)	エ	2	84.8	78.3	81.6	75.3	75.3	94.0	93.9	100.0	95.8
	(2)	オ	1	33.8	25.6	24.4	27.7	22.7	45.6	45.8	15.4	45.8
	(3)	カ	2	30.5	23.7	25.2	22.1	22.6	40.2	40.0	35.9	42.7
3 リスニング	(1)	キ	1	46.8	40.0	41.1	38.9	39.4	56.6	56.3	59.0	60.4
	(2)	ク	3	40.4	33.2	33.9	32.5	32.7	50.6	50.5	35.9	53.1
	(3)	ケ	4	32.4	26.1	25.8	26.6	25.3	41.4	41.5	28.2	41.9
4 文法・ 語法	(1)	コ	4	13.5	11.8	11.7	12.3	10.6	15.9	15.6	2.6	22.9
	(2)	サ	1	33.7	31.6	32.9	30.9	28.8	36.7	36.7	38.5	36.7
	(3)	シ	4	42.5	31.0	37.1	24.7	28.3	59.0	59.3	53.8	54.9
	(4)	ス	2	16.0	11.2	9.7	12.9	11.1	22.8	22.8	0.0	25.3
	(5)	セ	1	42.0	34.7	37.2	33.3	29.2	52.3	52.5	38.5	50.0
	(6)	ソ	3	23.7	20.0	19.6	20.7	18.6	29.1	29.4	17.9	24.2
	(7)	タ	3	26.3	23.1	23.2	22.9	23.3	30.9	31.0	28.2	30.5
	(8)	チ	2	25.2	20.2	20.9	18.9	21.5	32.4	32.7	33.3	27.9
	(9)	ツ	4	38.4	38.3	37.7	39.2	37.3	38.6	38.3	30.8	44.3
	(10)	テ	3	45.2	31.2	35.0	27.7	27.7	65.2	65.4	46.2	65.1
	(11)	ト	1	28.0	22.3	23.5	21.4	20.8	36.1	36.3	28.2	34.4
	(12)	ナ	2	34.2	32.3	31.9	33.0	31.9	36.8	36.8	35.9	36.7
5 整序	(1)	ニ	2	43.6	31.4	33.7	29.1	29.6	60.9	60.9	41.0	62.8
	(2)	ヌ	1	33.4	23.5	23.4	23.6	24.1	47.6	47.6	25.6	49.2
	(3)	ネ	4	46.8	34.6	38.1	31.2	32.6	64.1	63.6	51.3	72.1
	(4)	ノ	1	28.6	23.7	23.8	22.7	27.1	35.7	35.4	23.1	41.1
	(5)	ハ	3	43.7	27.2	29.3	25.0	26.5	67.3	67.0	28.2	75.5
6 資料読み取り	(1)	ヒ	2	53.8	42.8	45.3	40.9	39.3	69.3	69.0	33.3	78.9
	(2)	フ	3	50.2	35.8	39.9	32.7	29.6	70.8	70.6	33.3	77.3
	(3)	ヘ	3	39.4	29.8	30.9	29.0	27.7	53.2	53.2	28.2	56.3
	(4)	ホ	3	60.2	47.3	52.3	43.0	41.1	78.7	78.6	51.3	83.3
	(5)	マ	2	37.9	29.7	30.5	28.4	31.0	49.7	49.2	20.5	59.4
7 長文読解 (選択型A)	(1)	ミ	2		31.0	32.2	30.0	29.7				
	(2)	ム	1		26.3	27.7	24.5	26.7				
	(3)	メ	4		28.9	32.3	25.9	25.9				
	(4)	モ	3		23.8	24.3	23.5	22.8				
	(5)	ヤ	4		22.1	23.3	21.1	20.9				
7 長文読解 (選択型B)	(1)	ミ	4						60.8	60.8	33.3	63.8
	(2)	ム	1						31.6	31.9	17.9	29.4
	(3)	メ	4						21.7	21.6	23.1	24.0
	(4)	モ	3						32.6	32.6	25.6	32.3
	(5)	ヤ	3						28.6	29.1	15.4	22.9

平成23年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果(2学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在最も強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
18.4%	37.2%	46.3%	22.9%	20.1%	32.6%	35.3%	34.1%	① 4年制国立大学
13.0%	20.1%	20.5%	11.4%	10.1%	16.2%	11.3%	16.2%	② 4年制私立大学
3.3%	2.2%	2.9%	4.4%	3.8%	3.2%	3.6%	2.8%	③ 短期大学
15.6%	13.5%	12.3%	19.6%	20.5%	15.6%	16.1%	15.8%	④ 専修学校・各種学校
33.0%	18.2%	9.5%	27.2%	27.2%	20.2%	15.3%	19.1%	⑤ 民間就職
5.2%	1.7%	2.8%	5.1%	6.2%	3.8%	3.9%	3.7%	⑥ 公務員就職
0.2%	0.3%	0.1%	0.5%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	⑦ 家業
7.9%	5.7%	4.2%	7.5%	9.9%	6.5%	12.6%	6.2%	⑧ 未定
3.1%	1.1%	1.4%	1.3%	1.7%	1.5%	1.6%	1.4%	⑨ その他
0.3%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.1%	0.0%	0.4%	⑩ 記入ミス・無答

- ・①の「国公立大」、③の「短大」進学希望者は、1年次よりそれぞれ2.7、0.4ポイント減少。②の「私立大」は4.9ポイント増加
- ・大学進学希望者(①～③)は52.0%で、前年度より1.1ポイント減少
- ・就職希望者(⑤～⑦)は24.3%で、前年度より1.2ポイント増加
- ・⑧の「未定」は、1年次より6.1ポイント減少
- 前年度より大学進学希望者が減少に転じたのは、調査開始以来初めてである。
- 各学校の入学時からの進路指導等により、1年次より未定者が減少し、進路希望が具体化してきており、今後は、目標実現に向けた継続的な指導が必要である。

Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
61.4%	61.5%	63.2%	60.4%	56.8%	61.0%	56.1%	60.9%	① 卒業までに絶対達成しようと思っている。
10.3%	9.0%	8.5%	8.5%	10.0%	9.1%	11.2%	8.5%	② 達成するまで、卒業後1、2年かかってもかまわないと思っている。
15.4%	16.8%	16.2%	17.9%	17.7%	16.8%	19.5%	17.2%	③ 卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
7.9%	9.1%	8.8%	8.6%	11.1%	9.1%	8.5%	9.0%	④ 何とかなるだろうと思っている。
4.4%	3.6%	3.2%	4.3%	4.2%	3.8%	4.5%	3.9%	⑤ あまり考えないようにしている。
0.6%	0.0%	0.1%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.5%	⑥ 記入ミス・無答

- ・①の「卒業までに絶対達成しようと思っている」が、1年次よりも4.9ポイント増加
- ・②③の進路達成意識が弱い層の割合は、1年次よりも4.8ポイント減少
- 進路達成意識が向上している者が増加していることから、今後は、達成意識が低い者について、さらなる働きかけが重要である。

Q3 普段どんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
10.2%	11.3%	11.0%	9.2%	10.0%	10.5%	12.8%	10.4%	① 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
14.8%	13.1%	13.2%	13.7%	14.1%	13.6%	14.6%	13.7%	② 多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
14.1%	15.3%	17.3%	14.2%	14.1%	15.4%	14.4%	15.7%	③ 入学試験や就職試験に備えたい。
0.7%	1.0%	0.9%	0.9%	1.0%	0.9%	1.0%	1.1%	④ 親や先生にほめられたい。
32.4%	35.2%	34.9%	37.1%	33.3%	34.8%	33.9%	33.1%	⑤ 成績を上げたい。
2.6%	1.9%	2.0%	1.8%	2.4%	2.1%	2.7%	2.1%	⑥ 先生や家族に言われるから勉強している。
22.2%	19.4%	17.7%	20.7%	22.2%	19.9%	18.1%	20.5%	⑦ 特に考えていない。
2.1%	2.6%	2.9%	1.7%	2.5%	2.4%	2.0%	2.6%	⑧ その他
0.9%	0.2%	0.1%	0.7%	0.4%	0.4%	0.5%	0.8%	⑨ 記入ミス・無答

- ・1年次同様、⑤の成績向上を意識して勉強している者が34.8%と高い。
- ・①②の知的好奇心・探究心や社会で役立つことを意識している者が合わせて24.1%いる。
- ・③の進路に関する動機付けと捉えている者が、1年次より1.0ポイント増加
- ・⑥⑦の学習に消極的な層の割合は22.0%で、前年度より0.6ポイント減少
- 学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感させ、学習意欲を喚起していく様々な活動を取り入れた授業実践が今後も望まれる。

Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
6.6%	7.5%	7.5%	5.8%	6.6%	6.9%	7.2%	6.7%	① ほとんどの授業がよく理解できる。
36.0%	40.1%	39.5%	35.8%	36.6%	38.1%	41.0%	36.6%	② 理解できる授業の方が多い。
45.1%	40.5%	41.0%	45.2%	44.3%	42.7%	41.2%	43.1%	③ 理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
9.4%	9.5%	9.3%	10.2%	9.7%	9.6%	8.7%	10.4%	④ 理解できない授業の方が多い。
2.5%	2.0%	2.3%	2.6%	2.0%	2.3%	1.6%	2.7%	⑤ ほとんどの授業が理解できない。
0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.8%	0.4%	0.3%	0.5%	⑥ 記入ミス・無答

- ・①②の「概ね理解できる」と回答した者は45.0%で、前年度より1.7ポイント増加したが、1年次より3.2ポイント減少
- ・④⑤の「あまり理解できない」と回答した者は11.9%で、前年度と比べ1.2ポイント減少、1年次より1.6ポイント増加
- 各学校の「分かる授業」に向けた組織的な授業改善への取組により、調査開始以来5年連続して、「授業が分かりやすい」と感じている層が増加している。ただし、「半分以上の授業が理解できない」と感じている層の割合が、まだ約50%以上もあり、1年次より増加していることから、学習内容が難しくなっても「分かる授業」に向けた一層の授業改善が今後も望まれる。

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
47.5%	57.5%	57.9%	50.7%	52.4%	54.5%	53.7%	59.3%	① 自分で調べる。
36.7%	39.1%	37.8%	37.6%	36.0%	37.7%	36.4%	36.4%	② 学校の先生に質問する。
66.8%	73.3%	70.9%	72.5%	71.9%	71.5%	71.7%	69.9%	③ 友達に聞く。
12.2%	13.8%	12.4%	12.0%	10.8%	12.4%	18.9%	13.9%	④ 家族に聞く。
9.5%	10.7%	11.0%	10.8%	7.8%	10.2%	12.5%	11.8%	⑤ 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
20.0%	17.6%	17.9%	18.1%	16.9%	17.9%	15.2%	20.2%	⑥ そのままにしておく。
2.3%	2.0%	2.5%	2.5%	2.8%	2.4%	2.5%	2.7%	⑦ その他

・①の「自分で調べる」と回答した者は、1年次よりも0.8ポイント増加しているものの、前年度より4.8ポイント減少
 ・最も多いのが③の「友達に聞く」の71.5%で、前年度より1.6ポイント増加
 ・⑥の「そのままにしておく」と回答した者は、前年度より2.3ポイント減少しているものの、1年次より2.7ポイント増加
 ○ 「そのままにしておく」生徒もまだ多いことから、生徒の理解度を計画的にチェックする等の工夫が必要である。

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		得意教科
16.9%	18.3%	19.3%	19.4%	17.7%	18.6%	18.6%	19.7%	① 国語
12.9%	16.3%	16.0%	12.2%	14.9%	14.9%	10.9%	14.7%	② 地理歴史
2.5%	3.2%	3.2%	2.4%	2.2%	2.8%	4.3%	2.6%	③ 公民
18.6%	22.7%	21.7%	19.1%	18.9%	20.7%	20.5%	20.0%	④ 数学
9.7%	9.6%	10.4%	11.5%	10.7%	10.4%	14.6%	10.5%	⑤ 理科
15.4%	13.5%	15.5%	16.0%	12.6%	14.6%	16.5%	14.5%	⑥ 英語
11.8%	7.7%	5.6%	9.8%	11.5%	8.5%	6.4%	8.0%	⑦ 専門教科
11.2%	8.0%	7.8%	9.0%	10.7%	8.9%	7.5%	9.3%	⑧ その他
1.0%	0.7%	0.5%	0.6%	0.8%	0.6%	0.7%	0.7%	⑨ 記入ミス・無答

・数学、国語、地理歴史、英語、理科の順番であり、前年度より数学が0.7ポイント、英語が0.1ポイント、地理歴史が0.2ポイント増加、国語が1.1ポイント、理科が0.1ポイント減少
 ・1年次と比べると、理科が4.2ポイント減少している。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		不得意教科
11.1%	14.5%	14.0%	11.9%	11.2%	13.0%	11.6%	13.3%	① 国語
9.7%	9.6%	8.1%	11.0%	10.7%	9.6%	11.4%	9.7%	② 地理歴史
2.1%	1.5%	2.2%	2.9%	2.7%	2.3%	2.7%	1.8%	③ 公民
34.6%	31.7%	34.0%	34.0%	30.6%	33.0%	31.2%	34.1%	④ 数学
8.2%	8.8%	7.6%	7.1%	7.6%	7.8%	8.6%	7.3%	⑤ 理科
26.5%	29.5%	30.4%	26.5%	29.9%	29.0%	28.1%	28.3%	⑥ 英語
4.4%	2.2%	1.7%	3.3%	3.8%	2.7%	3.1%	2.8%	⑦ 専門教科
2.1%	1.4%	1.4%	2.3%	2.2%	1.8%	1.8%	1.7%	⑧ その他
1.3%	0.8%	0.6%	1.0%	1.3%	0.8%	1.5%	1.0%	⑨ 記入ミス・無答

・1年次同様、数学、英語、国語、地理歴史、理科の順番である。
 ・数学、英語を不得意とする回答が、1年次よりそれぞれ1.8、0.9ポイント増加している。
 ・数学、英語は1年次同様不得意が得意を上回っている。
 ○ 英語または数学を不得意と感じている生徒を合わせると約6割にのぼることから、それらの生徒に対し、学習習慣確立に向けての支援を工夫する必要がある。

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
10.4%	33.0%	16.0%	12.9%	15.8%	18.6%	23.1%	16.1%	① ほとんど毎日出ている。
29.7%	33.4%	37.2%	32.2%	26.8%	32.9%	36.9%	33.1%	② 週に2~3回出ている。
47.7%	21.7%	38.8%	40.5%	33.1%	35.3%	32.1%	37.9%	③ 週に1回くらい出ている。
11.8%	11.7%	7.7%	14.0%	24.0%	12.9%	7.7%	12.6%	④ ほとんど出していない。
0.4%	0.2%	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%	0.2%	0.3%	⑤ 記入ミス・無答

・①、②を合わせた「週あたり2回以上宿題・課題が出される」割合が、1年次より8.5ポイント減少
 ・④の「ほとんど宿題が出されない」割合は、1年次よりも5.2ポイント増加
 ○ 1年次よりも家庭学習時間が減少していることから、2年次においても家庭学習習慣確立に向けて、宿題・課題を効果的に活用していくことが必要である。

Q8 学校からどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストを含む)がありますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
3.5%	22.4%	13.3%	16.6%	8.8%	14.1%	13.3%	12.1%	① ほとんど毎日ある。
26.7%	37.3%	44.0%	35.8%	35.4%	37.7%	35.9%	36.6%	② 週に2~3回ある。
41.3%	20.9%	31.5%	27.1%	32.8%	29.6%	33.9%	30.6%	③ 週に1回くらいある。
27.7%	19.2%	11.2%	20.3%	22.8%	18.4%	16.7%	20.2%	④ ほとんどない。
0.8%	0.2%	0.0%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.5%	⑤ 記入ミス・無答

・①、②を合わせた「週2回以上テストが行われる」割合は51.8%で、1年次より2.6ポイント増加、前年度よりも3.1ポイント増加
 ・④の「ほとんど実施しない」割合は、前年度よりも1.8ポイント減少したが、1年次よりも1.7ポイント増加
 ○ 生徒の理解度を計画的に調査し、学習内容の定着を図るためにも、小テストの活用を推進していくことが必要である。

Q9 あなたが受けた授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
35.6%	31.5%	31.4%	37.3%	31.8%	33.0%	37.3%	34.0%	① 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
4.7%	8.3%	7.4%	4.6%	5.2%	6.4%	7.5%	6.2%	② 発展的な内容まで教えてくれる授業
40.2%	40.3%	41.3%	37.6%	37.3%	39.6%	37.3%	38.8%	③ 興味や関心がもてるような授業
13.2%	15.0%	16.2%	14.7%	17.4%	15.6%	13.2%	15.4%	④ 進路希望達成につながる授業
5.9%	4.9%	3.6%	5.6%	8.1%	5.2%	4.4%	5.3%	⑤ 資格取得につながる授業
0.4%	0.0%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	⑥ 記入ミス・無答

・①の「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」を望む割合が、1年次より4.3ポイント減少し、③の「興味関心がもてるような授業」や④の「進路希望達成につながる授業」を望む割合が、1年次よりそれぞれ2.3、2.4ポイント増加
 ○ 生徒の発達段階、進路希望の具体化、学習内容の深まりに合わせ、生徒の探究心を向上させる授業づくりや学習意欲を向上させる授業内容・授業形態について、各校の創意工夫が望まれる。

Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
41.5%	30.3%	27.4%	36.0%	39.9%	33.2%	23.5%	34.4%	① 全く、またはほとんどしない。
14.1%	13.4%	12.3%	14.1%	12.6%	13.1%	12.4%	12.3%	② 30分より少ない。
15.7%	16.1%	17.4%	16.0%	14.9%	16.3%	19.1%	16.7%	③ 30分～
17.6%	22.3%	25.4%	23.3%	21.2%	22.8%	26.7%	23.3%	④ 1時間～
8.4%	13.6%	13.5%	8.4%	8.7%	11.2%	14.1%	10.4%	⑤ 2時間～
1.6%	3.4%	3.1%	1.2%	1.7%	2.4%	3.1%	2.0%	⑥ 3時間～
0.4%	0.7%	0.5%	0.3%	0.4%	0.5%	0.5%	0.3%	⑦ 4時間～
0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.4%	0.3%	0.2%	0.3%	⑧ 5時間以上
0.5%	0.0%	0.1%	0.4%	0.2%	0.2%	0.4%	0.3%	⑨ 記入ミス・無答

・①の「全く、またはほとんどしない」は、前年度より1.2ポイント減少しているが、1年次より9.7ポイントも増加
 ・④～⑧の「1時間以上」は37.2%で、前年度より0.9ポイント増加しているが、1年次より7.4ポイントも減少
 ・⑤～⑧の「2時間以上」の家庭学習にしっかり取り組んでいる層の割合は14.4%で、前年度より1.4ポイント増加しているが、1年次より3.5ポイントも減少
 ○ 平日の家庭学習時間は、前年度よりも増加する傾向が続いているが、1年次よりも大幅に減少しており、2年次においても継続的に家庭学習習慣の定着のための意識付け及び学習時間増加へのさらなる取組が望まれる。

Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
39.2%	28.1%	21.5%	34.9%	38.8%	30.2%	21.5%	31.4%	① 全く、またはほとんどしない。
13.2%	8.8%	7.6%	12.9%	10.7%	10.0%	9.5%	9.5%	② 30分より少ない。
12.0%	12.0%	11.1%	13.7%	9.0%	11.5%	12.4%	11.8%	③ 30分～
15.7%	18.1%	19.9%	17.4%	17.0%	18.1%	20.6%	20.0%	④ 1時間～
10.9%	15.2%	19.3%	12.1%	13.3%	15.2%	18.8%	15.2%	⑤ 2時間～
5.2%	10.1%	11.6%	5.9%	6.6%	8.7%	10.0%	6.7%	⑥ 3時間～
1.7%	4.8%	5.0%	1.5%	2.7%	3.6%	4.0%	2.7%	⑦ 4時間～
0.7%	1.6%	2.2%	0.8%	0.9%	1.4%	1.8%	1.2%	⑧ 5時間～
0.4%	0.8%	1.0%	0.4%	0.4%	0.7%	0.8%	0.6%	⑨ 6時間～
0.6%	0.4%	0.6%	0.3%	0.5%	0.5%	0.4%	0.4%	⑩ 7時間以上
0.4%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.5%	⑪ 記入ミス・無答

・①の「全く、またはほとんどしない」は前年度より1.2ポイント減少しているが、1年次より8.7ポイント増加
 ・⑤～⑩の「2時間以上」は30.1%で、前年度より3.3ポイント増加しているが、1年次より5.7ポイント減少
 ○ 各学校における「週末課題」等の取組の結果、休日の家庭学習時間が前年度より増加する傾向は続いているが、1年次よりも減少しており、2年次の週末における学習時間増加へのさらなる取組が望まれる。

Q12 家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
11.4%	21.1%	20.1%	13.9%	14.1%	17.3%	20.5%	15.4%	① ほぼ毎日している。
4.6%	4.2%	4.4%	4.6%	4.1%	4.4%	5.7%	4.7%	② 主に平日にしている。
7.6%	4.8%	7.9%	6.2%	5.6%	6.5%	8.4%	6.6%	③ 主に休日にしている。
18.8%	18.6%	16.0%	20.1%	20.0%	18.3%	11.7%	18.4%	④ 主に定期考査前にしている。
5.7%	5.8%	7.0%	5.7%	5.4%	6.1%	7.9%	5.7%	⑤ 主に宿題・課題のあるときにしている。
19.3%	23.4%	25.3%	22.9%	21.6%	23.2%	22.9%	23.5%	⑥ 主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
1.6%	1.0%	1.4%	1.3%	0.8%	1.2%	1.3%	1.3%	⑦ 主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
13.2%	10.5%	9.2%	12.5%	12.3%	11.0%	12.9%	12.0%	⑧ 気が向いたときにしている。
15.9%	9.5%	7.8%	11.3%	14.3%	10.8%	7.6%	11.1%	⑨ 家庭学習はほとんどしない。
1.4%	0.7%	0.8%	1.2%	1.5%	1.0%	0.8%	1.1%	⑩ その他
0.5%	0.4%	0.1%	0.3%	0.3%	0.2%	0.3%	0.2%	⑪ 記入ミス・無答

・①の「ほぼ毎日している」者の割合は、前年度より1.9ポイント増加しているが、1年次より3.2ポイント減少
 ・⑨の「家庭学習はほとんどしない」者の割合は、前年度より0.3ポイント減少しているが、1年次より3.2ポイント増加
 ・④～⑥の自発的な学習となっていない者は47.6%で、1年次より5.1ポイント増加
 ○ 2年次において、その場しのぎの学習となっている者が1年次よりも増えており、長期的な学習計画に従って継続的に学習する姿勢が身に付くように、家庭と連携した学習環境整備と学習習慣の確立のための取組が必要である。

Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
5.9%	4.2%	3.8%	6.5%	6.0%	5.0%	4.6%	5.2%	① 国語
6.9%	5.8%	5.9%	7.8%	5.9%	6.3%	4.1%	6.3%	② 地理歴史
1.4%	0.7%	0.8%	1.9%	1.1%	1.1%	1.4%	0.8%	③ 公民
30.6%	54.0%	45.1%	32.1%	34.5%	41.4%	46.5%	39.5%	④ 数学
5.4%	2.9%	3.4%	4.3%	4.1%	3.8%	5.3%	4.3%	⑤ 理科
18.3%	17.8%	28.0%	23.2%	20.6%	22.5%	23.5%	24.6%	⑥ 英語
18.1%	7.3%	6.2%	11.7%	15.1%	10.2%	7.3%	9.5%	⑦ 専門教科
12.9%	7.3%	6.6%	12.2%	12.2%	9.4%	7.0%	9.3%	⑧ その他
0.5%	0.0%	0.2%	0.3%	0.5%	0.3%	0.3%	0.5%	⑨ 記入ミス・無答

・1年次同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる者の割合が高い。
 ○ Q6の不得意教科において、数学、英語という回答が最も多いことから、数学、英語の学習方法について改めて考えさせるなど、学習方法の指導の在り方を工夫する必要がある。

Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
15.7%	11.2%	12.4%	16.4%	13.7%	13.4%	14.5%	14.6%	① 家庭学習の方法が分からない。
25.2%	29.5%	30.7%	25.8%	27.9%	28.5%	26.7%	29.7%	② 家庭学習に集中できない。
13.7%	15.1%	14.1%	16.2%	14.2%	14.7%	15.2%	15.1%	③ 学習の計画を立てても長続きしない。
15.7%	18.5%	18.0%	15.1%	12.2%	16.4%	20.7%	15.6%	④ 家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.9%	7.5%	7.2%	7.3%	7.2%	7.3%	6.3%	6.4%	⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
3.5%	3.9%	4.4%	2.9%	3.9%	3.8%	3.2%	3.5%	⑥ その他
19.1%	14.2%	13.2%	16.1%	20.5%	15.8%	13.2%	14.8%	⑦ 特に悩みはない。
0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	0.4%	0.1%	0.2%	0.3%	⑧ 記入ミス・無答

・①の「家庭学習の方法が分からない」、④の「家庭学習と部活動の両立が難しい」が1年次よりもそれぞれ1.1、4.3ポイント減少
 ・②の「家庭学習に集中できない」が、1年次より1.8ポイント増加
 ○ 悩みの内容が1年次よりも「家庭学習に集中できない」ことに集中してきており、個人面談等で家庭学習の集中を阻害する要因を再確認し、家庭学習に集中できる環境づくりを生徒及び保護者に考えてもらうなど、家庭との連携をさらに深めていく必要がある。

Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
68.8%	75.0%	77.9%	72.3%	71.0%	74.1%	77.4%	74.3%	① 必ずとる。
16.2%	14.7%	13.1%	15.8%	16.2%	14.8%	13.4%	14.4%	② たいていとる。
7.4%	5.6%	5.4%	6.7%	6.8%	6.1%	5.4%	5.5%	③ とらないことが多い。
7.1%	4.6%	3.6%	4.9%	5.7%	4.8%	3.7%	5.4%	④ 全く、または、ほとんどとらない。
0.5%	0.1%	0.0%	0.3%	0.3%	0.2%	0.1%	0.4%	⑤ 記入ミス・無答

・①の「朝食を必ずとる」生徒は、1年次より3.3ポイント減少し、③、④の朝食をとる習慣のない者の割合が10.9%で、1年次より1.8ポイント増加
 ○ 数学・国語・英語3教科とも、「朝食を必ずとる」と「基礎学力定着度の高さ」との相関関係が強く、朝食をとらないことが学習に及ぼす影響を、生徒だけでなく家庭にも周知していく必要がある。

Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
4.9%	11.5%	9.7%	6.3%	6.1%	8.4%	9.8%	6.6%	① 家庭学習
23.2%	20.5%	21.6%	23.0%	21.9%	21.8%	19.7%	23.2%	② テレビやビデオ
18.4%	17.9%	17.0%	19.9%	18.0%	18.1%	12.4%	14.4%	③ ゲームやインターネット ※H22は「③ ゲームやパソコン」
19.1%	12.2%	13.5%	18.8%	20.3%	15.9%	20.5%	17.8%	④ 電話やメール
3.8%	3.7%	3.8%	4.0%	4.0%	3.9%	3.9%	3.1%	⑤ 読書
15.3%	14.5%	15.3%	14.8%	15.0%	15.0%	16.3%	17.2%	⑥ 自分の趣味
3.8%	4.5%	4.8%	2.9%	3.9%	4.1%	4.5%	4.3%	⑦ 家族との会話
1.4%	1.4%	0.9%	1.6%	1.2%	1.2%	1.3%	1.3%	⑧ 手洗い
9.4%	13.6%	13.1%	8.4%	9.2%	11.3%	11.4%	11.6%	⑨ その他
0.7%	0.2%	0.3%	0.3%	0.4%	0.3%	0.2%	0.5%	⑩ 記入ミス・無答

・①の「家庭学習」は前年度より1.8ポイント増加しているが、1年次より1.4ポイント減少
 ・②の「テレビやビデオ」、③の「ゲームやパソコン」、④の「電話やメール」、⑥の「自分の趣味」の時間が多く、この4項目を合わせると70.8%で、このことがQ14の「家庭学習に集中できない」に影響していると考えられる。
 ・選択項目の変更から、前年度まで④の「電話やメール」に含まれていたと思われる携帯電話によるインターネット使用の割合分、③の「ゲームやインターネット」が前年度より増加
 ○ 携帯電話の多機能化によって、携帯電話の使用時間が増えており、家庭学習時間を確保させていくためには、学校と家庭とのさらなる連携が必要である。

Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオをみますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
7.7%	9.3%	9.7%	7.9%	9.0%	9.0%	8.8%	8.5%	① 全く、またはほとんど見ない。
7.6%	10.0%	10.1%	7.7%	8.2%	9.0%	9.2%	7.6%	② 30分より少ない。
11.4%	16.1%	15.9%	11.0%	10.0%	13.6%	13.5%	12.2%	③ 30分～
25.3%	28.5%	28.6%	24.7%	23.7%	26.7%	26.3%	27.1%	④ 1時間～
22.7%	19.8%	20.2%	22.9%	22.3%	21.2%	21.3%	22.2%	⑤ 2時間～
13.0%	9.7%	10.0%	14.3%	14.5%	11.8%	12.2%	12.2%	⑥ 3時間～
6.8%	3.9%	3.1%	6.4%	6.4%	4.8%	4.8%	5.3%	⑦ 4時間～
4.8%	2.5%	2.2%	4.8%	5.4%	3.6%	3.6%	4.3%	⑧ 5時間以上
0.7%	0.2%	0.2%	0.3%	0.5%	0.3%	0.3%	0.6%	⑨ 記入ミス・無答

・⑥～⑧のテレビやビデオを3時間以上見ている者は、1年次より0.4ポイント減少しているが、まだ約20%もいる。
○ 長時間のテレビやビデオの視聴が「家庭学習に集中できない」という悩みの原因の一つになっていると考えられる。

Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。(※ H22は「ゲームやパソコン」)

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
27.4%	30.1%	29.5%	28.0%	28.2%	28.9%	40.5%	40.8%	① 全く、またはほとんどしない。
13.9%	14.9%	16.5%	12.2%	12.0%	14.3%	14.3%	12.9%	② 30分より少ない。
12.1%	15.1%	14.9%	12.3%	13.0%	13.8%	13.1%	12.2%	③ 30分～
19.4%	18.3%	20.1%	19.9%	19.9%	19.5%	16.2%	16.6%	④ 1時間～
12.7%	10.5%	9.9%	13.5%	12.9%	11.5%	8.5%	8.7%	⑤ 2時間～
7.5%	6.3%	4.7%	7.8%	7.0%	6.3%	4.1%	4.5%	⑥ 3時間～
2.9%	2.6%	1.7%	2.5%	2.9%	2.3%	1.3%	1.8%	⑦ 4時間～
3.2%	2.2%	2.5%	3.3%	3.9%	2.9%	1.7%	2.1%	⑧ 5時間以上
0.9%	0.0%	0.2%	0.5%	0.2%	0.5%	0.3%	0.4%	⑨ 記入ミス・無答

・質問事項の変更から、①の「全く、またはほとんどしない」が前年度より11.9ポイント減少しているが、Q19において「電話やメール」の使用時間が大きく変わっていないことから、パソコンだけでなく携帯電話によるインターネット利用が多いことが窺える。
 このため、⑥～⑧の「3時間以上」の者も、前年度よりも3.1ポイント増加している。
○ 携帯電話によるインターネット利用については、家庭学習に影響の少ない利用の仕方を指導項目に含めていく必要がある。

Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
18.9%	21.0%	19.5%	20.1%	18.9%	19.8%	11.9%	18.6%	① 全く、またはほとんどしない。
24.4%	29.5%	28.1%	23.9%	20.9%	26.0%	23.3%	24.0%	② 30分より少ない。
13.4%	15.2%	16.6%	12.7%	14.1%	14.8%	16.2%	14.5%	③ 30分～
14.9%	13.3%	15.0%	15.0%	13.7%	14.4%	17.4%	14.8%	④ 1時間～
8.9%	9.0%	9.2%	10.9%	11.9%	9.9%	12.2%	10.9%	⑤ 2時間～
7.7%	5.3%	4.8%	6.8%	7.7%	6.1%	8.4%	7.3%	⑥ 3時間～
4.1%	2.5%	2.3%	4.1%	4.6%	3.3%	4.1%	3.3%	⑦ 4時間～
7.0%	4.0%	4.3%	6.4%	7.9%	5.5%	6.3%	6.3%	⑧ 5時間以上
0.7%	0.2%	0.2%	0.1%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	⑨ 記入ミス・無答

・⑤～⑧の2時間以上電話やメールを行っている者は、1年次より6.2ポイント減少しているが、まだ24.8%もいる。
○ 電話やメールは、相手の時間も拘束することから、使用する際のマナーも含めて、家庭と連携を取りながら指導していく必要がある。

Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
55.7%	62.4%	59.2%	54.0%	60.9%	58.9%	54.2%	56.2%	① 全く、またはほとんどしない。
19.5%	16.7%	18.7%	20.2%	16.1%	18.2%	20.4%	19.4%	② 30分より少ない。
10.2%	10.3%	10.1%	10.4%	8.3%	9.9%	12.0%	11.4%	③ 30分～
7.9%	6.3%	6.8%	8.3%	8.3%	7.3%	8.1%	7.6%	④ 1時間～
3.2%	2.5%	2.7%	3.5%	3.3%	3.0%	3.0%	2.9%	⑤ 2時間～
1.5%	1.0%	1.4%	2.0%	1.5%	1.4%	1.3%	1.3%	⑥ 3時間～
0.5%	0.3%	0.3%	0.5%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%	⑦ 4時間～
0.7%	0.3%	0.5%	0.7%	0.8%	0.6%	0.5%	0.5%	⑧ 5時間以上
0.8%	0.2%	0.3%	0.4%	0.5%	0.3%	0.1%	0.3%	⑨ 記入ミス・無答

・約6割近くの者が「全く、またはほとんどしない」状況で、平日の読書はあまり習慣化されていない。
 ・Q17～Q19の「テレビやビデオ」、「ゲームやインターネット」、「電話やメール」にかけている時間に比べて、「読書」にかかる時間は極端に短くなっている。
○ 朝読書を実施している学校が増加しているものの、読解力を育成していくためには、読書の楽しさ等を伝え、家庭や学校において適量の読書を習慣化していく指導が必要である。

Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
3.4%	7.0%	7.2%	3.0%	3.7%	5.4%	6.5%	4.6%	① 家庭学習
20.7%	19.4%	18.3%	21.8%	19.1%	19.6%	18.8%	20.9%	② テレビやビデオ
19.8%	20.1%	18.4%	21.4%	19.7%	19.7%	15.6%	16.5%	③ ゲームやインターネット ※ H22は「③ ゲームやパソコン」
11.9%	7.0%	7.3%	12.8%	12.9%	9.7%	13.2%	10.8%	④ 電話やメール
3.1%	2.4%	2.9%	2.9%	3.2%	2.9%	2.7%	2.5%	⑤ 読書
20.9%	20.5%	23.5%	21.3%	20.8%	21.7%	22.4%	23.4%	⑥ 自分の趣味
2.9%	3.4%	3.0%	2.1%	2.4%	2.8%	3.1%	3.0%	⑦ 家族との対話
1.6%	1.5%	1.2%	1.8%	1.9%	1.5%	1.5%	1.5%	⑧ 手伝い
15.1%	18.5%	17.8%	12.6%	15.9%	16.4%	15.8%	16.4%	⑨ その他
0.6%	0.2%	0.4%	0.3%	0.4%	0.3%	0.4%	0.4%	⑩ 記入ミス・無答

・平日に比べて「自分の趣味」の割合が高くなっており、次いで「ゲームやインターネット」、「テレビやビデオ」の順となっている。
 ・選択項目の変更から、前年度まで④の「電話やメール」に含まれていたと思われる携帯電話によるインターネット使用の割合分、③の「ゲームやインターネット」が前年度より増加

Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
6.6%	6.6%	6.2%	4.6%	8.0%	6.3%	5.7%	6.1%	① 全く、またはほとんど見ない。
3.7%	4.3%	4.5%	3.8%	3.7%	4.1%	3.9%	4.1%	② 30分より少ない。
5.9%	6.6%	7.2%	6.0%	5.5%	6.4%	5.8%	5.7%	③ 30分～
13.7%	17.9%	19.8%	14.8%	12.3%	16.5%	16.6%	15.9%	④ 1時間～
21.5%	23.3%	23.5%	19.0%	19.7%	21.8%	21.9%	22.0%	⑤ 2時間～
17.1%	19.4%	17.4%	19.9%	19.8%	18.7%	18.5%	19.1%	⑥ 3時間～
12.2%	9.1%	10.1%	11.8%	11.3%	10.6%	11.2%	10.5%	⑦ 4時間～
8.1%	6.5%	6.0%	8.9%	8.6%	7.3%	8.0%	7.2%	⑧ 5時間～
3.8%	2.5%	1.8%	4.3%	4.4%	3.1%	3.3%	3.5%	⑨ 6時間～
6.0%	3.6%	3.4%	6.2%	6.0%	4.7%	4.6%	5.5%	⑩ 7時間以上
1.4%	0.2%	0.1%	0.7%	0.7%	0.5%	0.5%	0.4%	⑪ 記入ミス・無答

・2時間から3時間見ている者が最も多く21.8%であり、次いで3時間から4時間見ているものが多く18.7%である。
 ・3時間以上見ている者は、1年次よりは1.2ポイント減少しているものの、依然として44.4%と多い状況である。
 ○ 平日に長時間の学習時間を確保することは難しいため、休日を上手に活用できるかが学習時間確保に大きく影響することから、休日の時間を有効かつ計画的に活用させる指導が必要である。

Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。(※ H22は「ゲームやパソコン」)

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
21.9%	22.2%	23.0%	21.3%	24.4%	22.6%	32.4%	33.8%	① 全く、またはほとんどしない。
9.9%	11.1%	11.6%	10.2%	8.9%	10.6%	11.1%	9.8%	② 30分より少ない。
9.9%	10.5%	10.9%	9.4%	9.3%	10.2%	9.8%	9.3%	③ 30分～
15.6%	18.9%	19.3%	16.4%	15.4%	17.6%	16.7%	16.4%	④ 1時間～
15.3%	14.8%	15.2%	16.0%	15.6%	15.3%	13.0%	12.5%	⑤ 2時間～
11.7%	9.5%	9.3%	11.2%	11.3%	10.3%	7.8%	7.9%	⑥ 3時間～
4.9%	4.7%	4.1%	5.4%	5.3%	4.8%	3.4%	3.5%	⑦ 4時間～
4.1%	3.6%	2.8%	3.8%	4.0%	3.5%	2.4%	2.7%	⑧ 5時間～
1.6%	1.5%	1.1%	1.5%	1.5%	1.4%	0.9%	0.8%	⑨ 6時間～
4.1%	3.1%	2.5%	4.3%	3.9%	3.4%	2.2%	2.8%	⑩ 7時間以上
1.0%	0.1%	0.2%	0.5%	0.4%	0.3%	0.3%	0.5%	⑪ 記入ミス・無答

・質問事項の変更から、①の「全く、またはほとんどしない」が前年度より11.2ポイント減少しているが、Q24において「電話やメール」の使用時間が大きく変わっていないことから、パソコンだけでなく携帯電話によるインターネット利用が多いことが窺える。このため、⑥～⑩の「3時間以上」の者も、前年度よりも5.7ポイント増加している。

Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
17.5%	19.3%	17.7%	17.1%	16.5%	17.8%	10.9%	17.5%	① 全く、またはほとんどしない。
20.0%	24.9%	23.5%	20.8%	18.9%	22.1%	18.2%	20.1%	② 30分より少ない。
13.1%	14.7%	14.6%	11.4%	12.3%	13.5%	14.2%	12.7%	③ 30分～
14.5%	13.7%	16.2%	13.7%	14.4%	14.7%	16.5%	14.8%	④ 1時間～
8.7%	9.9%	9.9%	11.6%	11.0%	10.3%	12.7%	11.2%	⑤ 2時間～
8.9%	6.7%	7.2%	7.5%	7.6%	7.4%	9.8%	7.8%	⑥ 3時間～
4.6%	3.6%	3.6%	5.4%	4.8%	4.2%	5.4%	4.5%	⑦ 4時間～
3.4%	2.6%	2.7%	4.8%	5.4%	3.6%	4.5%	4.0%	⑧ 5時間～
2.4%	1.2%	1.1%	1.8%	2.0%	1.5%	2.0%	1.6%	⑨ 6時間～
5.9%	3.2%	3.2%	5.5%	6.6%	4.5%	5.5%	5.3%	⑩ 7時間以上
1.0%	0.2%	0.3%	0.4%	0.5%	0.4%	0.3%	0.5%	⑪ 記入ミス・無答

・⑥～⑩の「1日3時間以上」の長い時間を電話やメールで過ごしている者は、1年次よりも6.0ポイント減少しているものの、まだ21.2%いる。

Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H22		
58.5%	61.4%	59.5%	59.9%	63.0%	60.5%	57.5%	60.8%	① 全く、またはほとんどしない。
14.3%	13.7%	14.9%	13.0%	10.9%	13.6%	14.1%	13.1%	② 30分より少ない。
8.9%	8.3%	9.1%	8.3%	7.6%	8.5%	9.8%	9.3%	③ 30分～
8.6%	8.6%	8.0%	9.4%	8.4%	8.5%	9.3%	8.7%	④ 1時間～
4.3%	4.0%	4.6%	4.4%	4.7%	4.4%	4.7%	4.0%	⑤ 2時間～
2.2%	2.1%	2.1%	2.6%	2.6%	2.3%	2.4%	1.8%	⑥ 3時間～
0.9%	0.8%	0.5%	0.8%	0.8%	0.7%	0.9%	0.8%	⑦ 4時間～
0.5%	0.5%	0.4%	0.7%	1.0%	0.6%	0.5%	0.5%	⑧ 5時間～
0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	⑨ 6時間～
0.2%	0.1%	0.5%	0.5%	0.5%	0.4%	0.4%	0.5%	⑩ 7時間以上
1.3%	0.3%	0.2%	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%	⑪ 記入ミス・無答

・①の「全く、またはほとんどしない」者の割合が、平日での割合をさらに上回り、60%を超える高い割合になっている。
 ○ 多くの生徒が、平日に読書の時間を確保することが難しい状況にあることも窺えることから、休日を上手に活用する等、計画的な生活習慣を確立させる指導が必要である。

まとめ

<進路希望の変化と学習意欲>

- ・1年次よりも進路希望未定者が6.1ポイント減少し、私立大学希望者が4.9ポイント、就職希望者が4.8ポイント増加していることなどから、進路希望が具体化してきている。
- ・進路希望の達成についての考えも、1年次より「卒業までには絶対達成しよう」と思っている生徒が4.9ポイント増加し、「達成するまで、卒業後1、2年かかってかまわない」、「卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいい」と思っている生徒が4.8ポイント減少し、進路希望の実現に向けた意識が高まっている。
- ・授業については、「進路希望達成につながる授業」を望む生徒が、1年次より2.4ポイント増加している。

このことに対して、

- ・「授業が理解できる」と回答した生徒が1年次より3.2ポイント減少し、数学や英語が不得意であると回答している生徒が、1年次より2.7ポイント増加している。
- ・平日の家庭学習時間が「1時間以上」の生徒が、1年次よりも7.4ポイントも減少していて、家庭学習をする上で悩んでいることは、1年次より「家庭学習に集中できない」ことに集中する傾向がある。

○ 進路希望の実現に向けた意識は向上しているものの、逆に進路希望実現に向けた具体的な取組が伴わないため、学習に対する悩みが大きくなっていることから、2年次においては、1年次にも増して、学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感させ、実感の伴った理解が得られる授業づくりが求められており、個々の目標達成に向けた学習方法や学習習慣を身に付けさせ、学習意欲を向上させていくための踏み込んだ指導が必要とされている。

<学習習慣の確立>

- ・平日、休日に「全く学習しない」生徒が、1年次よりそれぞれ9.7、8.7ポイントも増加しており、家庭学習時間が平日、休日ともに減少してきている。
- ・学習の仕方も、自発的な学習となっていない生徒が約50%弱もいて、学習がその場しのぎの対応になっていたり、学校から「宿題・課題が「週に2回以上」出される割合も、1年次より8.5%も減少している。
- ・平日に家の中で最も時間をかけて行っているものとして、「テレビやビデオ」、「ゲームやインターネット」、「電話やメール」、「自分の趣味」と回答している生徒は7割以上もいる。

○ 「中だるみ」とも言われる2学年においては、1年次以上に、家庭での学習状況を把握し、個人面談等を通して、家庭学習の集中を阻害する要因を確認し、家庭学習に集中できる環境づくりを家庭と連携しながら推進していく必要がある。

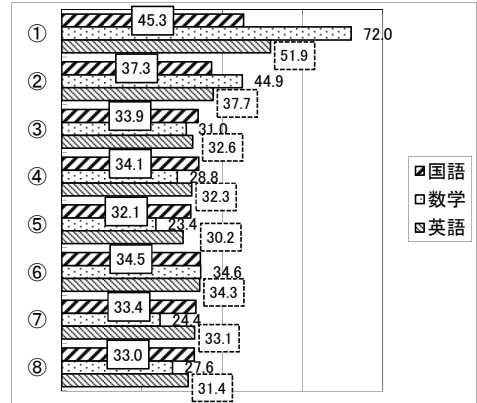
以上のことから、進路希望を実現するための学習に留まらず、これからの社会で生き抜くために必要な「主体的に考え学ぶ姿勢」を身に付けるために、日頃どのような姿勢で学習に取り組むかなどを適宜アドバイスし、明確な目標を定めさせ積極的に学習に取り組ませるための指導の工夫が必要である。また、授業が理解できないために学習意欲が低下し、逃避的な生活とならないように、興味・関心が高まり、探究心が育まれるような授業づくりが、1年次以上に必要であり、普段の授業等を通して「学ぶ喜び」をいかに与えていくかを検討していく必要がある。また、学校においては、平日だけでなく休日も効果的に時間を活用する学習習慣を確立させるための工夫を、家庭と連携しながら繰り返し、継続的に指導していくような踏み込んだ指導がなお一層求められる。

平成23年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査回答別正答率(教科との関連)(2学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

H23 1年次

32.6%	35.3%	①	4年制国公立大学
16.2%	11.3%	②	4年制私立大学
3.2%	3.6%	③	短期大学
15.6%	16.1%	④	専修学校・各種学校
20.2%	15.3%	⑤	民間就職
3.8%	3.9%	⑥	公務員就職
0.3%	0.3%	⑦	家業
6.5%	12.6%	⑧	未定
1.5%	1.6%	⑨	その他
0.1%	0.0%	⑩	記入ミス・無答

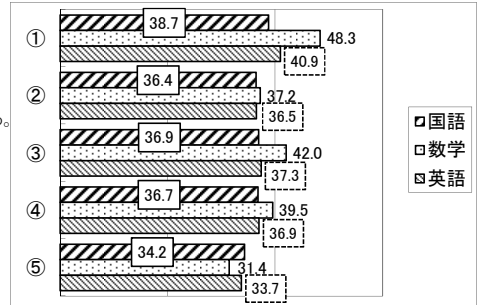


※ グラフの数値は、国語、数学及び英語の正答率

Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

H23 1年次

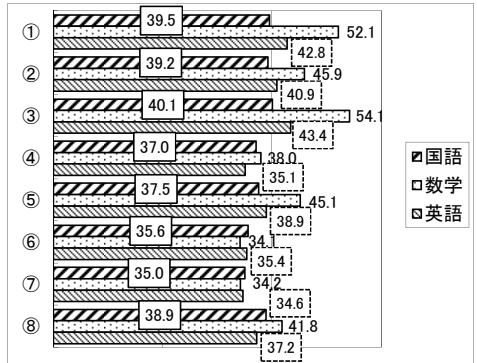
61.0%	56.1%	①	卒業までに絶対達成しようと思っている。
9.1%	11.2%	②	達成するまで、卒業後1,2年かかってかまわないと思っている。
16.8%	19.5%	③	卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
9.1%	8.5%	④	何とかなるだろうと思っている。
3.8%	4.5%	⑤	あまり考えないようにしている。
0.2%	0.2%	⑥	記入ミス・無答



Q3 普段どんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

H23 1年次

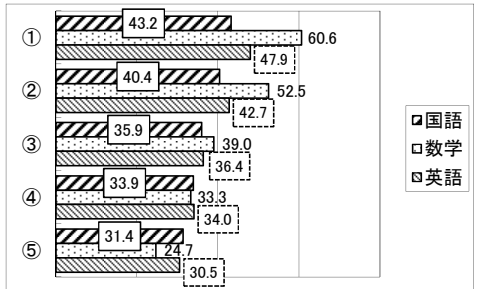
10.5%	12.8%	①	分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
13.6%	14.6%	②	多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
15.4%	14.4%	③	入学試験や就職試験に備えたい。
0.9%	1.0%	④	親や先生にほめられたい。
34.8%	33.9%	⑤	成績を上げたい。
2.1%	2.7%	⑥	先生や家族に言われるから勉強している。
19.9%	18.1%	⑦	特に考えていない。
2.4%	2.0%	⑧	その他
0.4%	0.5%	⑨	記入ミス・無答



Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

H23 1年次

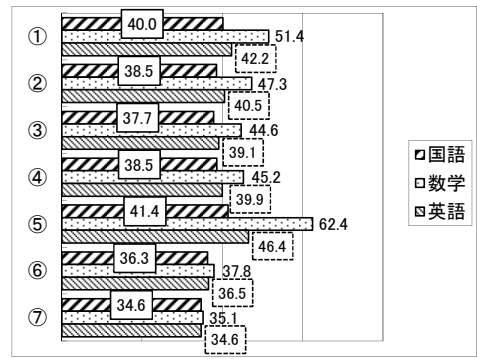
6.9%	7.2%	①	ほとんどの授業がよく理解できる。
38.1%	41.0%	②	理解できる授業の方が多い。
42.7%	41.2%	③	理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
9.6%	8.7%	④	理解できない授業の方が多い。
2.3%	1.6%	⑤	ほとんどの授業が理解できない。
0.4%	0.3%	⑥	記入ミス・無答



Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

H23 1年次

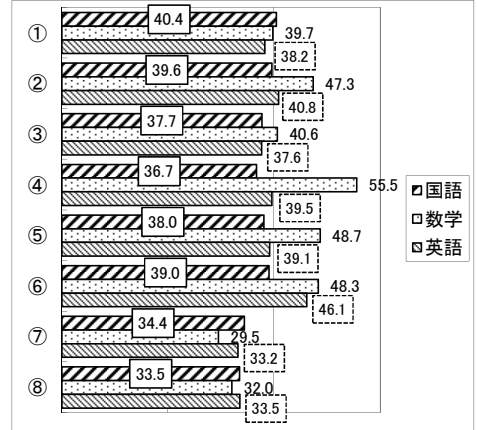
- 54.5% 53.7% ① 自分で調べる。
 37.7% 36.4% ② 学校の先生に質問する。
 71.5% 71.7% ③ 友達に聞く。
 12.4% 18.9% ④ 家族に聞く。
 10.2% 12.5% ⑤ 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
 17.9% 15.2% ⑥ そのままにしておく。
 2.4% 2.5% ⑦ その他



Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

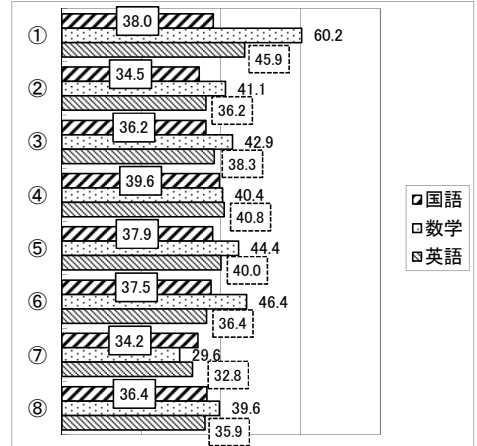
H23 1年次 得意教科

- 18.6% 18.6% ① 国語
 14.9% 10.9% ② 地理歴史
 2.8% 4.3% ③ 公民
 20.7% 20.5% ④ 数学
 10.4% 14.6% ⑤ 理科
 14.6% 16.5% ⑥ 英語
 8.5% 6.4% ⑦ 専門教科
 8.9% 7.5% ⑧ その他
 0.6% 0.7% ⑨ 記入ミス・無答



H23 1年次 不得意教科

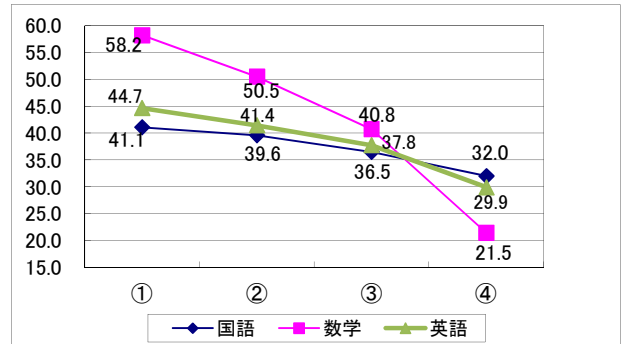
- 13.0% 11.6% ① 国語
 9.6% 11.4% ② 地理歴史
 2.3% 2.7% ③ 公民
 33.0% 31.2% ④ 数学
 7.8% 8.6% ⑤ 理科
 29.0% 28.1% ⑥ 英語
 2.7% 3.1% ⑦ 専門教科
 1.8% 1.8% ⑧ その他
 0.8% 1.5% ⑨ 記入ミス・無答



Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

H23 1年次

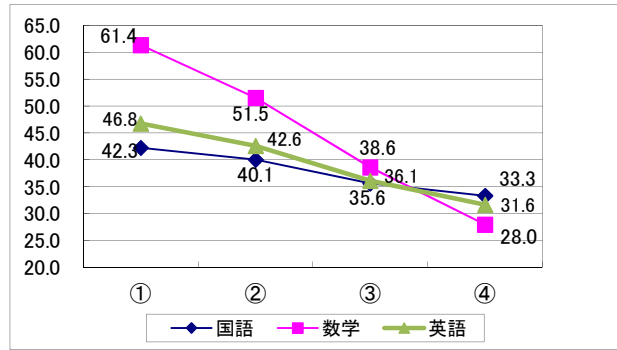
- 18.6% 23.1% ① ほとんど毎日出ている。
 32.9% 36.9% ② 週に2~3回出ている。
 35.3% 32.1% ③ 週に1回ぐらい出ている。
 12.9% 7.7% ④ ほとんど出していない。
 0.3% 0.2% ⑤ 記入ミス・無答



Q8 学校ではどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストも含む。)がありますか。

H23 1年次

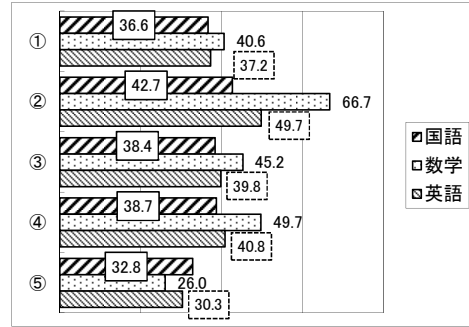
- 14.1% 13.3% ① ほとんど毎日ある。
 37.7% 35.9% ② 週に2~3回ある。
 29.6% 33.9% ③ 週に1回ぐらいある。
 18.4% 16.7% ④ ほとんどない。
 0.2% 0.2% ⑤ 記入ミス・無答



Q9 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

H23 1年次

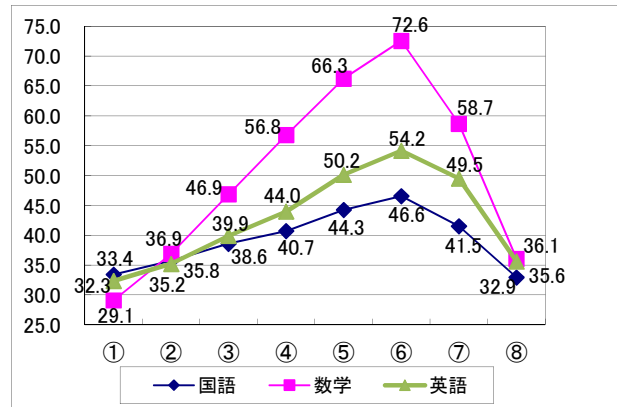
- 33.0% 37.3% ① 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
 6.4% 7.5% ② 発展的な内容まで教えてくれる授業
 39.6% 37.3% ③ 興味や関心がもてるような授業
 15.6% 13.2% ④ 進路希望達成につながる授業
 5.2% 4.4% ⑤ 資格取得につながる授業
 0.2% 0.3% ⑥ 記入ミス・無答



Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

H23 1年次

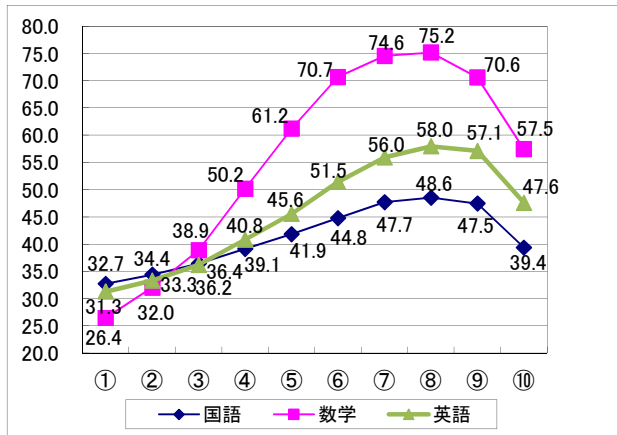
- 33.2% 23.5% ① 全く、またはほとんどしない。
 13.1% 12.4% ② 30分より少ない。
 16.3% 19.1% ③ 30分~
 22.8% 26.7% ④ 1時間~
 11.2% 14.1% ⑤ 2時間~
 2.4% 3.1% ⑥ 3時間~
 0.5% 0.5% ⑦ 4時間~
 0.3% 0.2% ⑧ 5時間以上
 0.2% 0.4% ⑨ 記入ミス・無答



Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

H23 1年次

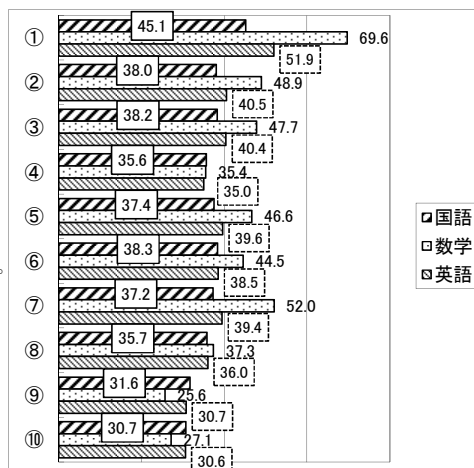
- 30.2% 21.5% ① 全く、またはほとんどしない。
 10.0% 9.5% ② 30分より少ない。
 11.5% 12.4% ③ 30分~
 18.1% 20.6% ④ 1時間~
 15.2% 18.8% ⑤ 2時間~
 8.7% 10.0% ⑥ 3時間~
 3.6% 4.0% ⑦ 4時間~
 1.4% 1.8% ⑧ 5時間~
 0.7% 0.8% ⑨ 6時間~
 0.5% 0.4% ⑩ 7時間以上
 0.1% 0.2% ⑪ 記入ミス・無答



Q12 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。

H23 1年次

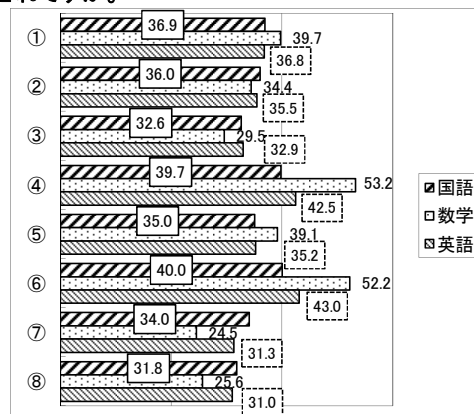
- 17.3% 20.5% ① ほぼ毎日している。
- 4.4% 5.7% ② 主に平日にしている。
- 6.5% 8.4% ③ 主に休日にしている。
- 18.3% 11.7% ④ 主に定期考査前にしている。
- 6.1% 7.9% ⑤ 主に宿題・課題のあるときにしている。
- 23.2% 22.9% ⑥ 主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
- 1.2% 1.3% ⑦ 主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
- 11.0% 12.9% ⑧ 気が向いたときにしている。
- 10.8% 7.6% ⑨ 家庭学習はほとんどしない。
- 1.0% 0.8% ⑩ その他
- 0.3% 0.3% ⑪ 記入ミス・無答



Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

H23 1年次

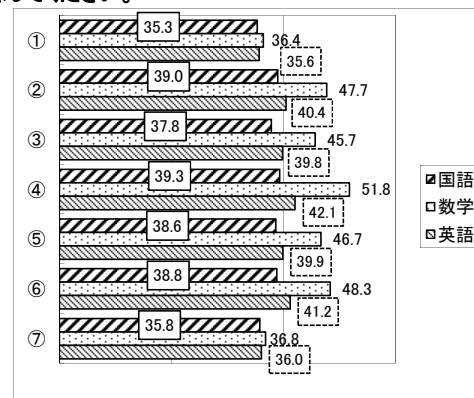
- 5.0% 4.6% ① 国語
- 6.3% 4.1% ② 地理歴史
- 1.1% 1.4% ③ 公民
- 41.4% 46.5% ④ 数学
- 3.8% 5.3% ⑤ 理科
- 22.5% 23.5% ⑥ 英語
- 10.2% 7.3% ⑦ 専門教科
- 9.4% 7.0% ⑧ その他
- 0.3% 0.3% ⑨ 記入ミス・無答



Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

H23 1年次

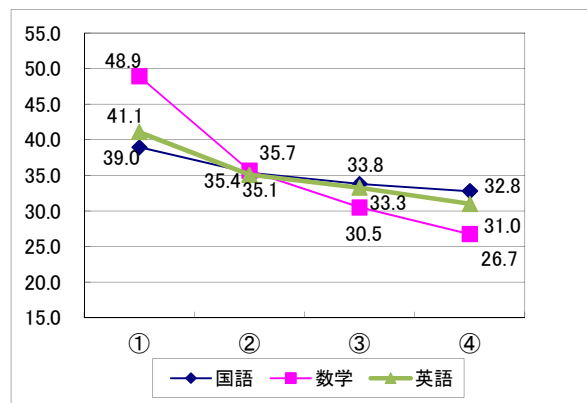
- 13.4% 14.5% ① 家庭学習の方法が分からない。
- 28.5% 26.7% ② 家庭学習に集中できない。
- 14.7% 15.2% ③ 学習の計画を立てても長続きしない。
- 16.4% 20.7% ④ 家庭学習と部活動の両立が難しい。
- 7.3% 6.3% ⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
- 3.8% 3.2% ⑥ その他
- 15.8% 13.2% ⑦ 特に悩みはない。
- 0.1% 0.2% ⑧ 記入ミス・無答



Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

H23 1年次

- 74.1% 77.4% ① 必ずとる。
- 14.8% 13.4% ② たいていとる。
- 6.1% 5.4% ③ とらないことが多い。
- 4.8% 3.7% ④ 全く、または、ほとんどとらない。
- 0.2% 0.1% ⑤ 記入ミス・無答

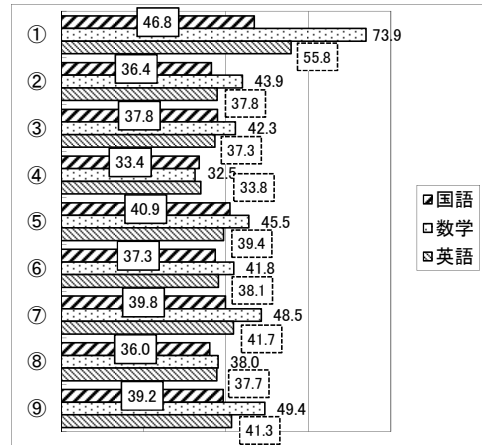


Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

H23 1年次

- 8.4% 9.8% ① 家庭学習
- 21.8% 19.7% ② テレビやビデオ
- 18.1% 12.4% ③ ゲームやインターネット
- 15.9% 20.5% ④ 電話やメール
- 3.9% 3.9% ⑤ 読書
- 15.0% 16.3% ⑥ 自分の趣味(③, ⑤を除く)
- 4.1% 4.5% ⑦ 家族との会話
- 1.2% 1.3% ⑧ 手伝い
- 11.3% 11.4% ⑨ その他
- 0.3% 0.2% ⑩ 記入ミス・無答

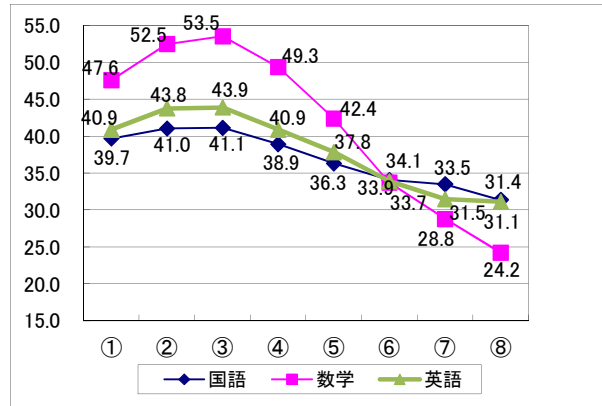
※ 1年次の③は「ゲームやパソコン」で集計



Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

H23 1年次

- 9.0% 8.8% ① 全く、またはほとんど見ない。
- 9.0% 9.2% ② 30分より少ない。
- 13.6% 13.5% ③ 30分～
- 26.7% 26.3% ④ 1時間～
- 21.2% 21.3% ⑤ 2時間～
- 11.8% 12.2% ⑥ 3時間～
- 4.8% 4.8% ⑦ 4時間～
- 3.6% 3.6% ⑧ 5時間以上
- 0.3% 0.3% ⑨ 記入ミス・無答

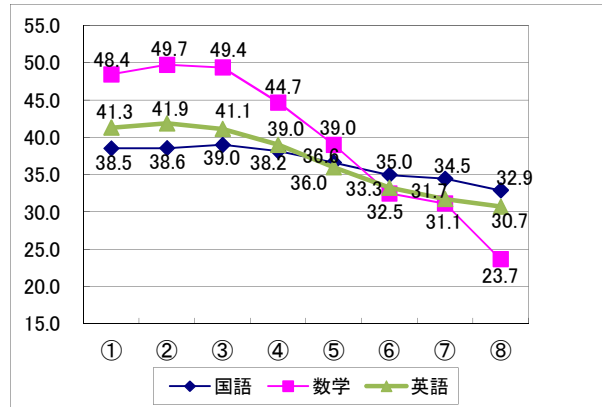


Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。

H23 1年次

- 28.9% 40.5% ① 全く、またはほとんどしない。
- 14.3% 14.3% ② 30分より少ない。
- 13.8% 13.1% ③ 30分～
- 19.5% 16.2% ④ 1時間～
- 11.5% 8.5% ⑤ 2時間～
- 6.3% 4.1% ⑥ 3時間～
- 2.3% 1.3% ⑦ 4時間～
- 2.9% 1.7% ⑧ 5時間以上
- 0.5% 0.3% ⑨ 記入ミス・無答

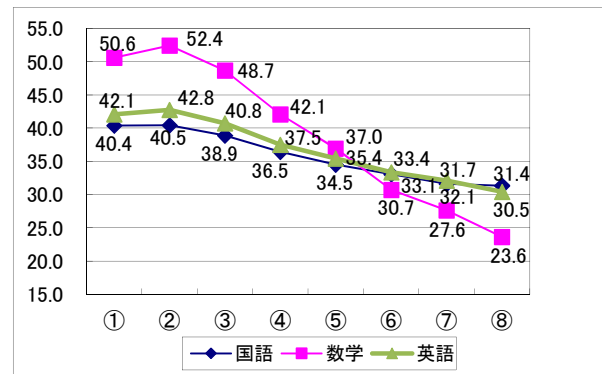
※ 1年次は「ゲームやパソコン」で集計



Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

H23 1年次

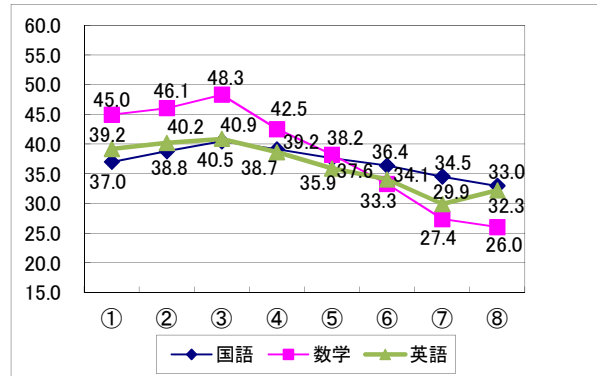
- 19.8% 11.9% ① 全く、またはほとんどしない。
- 26.0% 23.3% ② 30分より少ない。
- 14.8% 16.2% ③ 30分～
- 14.4% 17.4% ④ 1時間～
- 9.9% 12.2% ⑤ 2時間～
- 6.1% 8.4% ⑥ 3時間～
- 3.3% 4.1% ⑦ 4時間～
- 5.5% 6.3% ⑧ 5時間以上
- 0.2% 0.2% ⑨ 記入ミス・無答



Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

H23 1年次

58.9%	54.2%	① 全く、またはほとんどしない。
18.2%	20.4%	② 30分より少ない。
9.9%	12.0%	③ 30分～
7.3%	8.1%	④ 1時間～
3.0%	3.0%	⑤ 2時間～
1.4%	1.3%	⑥ 3時間～
0.4%	0.4%	⑦ 4時間～
0.6%	0.5%	⑧ 5時間以上
0.3%	0.1%	⑨ 記入ミス・無答

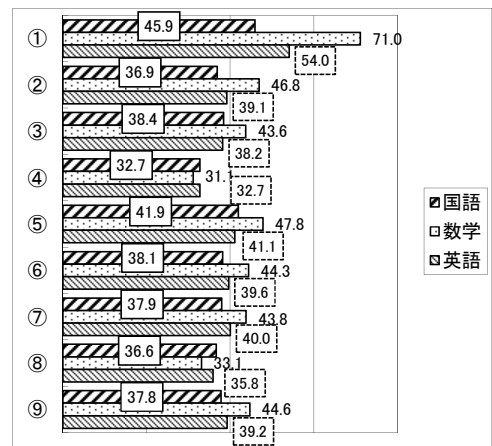


Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

H23 1年次

5.4%	6.5%	① 家庭学習
19.6%	18.8%	② テレビやビデオ
19.7%	15.6%	③ ゲームやインターネット
9.7%	13.2%	④ 電話やメール
2.9%	2.7%	⑥ 読書
21.7%	22.4%	⑤ 自分の趣味
2.8%	3.1%	⑦ 家族との対話
1.5%	1.5%	⑧ 手伝い
16.4%	15.8%	⑨ その他
0.3%	0.4%	⑩ 記入ミス・無答

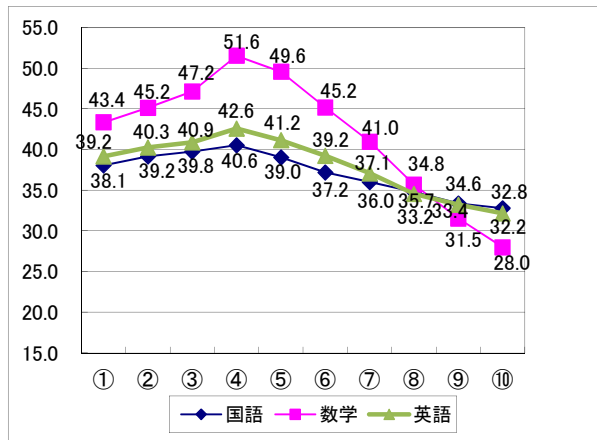
※ 1年次の③は「ゲームやパソコン」で集計



Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

H23 1年次

6.3%	5.7%	① 全く、またはほとんど見ない。
4.1%	3.9%	② 30分より少ない。
6.4%	5.8%	③ 30分～
16.5%	16.6%	④ 1時間～
21.8%	21.9%	⑤ 2時間～
18.7%	18.5%	⑥ 3時間～
10.6%	11.2%	⑦ 4時間～
7.3%	8.0%	⑧ 5時間～
3.1%	3.3%	⑨ 6時間～
4.7%	4.6%	⑩ 7時間以上
0.5%	0.5%	⑪ 記入ミス・無答

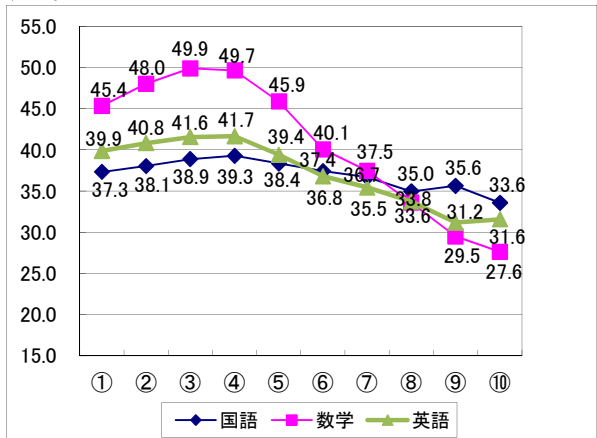


Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。

H23 1年次

22.6%	32.4%	① 全く、またはほとんどしない。
10.6%	11.1%	② 30分より少ない。
10.2%	9.8%	③ 30分～
17.6%	16.7%	④ 1時間～
15.3%	13.0%	⑤ 2時間～
10.3%	7.8%	⑥ 3時間～
4.8%	3.4%	⑦ 4時間～
3.5%	2.4%	⑧ 5時間～
1.4%	0.9%	⑨ 6時間～
3.4%	2.2%	⑩ 7時間以上
0.3%	0.3%	⑪ 記入ミス・無答

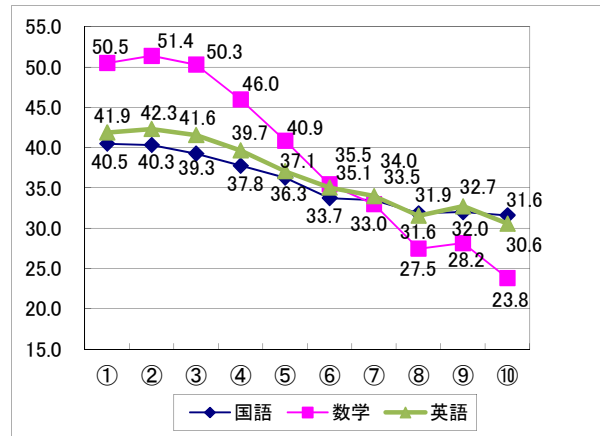
※ 1年次は「ゲームやパソコン」で集計



Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

H23 1年次

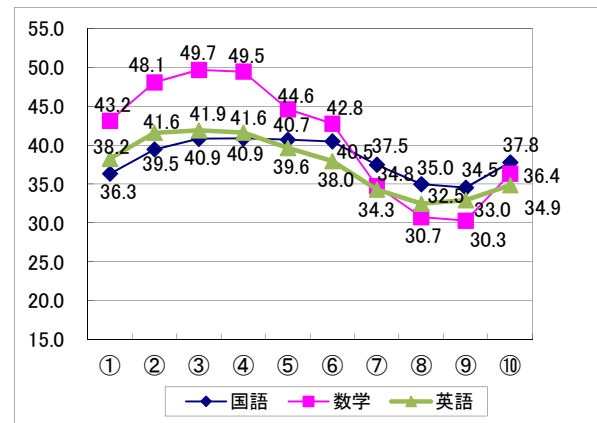
17.8%	10.9%	①	全く、またはほとんどしない。
22.1%	18.2%	②	30分より少ない。
13.5%	14.2%	③	30分～
14.7%	16.5%	④	1時間～
10.3%	12.7%	⑤	2時間～
7.4%	9.8%	⑥	3時間～
4.2%	5.4%	⑦	4時間～
3.6%	4.5%	⑧	5時間～
1.5%	2.0%	⑨	6時間～
4.5%	5.5%	⑩	7時間以上
0.4%	0.3%	⑪	記入ミス・無答



Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

H23 1年次

60.5%	57.5%	①	全く、またはほとんどしない。
13.6%	14.1%	②	30分より少ない。
8.5%	9.8%	③	30分～
8.5%	9.3%	④	1時間～
4.4%	4.7%	⑤	2時間～
2.3%	2.4%	⑥	3時間～
0.7%	0.9%	⑦	4時間～
0.6%	0.5%	⑧	5時間～
0.2%	0.2%	⑨	6時間～
0.4%	0.4%	⑩	7時間以上
0.3%	0.2%	⑪	記入ミス・無答



平成23年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果(1学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在最も強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
18.1%	40.2%	47.3%	24.4%	21.6%	34.2%	35.3% ① 4年制国公立大学
9.8%	13.1%	14.3%	5.6%	8.6%	11.0%	11.3% ② 4年制私立大学
3.7%	1.7%	2.4%	4.5%	3.6%	3.0%	3.6% ③ 短期大学
18.6%	15.0%	13.8%	19.7%	20.4%	16.7%	16.1% ④ 専修学校・各種学校
28.7%	14.9%	8.8%	21.4%	21.8%	16.7%	15.3% ⑤ 民間就職
5.7%	3.0%	2.5%	5.3%	6.2%	4.1%	3.9% ⑥ 公務員就職
0.3%	0.3%	0.1%	0.7%	0.6%	0.3%	0.3% ⑦ 家業
13.0%	10.5%	9.5%	16.4%	15.5%	12.4%	12.6% ⑧ 未定
1.4%	1.1%	1.2%	1.9%	1.4%	1.3%	1.6% ⑨ その他
0.7%	0.2%	0.1%	0.1%	0.3%	0.3%	0.0% ⑩ 記入ミス・無答

- ・①の「国公立大」、②の「私立大」、③の「短大」進学希望者は、前年度よりそれぞれ1.1、0.3、0.6ポイント減少
- ・大学等進学希望者(①～③)は、48.2%で、前年度より2.0ポイント減少
- ・就職希望者(⑤～⑦)は、21.1%で、前年度より1.6ポイント増加

○ 調査開始以来初めて、大学進学希望者が減少に転じた。

Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
55.3%	53.8%	56.1%	56.4%	52.5%	55.0%	56.1% ① 卒業までに絶対達成しようと思っている。
12.2%	12.9%	11.1%	13.1%	13.0%	12.3%	11.2% ② 達成するまで、卒業後1、2年かかってもかまわないと思っている。
18.9%	21.2%	19.9%	17.3%	20.2%	19.7%	19.5% ③ 卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
8.7%	8.0%	8.2%	7.7%	9.2%	8.3%	8.5% ④ 何とかなるだろうと思っている。
4.3%	3.9%	4.5%	5.3%	4.8%	4.6%	4.5% ⑤ あまり考えないようにしている。
0.6%	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%	0.2% ⑥ 記入ミス・無答

- ・①の「卒業までに絶対達成しようと思っている」と回答した者が、前年度より1.1ポイント減少
- ・②の「卒業後1、2年かかってもかまわない」と回答した者が、前年度より1.1ポイント増加
- ・③～④のような進路意識の希薄な層の割合は大きな変化がなかった。

○ 自分の進路を1年次から段階的に考えることができるよう、ライフプランを踏まえたキャリア教育を引き続き体系化して行う必要がある。

Q3 普段どんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
11.7%	13.7%	13.3%	10.8%	11.9%	12.5%	12.8% ① 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
16.5%	15.4%	15.1%	16.9%	16.1%	15.8%	14.6% ② 多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
16.1%	14.9%	15.3%	13.9%	13.9%	14.8%	14.4% ③ 入学試験や就職試験に備えたい。
1.0%	1.4%	1.0%	0.9%	0.8%	1.0%	1.0% ④ 親や先生にほめられたい。
30.4%	33.8%	32.9%	35.7%	33.4%	33.4%	33.9% ⑤ 成績を上げたい。
1.7%	2.1%	2.5%	2.1%	2.8%	2.3%	2.7% ⑥ 先生や家族に言われるから勉強している。
19.7%	16.4%	17.0%	17.1%	18.7%	17.4%	18.1% ⑦ 特に考えていない。
2.5%	2.3%	2.5%	2.0%	2.0%	2.3%	2.0% ⑧ その他
0.4%	0.0%	0.4%	0.6%	0.4%	0.5%	0.5% ⑨ 記入ミス・無答

- ・①②の知的好奇心・探究心や社会で役立つことを意識している者が合わせて28.3%で、前年度より0.9ポイント増加
- ・③の進路に関する動機付けと捉えている者が、前年度より0.4ポイント増加
- ・⑥⑦の学習に消極的な層の割合は19.7%で、前年度より1.1ポイント減少

○ 学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感させ、学習意欲を喚起していく様々な活動を取り入れた授業実践が今後も望まれる。

Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
6.2%	6.9%	8.3%	6.3%	7.0%	7.2%	7.2% ① ほとんどの授業がよく理解できる。
42.2%	45.6%	43.7%	40.8%	40.7%	42.9%	41.0% ② 理解できる授業の方が多い。
41.6%	38.3%	38.4%	43.7%	43.1%	40.5%	41.2% ③ 理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
7.4%	7.8%	7.7%	7.4%	7.6%	7.6%	8.7% ④ 理解できない授業の方が多い。
1.5%	1.3%	1.6%	1.3%	1.4%	1.4%	1.6% ⑤ ほとんどの授業が理解できない。
1.1%	0.1%	0.3%	0.5%	0.2%	0.4%	0.3% ⑥ 記入ミス・無答

- ・①②の「概ね理解できる」と回答した者は50.1%で、前年度より1.9ポイント増加し、調査開始以来初めて50%を超えた。
- ・④⑤の「あまり理解できない」と回答した者は9.0%で、前年度と比べ1.3ポイント減少

○ 各学校の「分かる授業」に向けた組織的な授業改善への取組により、調査開始以来7年連続して、「授業が分かりやすい」と感じている層が増加している。ただし、「半分以上の授業が理解できない」と感じている層が、まだ約50%もいることから、言語活動を取り入れながら「分かる授業」に向けた一層の授業改善が今後も望まれる。

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
51.6%	58.5%	57.8%	50.8%	54.9%	55.5%	53.7% ① 自分で調べる。
37.8%	36.8%	36.1%	32.2%	36.3%	35.7%	36.4% ② 学校の先生に質問する。
72.5%	75.3%	72.6%	73.4%	71.7%	73.2%	71.7% ③ 友達に聞く。
15.3%	21.1%	21.7%	17.6%	16.7%	19.3%	18.9% ④ 家族に聞く。
10.1%	11.8%	13.0%	11.5%	9.5%	11.6%	12.5% ⑤ 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
14.1%	12.6%	13.9%	14.6%	12.8%	13.6%	15.2% ⑥ そのままにしておく。
2.6%	1.8%	2.0%	2.2%	2.2%	2.1%	2.5% ⑦ その他

- ・①の「自分で調べる」と回答した者は、前年度より1.8ポイント増加
- ・最も多いのが③の「友達に聞く」の73.2%で、前年度より1.5ポイント増加
- ・⑥の「そのままにしておく」と回答した者は、前年度より1.6ポイント減少したが、依然として多い。
- 分からないことは友達に聞きやすく感じていることから、「学び合い」の授業は効果的と考えられる。また、「そのままにしておく」生徒もまだ多いことから、生徒の理解度を計画的にチェックする等の工夫が必要である。

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22 得意教科
21.7%	17.5%	18.5%	20.1%	18.9%	18.9%	18.6% ① 国語
11.7%	10.9%	12.3%	11.7%	11.0%	11.6%	10.9% ② 地理歴史
3.5%	3.7%	5.1%	3.2%	4.4%	4.2%	4.3% ③ 公民
21.9%	22.7%	22.1%	22.6%	22.5%	22.4%	20.5% ④ 数学
11.0%	14.5%	14.1%	12.2%	12.6%	13.3%	14.6% ⑤ 理科
13.2%	16.0%	16.0%	15.0%	13.3%	15.1%	16.5% ⑥ 英語
7.9%	6.7%	5.2%	5.7%	8.5%	6.5%	6.4% ⑦ 専門教科
7.3%	7.5%	6.1%	8.8%	7.9%	7.3%	7.5% ⑧ その他
1.8%	0.5%	0.6%	0.7%	0.9%	0.7%	0.7% ⑨ 記入ミス・無答

- ・数学、国語、英語、理科、地理歴史の順番であり、前年度より数学が1.9ポイント、国語が0.3ポイント、地理歴史が0.7ポイント増加、英語が1.4ポイント、理科が1.3ポイント減少

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22 不得意教科
7.7%	14.8%	15.3%	10.4%	9.4%	12.5%	11.6% ① 国語
14.5%	9.7%	10.6%	14.9%	10.6%	11.6%	11.4% ② 地理歴史
2.6%	3.1%	3.0%	2.5%	3.1%	2.9%	2.7% ③ 公民
28.6%	27.5%	31.0%	26.3%	25.4%	28.2%	31.2% ④ 数学
8.1%	10.6%	8.4%	9.9%	10.0%	9.4%	8.6% ⑤ 理科
30.6%	29.4%	28.2%	29.4%	35.3%	30.1%	28.1% ⑥ 英語
4.4%	3.4%	1.4%	3.5%	3.2%	2.8%	3.1% ⑦ 専門教科
1.1%	1.0%	1.3%	1.9%	1.3%	1.3%	1.8% ⑧ その他
2.4%	0.5%	0.8%	1.2%	1.7%	1.2%	1.5% ⑨ 記入ミス・無答

- ・英語、数学、国語、地理歴史、理科の順番で、英語を不得意とする者の割合が調査以来初めて数学を上回った。
- ・数学は、前年度より3.0ポイント減少、国語、地理歴史、理科、英語は前年度よりそれぞれ0.9、0.2、0.8、2.0ポイント増加
- ・英語及び数学は、前年度と同様に不得意が得意を大きく上回り、国語、公民、理科については得意が不得意を上回っている。
- 英語または数学を不得意と感じている生徒を合わせると約6割にのぼることから、それらの生徒に対し基礎・基本の定着を目的とした「学び直し」を指導計画に位置付けるとともに、学習習慣確立に向けた支援を工夫する必要がある。

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
15.2%	32.8%	27.1%	13.9%	16.1%	22.9%	23.1% ① ほとんど毎日出ている。
43.1%	44.5%	38.8%	41.4%	35.9%	40.5%	36.9% ② 週に2~3回出ている。
36.4%	19.5%	28.9%	37.1%	37.3%	30.4%	32.1% ③ 週に1回ぐらい出ている。
4.8%	3.1%	4.9%	7.4%	10.2%	5.8%	7.7% ④ ほとんど出ていない。
0.5%	0.1%	0.3%	0.2%	0.5%	0.4%	0.2% ⑤ 記入ミス・無答

- ・①~③を合わせた「週あたり1回以上は宿題・課題が出される」割合が前年度より1.7ポイント増加
- ・④の「ほとんど宿題が出されない」割合は5.8%で、前年度より1.9ポイント減少
- 家庭学習習慣確立に向けて、宿題・課題が効果的に活用されていることが窺える。

Q8 学校からどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストを含む)がありますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
10.1%	20.5%	5.0%	9.6%	6.3%	10.1%	13.3% ① ほとんど毎日ある。
31.3%	29.3%	44.3%	34.9%	35.5%	36.4%	35.9% ② 週に2~3回ある。
41.2%	31.1%	37.4%	36.7%	31.8%	35.3%	33.9% ③ 週に1回ぐらいある。
17.0%	18.9%	13.1%	18.7%	25.9%	18.0%	16.7% ④ ほとんどない。
0.4%	0.2%	0.2%	0.1%	0.5%	0.2%	0.2% ⑤ 記入ミス・無答

- ・①~③を合わせた「週あたり1回以上テストが実施される」割合が前年度より1.3ポイント減少
- ・④の「ほとんどテストが実施されない」割合は1.3ポイント増加
- 前年度小テストの活用率は大幅に上昇したが、今年度はやや減少しており、今後も生徒の理解度を計画的に調査し、学習内容の定着を図るためにも、小テストの活用を推進していく必要がある。

Q9 あなたが受けた授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
41.1%	34.9%	34.3%	41.3%	38.0%	37.0%	37.3% ① 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
5.5%	7.7%	7.4%	5.8%	5.9%	6.7%	7.5% ② 発展的な内容まで教えてくれる授業
33.7%	40.3%	41.1%	34.0%	35.7%	38.0%	37.3% ③ 興味や関心をもてるような授業
12.4%	12.8%	13.3%	13.1%	14.0%	13.2%	13.2% ④ 進路希望達成につながる授業
6.8%	4.2%	3.7%	5.7%	6.1%	4.9%	4.4% ⑤ 資格取得につながる授業
0.5%	0.1%	0.2%	0.1%	0.3%	0.2%	0.3% ⑥ 記入ミス・無答

- ・③の「興味・関心をもてる授業」に続き、①の「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」を望む割合が高い。
- ・生徒は、学ぶ喜びや学ぶ意義が実感できる授業を望んでいる。

○ 生徒の期待に応える授業実現のためにも、基礎・基本を定着させながら、学習意欲が向上するような授業内容や授業形態について、創意工夫を凝らした取組が今後も必要である。

Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
27.2%	20.6%	18.2%	21.2%	27.9%	21.8%	23.5% ① 全く、またはほとんどしない。
15.3%	11.1%	11.1%	13.7%	12.6%	12.3%	12.4% ② 30分より少ない。
19.2%	18.4%	18.3%	19.8%	16.9%	18.5%	19.1% ③ 30分～
24.0%	28.6%	30.6%	30.8%	28.3%	29.1%	26.7% ④ 1時間～
10.5%	16.8%	17.4%	11.6%	10.5%	14.4%	14.1% ⑤ 2時間～
2.7%	3.6%	3.5%	2.1%	2.9%	3.1%	3.1% ⑥ 3時間～
0.3%	0.6%	0.6%	0.3%	0.6%	0.5%	0.5% ⑦ 4時間～
0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%	0.2% ⑧ 5時間以上
0.7%	0.2%	0.1%	0.4%	0.1%	0.2%	0.4% ⑨ 記入ミス・無答

- ・④～⑧の「1時間以上」は47.2%で、前年度より2.6ポイント増加
- ・⑤～⑧の「2時間以上」の家庭学習にしっかり取り組んでいる層の割合は18.1%で、前年度より0.2ポイント増加
- ・①の「全く、またはほとんどしない」は、前年度より1.7ポイント減少

○ 平日の家庭学習時間は増加傾向が続いているが、本県の中学3年時点での調査(平成22年度全国学力・学習状況調査)では、平日に「1時間以上」学習している者が63.7%であったことを考えると、高校入学時から家庭学習習慣の定着に向けた取組の工夫と継続的な指導が必要である。

Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
24.5%	19.2%	14.3%	21.0%	27.1%	19.8%	21.5% ① 全く、またはほとんどしない。
12.8%	8.0%	7.6%	11.4%	10.2%	9.4%	9.5% ② 30分より少ない。
14.4%	10.8%	10.7%	14.3%	11.7%	11.9%	12.4% ③ 30分～
23.6%	19.3%	20.4%	22.9%	19.5%	20.8%	20.6% ④ 1時間～
15.1%	18.8%	21.6%	17.8%	17.3%	18.9%	18.8% ⑤ 2時間～
6.6%	13.9%	15.1%	8.6%	8.8%	11.7%	10.0% ⑥ 3時間～
1.8%	5.6%	5.9%	2.3%	2.9%	4.3%	4.0% ⑦ 4時間～
0.5%	2.8%	2.7%	0.9%	1.2%	1.9%	1.8% ⑧ 5時間～
0.3%	1.2%	1.0%	0.6%	0.5%	0.8%	0.8% ⑨ 6時間～
0.1%	0.4%	0.6%	0.0%	0.3%	0.3%	0.4% ⑩ 7時間以上
0.3%	0.0%	0.1%	0.2%	0.5%	0.2%	0.2% ⑪ 記入ミス・無答

- ・①の「全く、またはほとんどしない」は前年度より1.7ポイント減少し、調査以来初めて20%を下回った。
- ・⑤～⑩の「2時間以上」は37.9%で、前年度より2.1ポイント増加

○ 各学校における「週末課題」等の取組の結果、休日の家庭学習時間が増加傾向にあり、今後も週末の家庭学習習慣の定着に向けたさらなる取組により、学習習慣確立への効果が期待できる。

Q12 家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
12.9%	25.1%	23.6%	18.0%	17.4%	20.8%	20.5% ① ほぼ毎日している。
6.6%	4.9%	4.5%	5.7%	4.4%	5.0%	5.7% ② 主に平日にしている。
9.8%	8.2%	10.3%	10.4%	8.5%	9.5%	8.4% ③ 主に休日にしている。
14.1%	10.8%	9.9%	12.0%	14.2%	11.7%	11.7% ④ 主に定期考査前にしている。
8.1%	7.8%	8.9%	8.7%	7.4%	8.3%	7.9% ⑤ 主に宿題・課題のあるときにしている。
23.0%	25.5%	25.7%	22.7%	23.1%	24.4%	22.9% ⑥ 主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
1.2%	1.1%	1.2%	1.2%	0.9%	1.1%	1.3% ⑦ 主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
13.5%	10.3%	9.9%	13.7%	14.0%	11.7%	12.9% ⑧ 気が向いたときにしている。
9.5%	5.6%	5.0%	6.8%	8.9%	6.5%	7.6% ⑨ 家庭学習はほとんどしない。
0.8%	0.6%	0.7%	0.5%	0.8%	0.7%	0.8% ⑩ その他
0.5%	0.1%	0.3%	0.3%	0.4%	0.3%	0.3% ⑪ 記入ミス・無答

- ・①の「ほぼ毎日している」者の割合は、前年度より0.3ポイント増加
- ・⑨の「家庭学習はほとんどしない」者の割合は、前年度より1.1ポイント減少
- ・④～⑥の自発的な学習となっていない者は44.4%と依然として多い。

○ 授業を中心とした学習計画はもとより、長期的な学習計画に従って継続的に学習する姿勢を身に付けさせていくためにも、家庭と連携した学習環境整備と学習習慣確立のための取組が必要である。

Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
6.1%	3.1%	3.9%	8.2%	4.1%	4.8%	4.6% ① 国語
5.7%	2.7%	4.0%	5.6%	4.6%	4.3%	4.1% ② 地理歴史
1.9%	0.8%	1.7%	1.6%	1.8%	1.5%	1.4% ③ 公民
35.9%	53.5%	47.5%	42.7%	39.7%	45.5%	46.5% ④ 数学
6.6%	5.6%	4.5%	6.4%	7.9%	5.9%	5.3% ⑤ 理科
18.1%	22.1%	27.4%	19.5%	22.7%	23.0%	23.5% ⑥ 英語
16.3%	7.6%	5.3%	7.5%	11.5%	8.4%	7.3% ⑦ 専門教科
8.3%	4.4%	5.5%	8.0%	7.1%	6.2%	7.0% ⑧ その他
1.1%	0.2%	0.2%	0.5%	0.6%	0.4%	0.3% ⑨ 記入ミス・無答

・前年度同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる者の割合が高い。
 ○ Q6の不得意教科において、数学、英語という回答が最も多いことから、上級生から数学、英語の学習方法について学ぶ機会を設定するなどの学習方法の指導の在り方を工夫する必要がある。

Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
15.4%	12.2%	13.7%	15.5%	14.6%	14.0%	14.5% ① 家庭学習の方法が分からない。
22.0%	26.3%	29.4%	24.2%	27.2%	26.6%	26.7% ② 家庭学習に集中できない。
15.4%	14.1%	14.2%	17.0%	16.4%	15.2%	15.2% ③ 学習の計画を立てても長続きしない。
21.0%	25.3%	23.2%	18.8%	15.6%	21.4%	20.7% ④ 家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.9%	6.9%	5.5%	6.7%	6.8%	6.4%	6.3% ⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
2.1%	3.2%	3.1%	2.4%	2.8%	2.8%	3.2% ⑥ その他
16.7%	12.0%	10.9%	15.1%	16.3%	13.4%	13.2% ⑦ 特に悩みはない。
0.5%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2% ⑧ 記入ミス・無答

・8割以上の者が何らかの悩みを抱えおり、その中でも「家庭学習に集中できない」、「家庭学習と部活動の両立が難しい」ことが悩みである者の割合が高い。
 ・④の「家庭学習と部活動の両立が難しい」が前年度より0.7ポイントの増加
 ○ 前年度も同様の結果であったが、「学習記録簿」等を活用し、家庭での学習状況を把握するとともに、個人面談等で家庭学習の集中を阻害する要因を確認し、家庭学習に集中できる環境づくりを生徒及び保護者に考えてもらうなど、家庭との連携を進めていく必要がある。また、部活動と両立できる環境づくりを各学校が工夫するとともに、両立するための工夫について、上級生による相談会を設定するなど、「部活動との両立の仕方」を考え工夫させていく指導も必要と思われる。

Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
73.6%	81.3%	79.7%	73.8%	73.4%	77.3%	77.4% ① 必ずとる。
15.7%	11.8%	12.8%	15.5%	15.2%	13.8%	13.4% ② たいていとる。
6.1%	3.8%	4.4%	6.0%	6.7%	5.1%	5.4% ③ とらないことが多い。
4.2%	3.0%	3.0%	4.4%	4.5%	3.6%	3.7% ④ 全く、または、ほとんどとらない。
0.4%	0.1%	0.1%	0.3%	0.2%	0.2%	0.1% ⑤ 記入ミス・無答

・①の学校に行く前に「朝食を必ずとる」者が77.3%となっているが、本県の中学3年時点での調査（平成22年度全国学力・学習状況調査）では84.8%であり、高校に入学してから減少している。
 ・③④の朝食をとる習慣のない者の割合は8.7%で、前年度より0.4ポイント減少
 ○ 全体的に、「朝食を必ずとる」者の学力調査の正答率が高く、生活習慣についての指導も学力向上に向けて必要である。

Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
5.1%	15.7%	13.1%	8.0%	6.4%	10.8%	9.8% ① 家庭学習
21.5%	18.6%	18.9%	21.5%	18.9%	19.6%	19.7% ② テレビやビデオ
16.8%	15.5%	14.2%	17.8%	16.4%	15.8%	12.4% ③ ゲームやインターネット ※H22は「③ ゲームやパソコン」
19.4%	14.1%	16.3%	19.8%	22.3%	17.8%	20.5% ④ 電話やメール
2.8%	3.6%	3.4%	3.4%	4.7%	3.6%	3.9% ⑤ 読書
16.4%	14.2%	14.1%	15.1%	16.4%	14.9%	16.3% ⑥ 自分の趣味(③, ⑤を除く)
4.5%	5.3%	6.2%	3.8%	4.3%	5.1%	4.5% ⑦ 家族との会話
1.3%	1.1%	1.4%	1.6%	1.4%	1.4%	1.3% ⑧ 手伝い
11.5%	11.7%	12.2%	8.4%	8.7%	10.8%	11.4% ⑨ その他
0.7%	0.2%	0.2%	0.6%	0.5%	0.2%	0.2% ⑩ 記入ミス・無答

・①の「家庭学習」は前年度より1.0ポイント増加
 ・②の「テレビやビデオ」、③の「ゲームやパソコン」、④の「電話やメール」、⑥の「自分の趣味」の時間が多く、この4項目を合わせると68.1%で、このことがQ14の「家庭学習に集中できない」に影響していると考えられる。
 ・選択項目の変更から、前年度まで④の「電話やメール」に含まれていたと思われる携帯電話によるインターネット使用の割合分、③の「ゲームやインターネット」が増加
 ○ 携帯電話の多機能化によって、携帯電話の使用時間が増えており、家庭学習時間を確保させていくためには、学校と家庭とのさらなる連携が必要である。

Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオをみますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
8.1%	9.3%	8.8%	7.9%	8.2%	8.6%	8.8% ① 全く、またはほとんど見ない。
8.4%	10.5%	10.3%	7.6%	7.8%	9.2%	9.2% ② 30分より少ない。
10.6%	16.0%	16.1%	11.8%	10.6%	13.8%	13.5% ③ 30分～
26.0%	29.2%	29.9%	25.3%	23.8%	27.5%	26.3% ④ 1時間～
22.2%	19.7%	20.3%	21.0%	23.7%	21.1%	21.3% ⑤ 2時間～
12.8%	9.3%	9.4%	15.3%	13.7%	11.5%	12.2% ⑥ 3時間～
5.8%	3.4%	3.1%	5.5%	6.5%	4.5%	4.8% ⑦ 4時間～
5.5%	2.3%	2.0%	4.9%	5.0%	3.5%	3.6% ⑧ 5時間以上
0.6%	0.3%	0.1%	0.7%	0.7%	0.3%	0.3% ⑨ 記入ミス・無答

・⑥～⑧のテレビやビデオを3時間以上見ている者は、前年度より1.1ポイント減少しているが、まだ約20%もいる。
○ 長時間のテレビやビデオの視聴が「家庭学習に集中できない」という悩みの原因の一つになっていると考えられる。

Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。(※ H22は「ゲームやパソコン」)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
26.4%	29.7%	31.1%	26.4%	26.3%	28.7%	40.5% ① 全く、またはほとんどしない。
15.9%	17.2%	17.0%	13.6%	14.4%	15.9%	14.3% ② 30分より少ない。
14.8%	16.0%	15.7%	14.0%	13.1%	14.9%	13.1% ③ 30分～
19.4%	19.2%	18.3%	19.6%	19.6%	19.1%	16.2% ④ 1時間～
11.3%	10.5%	9.6%	13.4%	13.3%	11.3%	8.5% ⑤ 2時間～
7.0%	3.9%	4.8%	6.8%	7.1%	5.6%	4.1% ⑥ 3時間～
2.0%	1.3%	1.7%	3.0%	2.6%	2.0%	1.3% ⑦ 4時間～
2.6%	2.0%	1.6%	2.8%	3.2%	2.3%	1.7% ⑧ 5時間以上
0.6%	0.2%	0.2%	0.4%	0.4%	0.2%	0.3% ⑨ 記入ミス・無答

・質問事項の変更から、①の「全く、またはほとんどしない」が前年度より11.8ポイント減少しているが、Q19において「電話やメール」の使用時間が大きく変わっていないことから、パソコンだけでなく携帯電話によるインターネット利用が多いことが窺える。このため、⑥～⑧の「3時間以上」の者も、前年度よりも2.8ポイント増加している。
○ 携帯電話によるインターネット利用については、家庭学習に影響の少ない利用の仕方を指導項目に含めていく必要がある。

Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
10.8%	12.3%	11.6%	12.6%	10.9%	11.8%	11.9% ① 全く、またはほとんどしない。
22.1%	28.6%	27.2%	24.7%	20.6%	25.4%	23.3% ② 30分より少ない。
15.6%	19.9%	19.1%	14.9%	15.2%	17.5%	16.2% ③ 30分～
19.8%	15.9%	18.2%	17.8%	19.1%	17.9%	17.4% ④ 1時間～
12.8%	10.5%	11.5%	11.9%	13.7%	11.8%	12.2% ⑤ 2時間～
8.6%	5.8%	6.1%	8.2%	9.0%	7.1%	8.4% ⑥ 3時間～
4.1%	2.8%	2.5%	4.0%	4.1%	3.3%	4.1% ⑦ 4時間～
5.7%	3.9%	3.6%	5.5%	6.9%	4.8%	6.3% ⑧ 5時間以上
0.5%	0.3%	0.2%	0.4%	0.5%	0.4%	0.2% ⑨ 記入ミス・無答

・⑤～⑧の2時間以上電話やメールを行っている者は、前年度より4.0ポイント減少しているが、まだ27.0%もいる。
○ 電話やメールは、相手の時間も拘束することから、使用する際のマナーも含めて、家庭と連携を取りながら指導していく必要がある。

Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
49.7%	59.0%	57.4%	48.4%	53.1%	54.6%	54.2% ① 全く、またはほとんどしない。
23.0%	18.7%	19.6%	25.0%	18.7%	20.6%	20.4% ② 30分より少ない。
11.3%	10.8%	11.8%	12.8%	12.0%	11.7%	12.0% ③ 30分～
9.5%	7.2%	7.4%	8.3%	9.0%	8.0%	8.1% ④ 1時間～
3.0%	2.2%	2.3%	2.8%	3.8%	2.7%	3.0% ⑤ 2時間～
2.1%	1.2%	1.0%	1.5%	1.8%	1.4%	1.3% ⑥ 3時間～
0.4%	0.4%	0.2%	0.5%	0.4%	0.4%	0.4% ⑦ 4時間～
0.6%	0.4%	0.2%	0.4%	0.8%	0.4%	0.5% ⑧ 5時間以上
0.4%	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%	0.2%	0.1% ⑨ 記入ミス・無答

・半数以上の者が「全く、またはほとんどしない」状態で、平日の読書はあまり習慣化されていない。
 ・Q17～Q19の「テレビやビデオ」、「ゲームやインターネット」、「電話やメール」にかけている時間に比べて、「読書」にかかる時間は極端に短くなっている。
○ 朝読書を実施している学校が増加しているものの、読解力を育成していくためには、読書の楽しさや意義等を伝え、家庭や学校において適量の読書を習慣化していく指導が必要である。

Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
2.7%	9.1%	8.3%	4.6%	4.2%	6.6%
20.6%	19.4%	18.5%	19.5%	16.6%	18.8%
19.1%	18.6%	17.4%	21.1%	18.1%	18.7%
12.7%	7.9%	9.2%	13.2%	15.2%	11.0%
2.5%	2.2%	2.8%	2.4%	3.6%	2.7%
22.7%	22.5%	22.1%	21.9%	23.9%	22.5%
3.7%	3.3%	3.8%	2.4%	2.7%	3.2%
2.4%	1.3%	1.4%	1.9%	1.8%	1.6%
12.8%	15.5%	16.2%	12.3%	13.2%	14.5%
0.8%	0.2%	0.3%	0.7%	0.7%	0.4%

H22	
6.5%	① 家庭学習
18.8%	② テレビやビデオ
15.6%	③ ゲームやインターネット ※ H22は「③ ゲームやパソコン」
13.2%	④ 電話やメール
2.7%	⑥ 読書
22.4%	⑤ 自分の趣味
3.1%	⑦ 家族との対話
1.5%	⑧ 手伝い
15.8%	⑨ その他
0.4%	⑩ 記入ミス・無答

- ・平日に比べて「自分の趣味」の割合が高くなっており、次いで「テレビやビデオ」の順となっている。
- ・選択項目の変更から、前年度まで④の「電話やメール」に含まれていたと思われる携帯電話によるインターネット使用の割合分、③の「ゲームやインターネット」が増加

Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
4.8%	4.6%	5.0%	3.9%	6.7%	5.0%
4.4%	3.8%	4.0%	4.0%	4.0%	4.0%
4.8%	6.2%	6.8%	5.2%	5.2%	5.9%
14.1%	17.9%	19.3%	15.5%	13.3%	16.8%
20.4%	25.0%	24.1%	20.4%	20.0%	22.6%
20.6%	19.2%	18.7%	18.2%	19.8%	19.1%
12.2%	10.7%	10.3%	12.1%	11.6%	11.1%
8.3%	6.2%	6.3%	9.1%	7.8%	7.2%
3.9%	2.8%	2.1%	4.4%	3.6%	3.1%
5.8%	3.5%	3.1%	6.4%	6.8%	4.7%
0.7%	0.1%	0.3%	0.8%	1.2%	0.5%

H22	
5.7%	① 全く、またはほとんど見ない。
3.9%	② 30分より少ない。
5.8%	③ 30分～
16.6%	④ 1時間～
21.9%	⑤ 2時間～
18.5%	⑥ 3時間～
11.2%	⑦ 4時間～
8.0%	⑧ 5時間～
3.3%	⑨ 6時間～
4.6%	⑩ 7時間以上
0.5%	⑪ 記入ミス・無答

- ・2時間から3時間見ている者が最も多く22.6%であり、次いで3時間から4時間見ているものが多く19.1%である。
- ・3時間以上見ている者は、前年度よりは0.4ポイント減少しているものの、依然として45.2%と多い状況である。
- 平日に長時間の学習時間を確保することは難しいため、休日を上手に活用できるかが学習時間確保に大きく影響することから、休日の時間を有効的・計画的に活用させる指導が必要である。

Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやインターネットをしますか。(※ H22は「ゲームやパソコン」)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
20.2%	21.1%	22.2%	20.7%	22.1%	21.5%
11.9%	11.5%	12.0%	9.9%	9.7%	11.1%
9.3%	10.6%	12.5%	9.3%	9.0%	10.6%
19.5%	21.0%	18.8%	18.1%	18.3%	19.1%
13.9%	15.9%	14.8%	15.5%	15.7%	15.3%
10.2%	9.3%	9.6%	10.9%	10.5%	10.0%
5.0%	4.6%	3.9%	5.1%	5.6%	4.7%
4.0%	2.4%	2.9%	4.0%	3.7%	3.2%
1.5%	1.1%	1.0%	1.8%	1.4%	1.3%
3.7%	2.2%	2.1%	3.9%	3.8%	2.9%
0.8%	0.3%	0.2%	0.8%	0.2%	0.3%

H22	
32.4%	① 全く、またはほとんどしない。
11.1%	② 30分より少ない。
9.8%	③ 30分～
16.7%	④ 1時間～
13.0%	⑤ 2時間～
7.8%	⑥ 3時間～
3.4%	⑦ 4時間～
2.4%	⑧ 5時間～
0.9%	⑨ 6時間～
2.2%	⑩ 7時間以上
0.3%	⑪ 記入ミス・無答

- ・質問事項の変更から、①の「全く、またはほとんどしない」が前年度より10.9ポイント減少しているが、Q24において「電話やメール」の使用時間が大きく変わっていないことから、パソコンだけでなく携帯電話によるインターネット利用が多いことが窺える。このため、⑥～⑩の「3時間以上」の者も、前年度よりも5.4ポイント増加している。

Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体
10.1%	11.4%	10.7%	10.8%	10.0%	10.7%
18.6%	23.1%	21.8%	19.7%	15.6%	20.3%
13.4%	17.3%	16.4%	13.6%	14.0%	15.4%
18.3%	17.5%	18.6%	16.6%	17.7%	17.8%
12.4%	11.2%	12.1%	12.1%	12.7%	12.0%
9.3%	7.9%	8.8%	9.7%	10.9%	9.2%
6.6%	4.1%	4.1%	5.6%	5.9%	4.9%
4.3%	3.2%	3.1%	4.3%	4.8%	3.8%
2.1%	1.4%	1.2%	1.9%	1.6%	1.5%
4.2%	2.6%	2.9%	5.0%	5.9%	3.9%
0.7%	0.3%	0.3%	0.7%	0.9%	0.5%

H22	
10.9%	① 全く、またはほとんどしない。
18.2%	② 30分より少ない。
14.2%	③ 30分～
16.5%	④ 1時間～
12.7%	⑤ 2時間～
9.8%	⑥ 3時間～
5.4%	⑦ 4時間～
4.5%	⑧ 5時間～
2.0%	⑨ 6時間～
5.5%	⑩ 7時間以上
0.3%	⑪ 記入ミス・無答

- ・⑥～⑩の「1日3時間以上」の長い時間を電話やメールで過ごしている者は、前年度よりも3.9ポイント減少しているものの、まだ23.3%いる。

Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H22
54.5%	58.5%	57.7%	53.2%	53.9%	56.1%	57.5% ① 全く、またはほとんどしない。
17.3%	14.8%	15.3%	16.8%	14.0%	15.5%	14.1% ② 30分より少ない。
9.2%	10.0%	9.6%	10.8%	10.9%	10.1%	9.8% ③ 30分～
7.9%	8.4%	9.2%	9.8%	10.2%	9.2%	9.3% ④ 1時間～
6.1%	4.3%	4.5%	4.4%	5.4%	4.7%	4.7% ⑤ 2時間～
2.9%	2.1%	2.1%	2.2%	2.7%	2.3%	2.4% ⑥ 3時間～
0.6%	0.7%	0.6%	0.9%	0.9%	0.7%	0.9% ⑦ 4時間～
0.5%	0.5%	0.4%	0.7%	0.6%	0.5%	0.5% ⑧ 5時間～
0.4%	0.2%	0.2%	0.4%	0.4%	0.3%	0.2% ⑨ 6時間～
0.5%	0.4%	0.3%	0.4%	0.6%	0.4%	0.4% ⑩ 7時間以上
0.1%	0.1%	0.1%	0.4%	0.4%	0.2%	0.2% ⑪ 記入ミス・無答

・①の「全く、またはほとんどしない」者の割合が、平日での割合をさらに上回り、56.1%と高い割合になっている。
 ○ 多くの生徒が、平日に読書の時間を確保することが難しい状況にあることも窺えることから、休日を上手に活用するなど、計画的な生活習慣を確立させる指導が必要である。

まとめ

<学習意欲の向上>

- ・生徒の期待している授業は、「興味や関心がもてるような授業」、「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」が多い。
- ・生徒の学習する目的は、「将来社会に出てから必要とされる力を身に付けるため」、「進路希望の実現のため」が主である。

このことに対し、

- ・「理解できない授業が半数以上」という生徒の割合は年々減少してきているものの、まだ半数近くもいる。
- ・「授業で分からないことがあってもそのまましておく」生徒の割合は減少しているものの約14%もいる。
- ・学習目的が「成績を上げたい」とか「特に考えていない」など、自分なりの確固たる目標や意識を持たない生徒が半数以上いる。
- ・進路希望の達成について、「卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいい」、「何とかなるだろう」と思っている生徒が約30%もいる。

○ 学習意欲を向上させるためには、学ぶ楽しさ・学ぶ意義や有用性を実感させ、興味・関心を高め、実感を伴った理解が得られる授業づくりが求められている。

○ 進路指導においては、単にその意識を持たせるだけではなく、その方向に進むに当たって今後自分に必要となる力や実現させるための具体的な目標について、さらに踏み込んで考えさせる指導が必要と思われる。

<学習習慣の確立>

- ・家庭学習時間は年々増加しているものの、まだ十分な状況とは言えない。家庭学習をする上の悩みとして、「集中できない」ことをあげる生徒が一番多く、「電話やメール」、「ゲームやインターネット」、「テレビやビデオ」などが、その要因としてあげられる。また、「部活動との両立」を悩みとしてあげる生徒も約20%と多い。
- ・高校卒業後の進路として4年制大学を希望する生徒が約45%いるが、平日の家庭学習時間が「2時間以上」である生徒の割合は約18%に留まっている。また、学習時間が「30分未満」である生徒の割合は、年々減少してきているものの約34%もいる。
- ・調査前や宿題・課題が出されたときにだけ学習するような、自発的な学習となっていない生徒が約45%もいる。

○ 入学時からの家庭学習習慣の定着に向けて、「学習記録簿」等を活用するなど、家庭での学習状況を把握するとともに、個人面談等を通して、家庭学習の集中を阻害する要因を確認し、家庭学習に集中できる環境づくりを学校から家庭に呼びかけていくことが必要である。

○ 家庭学習と部活動とを両立できる環境づくりを各学校が工夫するとともに、「部活動との両立の仕方」を考え工夫させていく指導が必要と思われる。

以上のことから、生徒自らが社会で果たすべき役割を見据え、主体的に学ぶ姿勢を育てていくためには、キャリア教育等において、体験学習やインターンシップ等を効果的に活用し、志をもって進路希望実現に向けた具体的な目標意識が持てるような適切な進路指導がなお一層求められる。また、学校においては、家庭との連携を一層深め、学習環境の整備を推進し、家庭学習習慣の定着に向けた指導をさらに工夫していくとともに、「興味関心を持てる授業」、「分かる授業」、「考えさせる授業」を目標とした授業改善にさらに取り組み、学習意欲と学力の向上に向けた生徒へのきめ細かな指導が求められている。